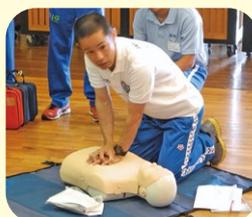


平成26年度

B&G財団 活動実績報告書



平成26年度 B & G 財団実施事業一覧

B&G財団は、青い海（ブルーシー）と緑の大地（グリーンランド）を活動の場として、海洋性レクリエーションをはじめとする自然体験活動などを通じて、次代を担う青少年の健全育成と幼児から高齢者まで国民の皆様の“心とからだの健康づくり”を推進しています。

★日本財団助成事業

青少年の健全育成に関する事業

自然体験・環境教育活動

- ★ **海を守る植樹教育**
植樹リーダー研修会の開催
育苗の支援
植樹の支援
- ★ **自然に親しむための「海や川」の安全教育**
水辺の安全教室の推進

大会・交流活動

- ★ **B&G全国ジュニア水泳競技大会**
東京辰巳国際水泳場
- ★ **B&G杯全国少年少女カヌー大会**
精進湖（山梨県富士河口湖町）
- ★ **B&G OP級ヨット大会**
(東日本大会)
豊田自動織機 海陽ヨットハーバー
(愛知県蒲郡市)
(西日本大会)
北浜ヨットハーバー
(大分県別府市)

助成・活動支援

- ★ **海洋センター及び海洋クラブの施設整備**
通常修繕
災害復旧修繕
舟艇器材配備
- ★ **海洋クラブの登録等**
- ★ **「東日本大震災」施設復旧に対する災害復旧修繕及び舟艇配備**

幼児から高齢者までの心身の健康づくりに関する事業

- 地域への指導員等の斡旋および情報の提供**
幼児の心身の健康づくりを目指した運動プログラム
高齢者の健康づくりを目指した運動プログラム

指導員の養成に関する事業

- ★ **海洋性レクリエーション指導員の養成と活用**
アドバンスト・インストラクター養成研修（沖縄県）
アクア・インストラクター養成研修（沖縄県）
指導員の資質向上研修会
・指導員研修会
・レベルアップ研修会
- ★ **指導者会の登録と活動促進**
ブロック責任者会議
正副会長会議

ネットワーク構築と調査研究事業

ネットワーク構築

- 情報ネットワークに係る活動
・情報ネットワークの強化
- ★ **情報ネットワークシステムを活用した情報共有の推進**
- ★ **人的ネットワークの推進**
・「第7回B&G全国サミット」
・「第11回B&G全国教育長会議」
・自治体からの職員派遣研修

調査研究等

- ★ **時代に即した事業展開のための調査研究**
- ★ **地域の特色ある事業への協力**
事業成果の分析・評価

広報活動

- 「B&G広報大賞」の実施
広報誌「アンドリーニュース」の発行
インターネットを活用した情報の発信・提供
- ★ **地域情報発信強化のための人材育成**

青少年の健全育成に関する事業	12
1. 自然体験・環境教育活動.....	12
(1) 海を守る植樹教育.....	12
(2) 自然に親しむための「海や川の安全教育」の推進.....	15
2. 大会・交流活動.....	17
(1) B&G全国スポーツ大会.....	17
3. 助成・活動支援.....	22
(1) 地域海洋センター及び海洋クラブの施設整備.....	22
(2) 海洋クラブ登録等.....	26
(3) その他支援.....	28
(4) B&Gクリーンフェスティバル.....	28
指導者の養成に関する事業	29
1. 海洋性レクリエーション指導員の養成と活用.....	29
(1) アドバンスト・インストラクターの養成.....	29
(2) アクア・インストラクターの養成.....	31
(3) リーダーおよびジュニアリーダー養成委託.....	34
2. 指導員の資質向上.....	34
(1) 指導員研修会.....	34
(2) レベルアップ研修会.....	36
3. B&G指導者会の登録と活動促進.....	37
(1) 地域指導者会の登録推進.....	37
(2) 第5回「B&G全国指導者会」ブロック責任者会議.....	38
(3) 「B&G全国指導者会」正副会長会議.....	38
(4) 周知活動.....	39
ネットワーク構築と調査研究事業	40
1. ネットワーク構築.....	40
(1) 情報ネットワークに係る活動.....	40
(2) 人的ネットワークを推進する会議等の実施.....	41
2. 調査研究等の活動.....	50
(1) 時代に即した事業展開のための調査研究.....	50
(2) 地域の特徴ある事業への協力.....	50
(3) 事業成果の分析・評価.....	50

3. 広報活動	51
(1) 広報活動	51
(2) インターネットを活用した情報の発信・提供	56
(3) 地域情報発信強化のための人材育成事業	56
海洋センター・海洋クラブの話題	59

海洋センターの運営・活動状況 60

1. 海洋センターの活動状況	60
2. 海洋センター評価	61
(1) 平成26年度「年間評価」(前年度対比)	62
(2) 海洋センター年間評価5カ年の推移	62
(3) 平成26年度「年間評価」(ブロック別傾向)	63
(4) 平成26年度「年間評価」(類型別)	66
3. 利用者人数	68
(1) 海洋センター利用者数(施設別傾向)	68
(2) 海洋センター利用者数(ブロック別傾向)	70
4. 利用者数の各種統計データ(詳細)	71
(1) 平成26年度 施設別・道府県別 年間利用者数(前年度比較)	71
(2) 平成26年度 海洋センター施設別利用者数(ベスト50)	72
(3) 海洋センター利用者数(利用形態別傾向)	73
(4) 海洋センター利用形態(ブロック別傾向)	74
(5) 海洋センター施設別・利用形態別利用人数(ベスト10)	76

海洋クラブの運営・活動状況 77

1. 海洋クラブの活動状況	77
(1) 海洋クラブ数	77
(2) 海洋クラブ員数	78
(3) 海洋クラブ活動人数	78
(4) 海洋クラブ活動日数	79
2. 海洋クラブ評価	79
平成27年度「海洋クラブ評価」(平成26年度実績)	80
3. 平成26年度 海洋クラブ活動人数(ベスト50)	82
4. 新規海洋クラブ紹介	83

参考資料	85
1. 海の日アンケート調査	85
2. B&G財団役員一覧	89
3. 平成26年度「地域海洋センター修繕助成」一覧	91
4. 平成26年度「舟艇等の追加・再配備」一覧	93
5. 平成26年度「地域の特色ある事業」一覧	95
6. 「B&G指導者会」県別一覧	96
7. 平成26年度「B&G全国大会」等参加一覧	99
8. 平成26年度 海洋センター現況調査地ほか	102
平成26年度 主な新聞等掲載記事	105

凡 例

本書における法人の略称は以下のとおり

公益財団法人：(公財)

公益社団法人：(公社)

一般財団法人：(一財)

一般社団法人：(一社)

特定非営利活動法人：NPO法人

第7回「B&G全国サミット」(日本財団助成事業)

(詳細は41頁)

B&G海洋センターの更なる活用で地域を元気に!!

**全国367自治体から 211人の首長をはじめ
副首長・教育長など過去最高の769人が出席!**

平成27年1月28日(水)
笹川記念会館(東京都港区)

海洋センター所在390自治体の94%にあたる367市町村の首長や教育長などが出席。今後も「地域の元気」を促進し、災害時にはB&Gネットワークの活用が提案されるとともに、引き続き“共同宣言”を推進していくことが確認された。



特別基調講演

「ハンセン病を考える
日本と世界の今」

日本財団 笹川 陽平 会長



「病気を制圧することができても、今なお残る社会的な偏見や差別を無くさなくてはなりません」と差別撤廃の必要性を語るとともに、日本再生に向けた“活力ある地域づくり”を出席首長等に呼びかけた。

主催者挨拶

B&G財団 会長 梶田 功

「これからのB&G財団は、青少年の健全育成もさることながら、地域を元気にする新しい事業にも積極的に取り組んでまいります」と今後の財団事業に対する理解と協力を呼びかけた。



海洋センター施設修繕助成(日本財団助成事業)

(詳細は22頁)

**平成26年度は34海洋センター35施設に対して
総額 5億3,990万円 を交付**

★★★ 全国24ヵ所で「修繕助成決定書授与式」開催 ★★★

通常修繕助成金額が1,000万円を超える22自治体および、災害復旧修繕助成金が100万円以上の2自治体に対して決定書授与式を実施した。



平成26年5月22日、和歌山県広川町B&G海洋センターの決定書授与式を実施。B&G財団梶田功会長(左)から西岡利記町長に決定書が手渡された

岩手県洋野町種市B&G海洋センターの艇庫再建・オープン!!

東日本大震災により全壊した岩手県洋野町種市B&G海洋センター(艇庫)が平成25年度の災害復旧修繕助成を受けて再建され、平成26年7月5日に再オープンした。

式典には同町の水上信宏町長をはじめとする関係者ほか109人の子供たちが参加。式典後には「がんばろう東北! B&G海洋体験交流会」が開催され、子供たちは久しぶりのマリンスポーツを満喫した。



再建された艇庫でマリンスポーツを楽しんだ

第11回「B&G全国教育長会議」(日本財団助成事業)

(詳細は45頁)

尊い命を守るために ～事例から学ぶ防災教育～

全国44道府県から38人の教育長ほか78人が出席

44道府県連絡協議会を代表する教育長を対象に開催。命を守る防災教育をテーマとする基調講演をはじめ、自治体での学校防災教育や自主防災組織などの取り組み事例、NPO法人からの発表などを実施。最後に6項目にわたる“提言”が採択された。



平成26年11月26日(水)
27日(木)
日本財団ビル(東京都港区)

主催者挨拶

B&G財団 会長 梶田 功



「自然災害が多発する中、自分の命を自分で守る“自助意識”を養うことが大切です。万が一の時の対処について皆様とともに学び、実り多い会議にしたい」



基調講演:「命を守る主体的姿勢を育む防災教育」
～釜石市津波防災教育に学ぶ～

群馬大学大学院理工学府 教授
片田 敏孝 氏

「津波を常に恐れている必要はなく、その時だけ“避難三原則”に則ってしっかりと避難することが、その地に住まう人の作法です」

「海洋センターブロック連絡協議会総会」(日本財団助成事業)

(詳細は48頁)

関東ブロックを皮切りに全国10ブロックで開催

首長74人、副首長25人、教育長82人など海洋センター・クラブ関係者812人が出席

この総会は、海洋センター・海洋クラブの相互連携などを目的に組織されている全国のブロック連絡協議会が主催し毎年開催。首長や教育長、海洋センター責任者が集い、各ブロックの事業計画や予算が審議議決されたほか、施設別利用者ベスト30などの表彰も行われた。



全国最多の146人が出席した海洋センター数最大の「中部ブロック総会」

平成26年4月21日～5月29日(全国10ブロック)



総会では開催地の首長が挨拶。四国ブロック総会では徳島市の原 秀樹市長が挨拶した



「B&G全国教育長会議」の内容を報告する、北海道砂川市の井上 克也教育長。各ブロックで同様の報告が行われた



北陸ブロックでは、3海洋センターに「海を守る植樹教育事業」の実施支援決定書が授与された



北九州ブロックでは「海洋センター施設別利用者ベスト30」温水・加温上屋付プールで3海洋センターが表彰された



全国指導者会から各ブロックで顕著な活動を行った指導者会に会長賞が渡された(写真:東北ブロック)

「アドバンスト／アクア・インストラクター養成研修」 (日本財団助成事業)

(詳細は29頁)

新たに84人の指導者が誕生!!

地域に愛される指導者を目指して、青少年育成・健康づくりの知識と技術を習得

全国の海洋センター（自治体）から推薦された84人が、水泳やマリンスポーツをはじめ、安全教育から環境学習までの幅広い知識と指導技術を習得。“青少年健全育成”および“地域住民の健康づくり”など全国各地で「B&Gプラン」を推進する新たなB&G指導員が誕生した。

アドバンスト・インストラクター： 44人 平成26年5月30日～7月 3日(35日間)
アクア・インストラクター： 40人 平成26年5月30日～6月21日(23日間)



この研修は「環境保全活動・環境教育推進法」に基づく“人材認定事業”として、環境大臣と国土交通大臣から登録を受けている。

「指導員研修会」(日本財団助成事業)

(詳細は34頁)

最新の指導技術・ノウハウほか様々な情報を提供
「指導員研修」 「レベルアップ研修」 に323人が参加

「B&G指導員研修会」

全国160海洋センター・
1海洋クラブから 182人が参加



平成27年1月22日・23日
日本財団ビル2階会議室

— 実践で役立つ様々な講義・講演 —
基調講演

「夢を叶えるうえで大切なこと」
講義
「スポーツと人間形成」
「リスクマネジメント」事故事例と法的責任
「コーチングの基本」
「チームづくりと指導者の役割」

“B&G指導員”資格取得後の資質向上のための研修会を開催。平成26年度は「B&G指導員研修」「B&Gレベルアップ研修」に合計323人のB&G指導員が参加、最新の知識・情報、指導技術などを学んだ。

「B&Gレベルアップ研修会」

カヌー・ヨット・水泳から
幼児運動プログラム、
高齢者運動プログラムまで
5種類の研修会に141人が参加



カヌー



幼児プログラム



高齢者プログラム



ヨット

「海を守る植樹教育事業」(日本財団助成事業)

(詳細は12頁)

“海を守り、人の命を守る 森づくり”を推進

平成26年度は全国32カ所(30海洋センター・2海洋クラブ)で実施

この事業は、どんぐりから苗を育てて植樹する“体験型の環境学習”を通じて、日本の次代を担う子供たちに自然環境・防災教育を普及することが目的。「宮脇方式」と呼ばれる“その土地本来の樹木による森づくり”が特徴で、津波や地震・火災などの自然災害に強い“海と人の命を守る森づくり”を行う。



高知県津野町「植樹祭」

「植樹リーダー研修会」

～新たに30人の“植樹リーダー”が誕生!～

平成26年5月14日～16日
神奈川県平塚市



横浜国立大学名誉教授
(公財)地球環境戦略研究機関
国際生態学センター長
宮脇 昭氏



事業を導入する海洋センター・海洋クラブ
から30人が参加し様々なノウハウを学んだ



石川県七尾市「育苗活動」
どんぐりの蒔き付け

「地域の特色ある事業」(日本財団助成事業)

(詳細は50頁)

地域の活性化に向けた特色ある事業を支援

平成26年度は全32事業に814万円の共催金を交付

B&G財団では平成25年度から、全国の海洋センター・海洋クラブ、B&G指導員等のネットワークを活用し、地域の活性化につながる“特色ある事業”への支援を行っている。平成26年度は、全国のブロックおよび県連絡協議会や海洋クラブ、指導者会などが実施する全32事業に対し、8,148,752円の共催金を交付した。

近隣3町で夢の対決!

「B&G 秋のチャレンジデー」

北海道鷹栖町・愛別町・東神楽町

北海道中央部で同じ課題を持つ近郊3町が、農作業がひと段落する秋季に協働で「チャレンジデー」を独自開発。より多くの地域住民に対し健康増進・スポーツの機会を提供するとともに、自治体間の連携協力を深めた。



親子が食事づくりと防災を学ぶ!

「B&Gわくわくチャレンジin津野 食育&防災」

高知県津野町東津野B&G指導者会

津野町東津野B&G海洋センターで、親子が地元の食材を使った昼食づくりを楽しみながら、防災にも役立つロープワークや救急法(AED)などを体験した。



「B&G 全国ジュニア水泳競技大会」 (日本財団助成事業)

(詳細は17頁)



あこがれの「東京辰巳国際水泳場」で熱戦を展開
23道県から504人のジュニア選手が参加、5種目7つの大会新記録が誕生

平成26年8月2日

東京辰巳国際水泳場 (東京都江東区)

監督・選手・保護者など1,300人が来場

全国23道県73海洋センター
選手総数504人が参加

埼玉県が2連覇を達成!!



総合優勝：埼玉県
準優勝：千葉県 3位：兵庫県



アテネ・北京五輪
200m背泳ぎ銅メダ
リスト中村礼子氏
が模範泳法を披露

前日に交流会を開催



大会前日の公式練習終了後、選手がプールサイドに集合。チーム紹介やゲーム、中村礼子氏との記念撮影会などで交流を深めた。

「B&G杯 全国少年少女カヌー大会2014」 (日本財団助成事業)

(詳細は18頁)



小学生唯一のカヌー全国大会!!
23道府県から31チーム134人のジュニア選手が参加!

平成26年7月26日・27日

山梨県 富士河口湖町 精進湖

海洋センター・海洋クラブ
から10チーム51人が参加



カヌー体験会やチャリティーオークションも開催



カヌー体験会には、多くの親子や子供たちが参加



今年も“元氣復活事業”としてチャリティーオークションを実施



開会式で選手宣誓を行う、大岩歩夢 選手 (B&G神埼カヌークラブ) と小林綾乃 選手 (上九一色カヌークラブ)。大岩選手は男子5・6年生普及艇の部で優勝を果たした

「2014 B&G OP級ヨット大会」(日本財団助成事業)

(詳細は20頁)



初心者から上級者まで、ジュニアセーラーが熱戦を展開
東日本・西日本大会に18都府県から31クラブ184人が参加

国内最大級のOP級ヨット大会で、トップレベルの選手から初心者までのジュニア選手が参加し、熱戦を繰り広げた。本大会の上位2人には「2014年度 第46回全日本オプティミスト級セーリング選手権大会」への出場権が与えられた。



東日本大会
平成26年7月19日・20日
愛知県蒲郡市 豊田自動織機 海陽ヨットハーバー
10都府県16クラブ、91人が参加



西日本大会
平成26年7月20日・21日
大分県別府市 北浜ヨットハーバー
10県17クラブ、93人が参加



水難事故を防ぐ「水辺の安全教室」



初心者のCクラスは、波や風の穏やかな水面で、ヨットの楽しさを満喫した



“東日本大震災”復興支援チャリティ販売などの募金活動も実施

「2014 B&G広報大賞」

(詳細は51頁)

応募総数2,404件の中から広報大賞と優秀賞を決定
積極的な広報活動を実践している海洋センターや海洋クラブを表彰

11回目となる今回は、2,404件の応募の中から優秀賞として、5部門14センター、4クラブ、5人が受賞。その中から2014広報大賞に1カ所が選ばれた。

「2014B&G広報大賞」に輝いたのは
『兵庫県 香美町香住B&G海洋センター』(新聞の部)



第7回「B&G全国サミット」で表彰された香美町の 浜上勇人 町長(右)と岸ユキ 審査委員長(左)

日頃から新聞などのメディアと交流を深め、エッセイ風に事業を開発する「B&G徒然日記」の連載が「日本海新聞」で企画された。海洋センター職員が持ち回りで執筆に励み、連載を支えている点が高い評価につながった。



各分野の専門家により審査が行われた

受賞部門・受賞数

部門	優秀賞	大賞
「テレビの部」	3カ所	1カ所
「新聞の部」	5カ所	
「地域広報の部」	7カ所	
ケーブルテレビ 地域広報誌	(2カ所) (5カ所)	
「ホームページの部」	3カ所	—
「特派員の部」	5人	

※その他の特派員15人には「奨励賞」が贈られた

B&G全国指導者会 ブロック責任者会議 開催（日本財団助成事業）

（詳細は38頁）

未来を担う子供たちのために今後の活動を協議 防災教育・環境教育に関する研修会の実施を決議！

平成26年10月9日・10日、B&G財団会議室で「B&G全国指導者会ブロック責任者会議」が開催され、正副会長と10ブロックの責任者13人が出席。前年度の事業報告と決算、今後の事業方針などについて協議した。特に、今後各ブロックで防災や環境教育に関する研修会の実施を決議したほか、「平成26年度B&G全国指導者会 会長賞」の選考も行われ、10カ所の地域指導者会が選ばれた。



全国指導者会 会長 青森県南部町 工藤 祐直 町長（前列中央）
 〳 〳 副会長 徳島県阿南市 金久 博 氏（左から2人目）
 〳 〳 副会長 埼玉県久喜市 川島 正光 氏（左から4人目）

会長賞が決定した10カ所の指導者会

県名	指導者会名
北海道	滝川市B&G海洋センター指導者会
青森県	六戸町B&G海洋センター地域指導者会
栃木県	B&Gしもつけ指導者会
富山県	B&G福野指導者会
岐阜県	可児市B&G海洋センター指導者会
京都府	宮津市B&G海洋センター指導者会
広島県	府中市B&G海洋センター指導者会
愛媛県	大三島B&G育成士会
熊本県	津奈木町B&G海洋センター地域指導者会
佐賀県	江北町B&G指導者会

全国各地で「水辺の安全教室」実施（日本財団助成事業）

（詳細は15・16頁）

415カ所、7万人の子供たちが参加！

都内の小学校や全国の海洋センター・海洋クラブで水辺の安全を学ぶ

B&G財団では、全国の海洋センター・海洋クラブをはじめ、都内の小学校のプールなどを活用して、“カヌー体験”や“ライフジャケット・ペットボトル浮遊体験”、“紙芝居”などによる「水辺の安全教室」を実施。平成26年度は、全国415カ所で実施し7万人の子供たちが参加した。



溺れないための“背浮き”を学ぶ



プールでカヌー体験



ライフジャケットの浮遊体験



ペットボトルを使った背浮き



紙芝居で海や川の安全を学ぶ

B&G海洋クラブ

(詳細は83頁)

地域の特性を活かした新たな海洋クラブが誕生！

クラブ名	活動場所	活動主体
B&G徳良湖海洋クラブ	山形県尾花沢市「徳良湖」	ボート、ヨット、カヌーなどの海洋性レクリエーションを主体に地域おこし団体とも協力して活動を行う
B&G土浦海洋クラブ	茨城県土浦市「霞ヶ浦」	霞ヶ浦にあるラクスマリナーを活動拠点に、カヌーやヨット、SUP（スタンドアップパドルボード）、遊覧船を活用した幅広い活動を行う
B&G南アルプス海洋クラブ	山梨県南アルプス市「南伊奈ヶ湖」	カヌーを中心に、山梨県立県民の森「森林科学館」と共同でヨット体験、キャンプ、トレッキング、スキー教室など様々な活動を行う

小規模海洋クラブ2カ所をモデル登録！

艇庫や海洋クラブのない海洋センターを対象に、小規模な海洋クラブのモデルとして、群馬県「B&G明和海洋クラブ」と兵庫県「B&G猪名川海洋クラブ」の2カ所を登録。今後、海洋センタープールでカヌーや水の安全教育などの活動を行う。

全国で年間延べ995万人が利用

(詳細は68頁)

全施設合計で16万4千人減少、体育館は3万7千人増加

平成26年度の総利用者人数は 9,948,428人で、前年度より16万4千人（-1.6%）の減少となった。これは、夏から秋にかけて大型の台風が数多く発生・上陸し、特に、プール施設の休館や各種イベントの中止などにより、プールの利用者が約19万6千人と大幅に減少したことが主な要因である。一方、体育館の利用者は3万7千人の増加となった。

★★★ 施設別利用人数上位海洋センター（ベスト3） ★★★

艇庫 : 27万人(272,609人)
 プール : 393万人(3,925,046人)
 体育館 : 575万人(5,750,773人)
 総合計 : 995万人(9,948,428人)

施設名	第1位	第2位	第3位
艇庫	本部町(沖縄県)	滝川市(北海道)	宮津市(京都府)
プール	温水 坂井市丸岡(福井県)	芳賀町(栃木県)	猪名川町(兵庫県)
	上屋 磐田市竜洋(静岡県)	堺市美原(大阪府)	徳島市(徳島県)
体育館	上郡町(兵庫県)	久喜市栗橋(埼玉県)	徳島市(徳島県)

海洋センターをもっと楽しく！ 「B&Gチャレンジ」 に515チーム、1,950人が参加

子供から高齢者まで、誰もが気軽に海洋センターを利用してもらえるように、平成26年11月から4ヵ月間「B&Gチャレンジ」を実施。「スリッパカーリング」や「ペットボトルダーツ」など、年齢や体力に関係なく、誰にでもできるレクリエーションを月ごとに設定し、ゲームの得点と来館ポイントの合計得点を競った。



青少年の健全育成に関する事業

1. 自然体験・環境教育活動

(1) 海を守る植樹教育（日本財団助成事業）

東日本大震災を契機として平成24年度にスタートしたこの事業は、日本の未来を担う子供たちに自然に対する恐れや重要な役割、素晴らしさを教え、自然を守り共に生きていく心を育むことを目的に「体験型の環境教育」事業として実施しているものである。前年度に引き続いてB&G植樹リーダーの養成を行うとともに、全国の海洋センター・海洋クラブ等で実施する育苗・植樹活動の支援等を行った。

ア. 植樹リーダーの養成

地域での育苗・植樹事業を推進するため研修会を実施し、指導者を養成した。

期 間：平成26年5月14日(水)～16日(金)

場 所：神奈川県平塚市

社会福祉法人進和学園 しんわルネッサンス

参加者：30人

内 容：植樹に係わる講義、事例発表、実習、施設見学等

(敬称略)



講師名	所属等	内容
宮脇 昭	横浜国立大学 名誉教授	基調講演：「いのちを育むふるさとの森づくり」
林 寿則	(公財)地球環境戦略研究機関 国際生態学センター 研究員	講 義：「森の力について(環境教育)」 実 習：「森を歩く」
高野 義武	NPO法人 国際ふるさとの森づくり協会 理事長	実 習：「基盤整備から植樹までとその後の管理」
池田 剛	鹿児島県与論町 植樹リーダー	事例発表：「島を守ろう！ふるさとの森づくり」



横浜国立大学
名誉教授 宮脇 昭氏



国際生態学センター
研究員 林 寿則氏



国際ふるさとの森づくり協会
理事長 高野 義武氏



鹿児島県与論町
B&G植樹リーダー
池田 剛氏

「B&G海を守る植樹教育」事業の特徴

「宮脇方式」といわれる、それぞれの土地本来の樹木（常緑広葉樹等）による“ふるさとの森づくり”が大きな特徴。常緑広葉樹等は直根性で根が深く、水分を多く含んでおり、津波や地震、火災などの自然災害に大変強い。その土地本来の自然植生による多種類の常緑広葉樹等を密植・混植することで、継続的な維持管理が不要で多様性に富む安定した森（命の森）を短時間で再生することができる。

イ. 育苗の支援

育苗を実施した海洋センターおよび海洋クラブ23ヵ所に対し、事業経費の補助（2,164,935円）を行うとともに、運営支援、情報の提供等を行った。



育苗活動(南さつま市)

H26年度「育苗」実施一覧

No.	道府県	センター・クラブ	育苗 実施回数	参加 延べ人数	運営員 延べ人数
1	北海道	東神楽町海洋センター	2	45	6
2	宮城県	大郷町海洋センター	1	28	7
3	秋田県	男鹿市海洋センター	1	84	8
4	栃木県	下野市国分寺海洋センター	1	93	5
5	石川県	七尾市海洋センター	1	56	1
6		志賀町富来海洋センター	1	13	2
7	長野県	飯島町海洋センター	2	38	4
8	岐阜県	川辺町海洋センター	1	43	8
9		富加町海洋センター	1	118	14
10		中津川市付知海洋センター	1	46	8
11	兵庫県	上郡町海洋センター	4	210	77
12	岡山県	奈義町海洋センター	1	24	6
13	山口県	長門市日置海洋センター	2	122	23
14	福岡県	大任町海洋センター	4	108	12
15	長崎県	B&G佐世保海洋クラブ	1	5	6
16	大分県	中津市耶馬溪海洋センター	1	15	3
17		宇佐市安心院海洋センター	1	25	8
18	熊本県	南関町海洋センター	1	18	10
19		あさぎり町免田海洋センター	1	190	3
20	鹿児島県	阿久根市海洋センター	2	67	7
21		南さつま市坊津海洋センター	2	72	8
22		奄美市笠利海洋センター	1	37	4
23	沖縄県	本部町海洋センター	3	47	8
合 計			36	1,504	238



どんぐり拾い
(岡山県奈義町)



どんぐりの蒔き付け
(秋田県男鹿市)



学習会
(兵庫県上郡町)

ウ. 植樹の支援

植樹祭を財団と共催した海洋センター4ヵ所、自主開催した海洋センター・海洋クラブ6ヵ所、合計10ヵ所に対し事業経費の補助（3,001,413円）を行うとともに、情報の提供、樹種決定のための専門家による植生調査等の協力を行った。



中津市植樹祭（共催）

H26年度「植樹」実施一覧

種別	No.	道府県	センター・クラブ	植樹日	植樹本数	参加者 延べ人数	運営員 延べ人数
共催	1	埼玉県	松伏町海洋センター	9月27日(土)	682	169	33
	2	愛媛県	愛南町御荘海洋センター	8月19日(火)	404	51	18
	3	高知県	津野町東津野海洋センター	10月24日(金)	340	52	23
	4	大分県	中津市耶馬溪海洋センター	11月 8日(土)	350	56	17
自主開催	5	岩手県	普代村海洋センター	7月20日(日)	900	143	18
	6		奥州市前沢海洋センター	9月 7日(日)	3,500	210	30
	7	神奈川県	B&G葉山海洋クラブ	10月11日(土)	282	49	3
	8	福井県	勝山市海洋センター	10月29日(水)	192	51	7
	9	三重県	いなべ市大安海洋センター	2月12日(木)	40	33	6
	10	鹿児島県	与論町海洋センター	12月23日(祝・火)	685	91	19
合 計					7,375	905	174



愛南町植樹祭（共催）



松伏町植樹祭（共催）



与論町植樹祭（自主開催）

エ. 植樹手帳の作成

植樹に対する子供たちへの理解促進を図り、事業普及に繋げるツールとして、植樹の趣旨・重要性、育苗や植樹などの方法をとりとまとめた植樹手帳を作成し、配布した。



普及用アイテム
「植樹手帳」

主な内容

- ・ B&G海を守る植樹教育事業とは？
- ・ 水の循環と食物連鎖
- ・ 世界で起きている環境問題
- ・ 宮脇方式の「いのちの森づくり」とは？
- ・ 育苗／植樹
- ・ 調べてみよう！葉っぱ／木の様子
- ・ 作って遊ぼう！どんぐり工作
- ・ 観察日記

オ. 植樹ブログ（「小さな苗木で大きな海を」）

全国の海洋センター・海洋クラブで実施した「育苗」「植樹」等の活動を、「海を守る植樹教育事業」の事例としてブログに掲載し、情報発信した。（記事数71件）



(2) 自然に親しむための「海や川の安全教育」の推進（日本財団助成事業）

ア. 都内小学校における「水辺の安全教室」への協力

東京都区内の小学校またはPTAなど保護者の要請を受け、小学校プール等を会場として小中学生を対象に、カヌー体験などの海洋性レクリエーション活動と着衣泳やライフジャケット浮遊体験、落水時の対処法、紙芝居などの水辺の安全教育活動を実施した。

時 期：6月～9月 実施延べ日数16日

場 所：都内小学校プール等 15校

参加者：1,677人（参加校数18校）

内 容：水辺の安全学習（着衣泳・水辺の安全紙芝居・ライフジャケット浮遊体験等）、カヌー体験



ライフジャケット浮遊体験



学校のプールでカヌー体験



背浮きの練習



紙芝居で海や川の安全を学ぶ

〈実施校〉

No.	実施日	小学校名	参加児童数	見学児童数	保護者教諭数	小計
1	6月26日(木)	江戸川区立 南篠崎小学校	95	4	8	107
2	7月 1日(火)	江東区立 第二辰巳小学校	81	3	10	94
3	7月 4日(金)	江戸川区立 大杉第二小学校	92	10	8	110
4	7月 4日(金)	港区立 青南小学校	74	18	4	96
5	7月 7日(月)	江戸川区立 一之江小学校	82	10	3	95
6	7月 9日(水)	江東区立 第一大島小学校	63	4	3	70
7	7月10日(木)	中央区立 月島第三小学校	377	38	13	428
8	7月10日(木)	江東区立 香取小学校	136	11	43	190
9	7月11日(金)	江東区立 香取小学校	88	6	9	103
10	7月14日(月)	江東区立 亀高小学校	51	7	2	60
11	7月15日(火)	江東区立 第二亀戸小学校	62	5	6	73
12	7月16日(水)	中央区立 月島第二小学校	53	7	4	64
13	8月23日(土)	杉並区立 四宮小学校	17	1	12	30
14	8月24日(日)	杉並区立 杉並第九小学校・天沼小学校・東原中学校・天沼中学校	30	0	12	42
15	8月30日(土)	荒川区立 第七峡田小学校	23	0	12	35
16	9月12日(金)	葛飾区立 川端小学校	63	7	10	80
			合計		1,677人	

イ. 海洋センター等における「水辺の安全教室」開催支援および検証

「水辺の安全教室」を一人でも多くの子供に体験してもらうために、指導者や学校教職員向けにプログラムを改良し、インターネットを通じて公開した。また、全国の海洋センター・海洋クラブの協力を得て「水辺の安全教室」を実施し、子供たちが水辺で安全に活動できる知識と技能の普及を図った。

(ア) 「水辺の安全教室」プログラムの検証・改良

協力：B&G全国指導者会

監修：筑波大学体育系教授 椿本 昇三 氏

東京海洋大学大学院准教授 田村 祐司 氏

〈プログラム構成〉

項目	主な内容
Part1 プールで行う安全教室	プールで行える実技プログラム (例：背浮き等)
Part2 選択メニュー	プールで行えるレクリエーション や安全紙芝居
Part3 水辺の知識	水辺の危険箇所や天候・災害に 関する基礎資料
Part4 海や川での安全教室	自然環境下で安全教室を実施した 事例紹介



インターネットを通じて
プログラムを公開

(イ) 海洋センター・海洋クラブにおける「水辺の安全教室」の実施

実施団体数：399団体

実施件数：1,859件

参加者総数：68,645人

〈実施状況〉

項目	海洋センター	海洋クラブ	合計
実施団体数	231	168	399
実施教室数	640	1,219	1,859
参加者数	26,855	41,790	68,645



カヌーなどを楽しみながら水辺の安全を学ぶ子供たち

2. 大会・交流活動

(1) B&G全国スポーツ大会（日本財団助成事業）

海洋センター・海洋クラブの利用者を対象に、日頃の練習の成果発表と参加者の相互交流を図るため、海洋性レクリエーション等の全国大会を開催した。

ア. 「2014 B&G全国ジュニア水泳競技大会」の開催

～ 23道県から504人のジュニアスイマーが参加 ～

小・中学生を対象に道県別の団体対抗戦として、種目別・男女別の水泳競技大会を開催したほか、アテネ・北京オリンピック競泳銅メダリスト中村礼子氏によるデモンストレーションを行った。

(参加センター一覧は99頁)



スイマーあこがれの「東京辰巳国際水泳場」で熱戦を展開

期 日：平成26年8月2日(土)

(前日1日に公式練習会と交流会を開催)

場 所：東京辰巳国際水泳場

人 数：約1,300人（指導者・保護者等含む）

504人（競技会／全国23道県73海洋センター）

360人（公式練習会・交流会）

※「インターネット水泳記録会」の記録上位者、男女6人を本大会に招待した

種 目：年齢区分／小学3・4年生、小学5・6年生、中学生の3区分

競技種目／自由形、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ、メドレーリレー、フリーリレーの6種目

距 離／50m、100m、200m（男女別）

種 目 数／個人26種目、リレー4種目 計30種目

(敬称略)

結 果：	総合順位	1位：埼玉県 2位：千葉県 3位：兵庫県
	男 子	1位：千葉県 2位：埼玉県 3位：茨城県
	女 子	1位：埼玉県 2位：千葉県 3位：高知県
	最優秀選手	武 快飛（小4・男子）群馬県玉村町海洋センター 湯澤 胡桃（小4・女子）栃木県芳賀町海洋センター
	優秀選手	春日 遊馬（小4・男子）青森県南部町名川海洋センター 島田 拓実（小6・男子）兵庫県南あわじ市南淡海洋センター 近江ハリー（中1・男子）長野県大町市海洋センター 濱本玖瑠海（小4・女子）富山県氷見市海洋センター 高井麻里衣（小5・女子）埼玉県嵐山町海洋センター 首藤 大果（中1・女子）高知県四万十町窪川海洋センター
	大会記録更新数	5種目 7個

後 援：（一社）共同通信社、読売新聞社、（公財）日本ゲートボール連合、
（公財）笹川スポーツ財団、（公財）日本海事科学振興財団、
（公社）日本トリアスロン連合、（NPO法人）日本ライフセービング協会、
B&G全国市長会議、B&G全国町村長会議、B&G全国教育長会議、
B&G全国指導者会

協 賛：大塚製菓（株）、ミスノ（株）、BOAT RACE振興会、

協 力：関東ブロック地域海洋センター連絡協議会、関東ブロック内地域指導者会



各道県の予選会を勝ち抜き、日本水泳連盟資格級1級に準じた標準タイムをクリアした小・中学生が出場。5種目7個の大会新記録が出る白熱したレースが展開された



昨年優勝の埼玉県チームの石川泰靖さんと野口陽菜さんが選手宣誓



2年連続優勝 埼玉県チーム

前列左：アテネ・北京オリンピック競泳銅メダリスト 中村礼子氏



東日本大震災復興支援の募金を行った

イ. 2014B&G杯全国少年少女カヌー大会

小学生を対象とする日本で唯一の日本カヌー連盟公認カヌースプリント競技の全国大会で、全国の海洋センター・海洋クラブ、各地のカヌークラブ等で練習している子供たちの成果発表の場として開催。また、「カヌーの普及」と「水辺の安全教育」の推進を目的に、「カヌー体験会」および「水辺の安全教室」を行った。（参加クラブ一覧は100頁）



B&G普及艇の部

期 間：平成26年7月26日(土)～7月27日(日)

場 所：精進湖カヌー競技場（山梨県 富士河口湖町）

人 数：134人（競技大会／23道府県31チーム）

73人（カヌー体験会）

※海洋センター・海洋クラブからは10チーム51人が参加

※指導者・保護者等含めると約400人が参加

共 催：（公社）日本カヌー連盟

後 援：山梨県教育委員会、（公財）山梨県体育協会、富士河口湖町教育委員会、富士河口湖町体育協会、精進湖観光協会、（株）テレビ山梨、（株）山梨日日新聞社、（株）山梨放送

協 力：山梨県B&G財団地域海洋センター連絡協議会、大塚製薬（株）、ヒカリ（株）、高階救命器具（株）（左記2社はチャリティー協賛協力）

種 目：4年生以下普及艇、5・6年生普及艇、K-1・K-2（各200m）、フラットスラローム

結果:

4年生以下 普及艇	男子	1位: 蒔田 遊士 (湘南カヌースポーツクラブ) 2位: 山脇 慎也 (倉吉市関金イルカ・カヌークラブ) 3位: 村上 聖太郎 (本荘ジュニアカヌークラブ)
	女子	1位: 北嶋 咲良 (本荘ジュニアカヌークラブ) 2位: 八橋 希心 (飯塚だいがカヌークラブ) 3位: 長洲 百花 (佐倉市カヌー協会)
5・6年生 普及艇	男子	1位: 大岩 歩夢 (B&G神埼カヌークラブ) 2位: 土田 優成 (本荘ジュニアカヌークラブ) 3位: ミンドラム マーカス 廣紀 (飯塚だいがカヌークラブ)
	女子	1位: 村野 由奈 (飯塚だいがカヌークラブ) 2位: 越田 彩華 (石川県カヌー協会・かけはし海洋クラブ) 3位: 吉本 美海 (石川県カヌー協会・かけはし海洋クラブ)
カヤック シングル (K-1)	男子	1位: 永野 照太郎 (末吉カヌークラブ) 2位: 原口 海音 (末吉カヌークラブ) 3位: 吉岡 和美 (佐倉市カヌー協会)
	女子	1位: 尾上 楓 (末吉カヌークラブ) 2位: 遠藤 帆夏 (オーバルカヌーチーム) 3位: 土橋 愛花 (末吉カヌークラブ)
カヤック ペア (K-2)	男子	1位: 原口 海音・永野 照太郎 (末吉カヌークラブ) 2位: 進藤 敦司・小串 佑太 (高田レーシング) 3位: 土田 優成・村上 聖太郎 (本荘ジュニアカヌークラブ)
	女子	1位: 尾上 楓・土橋 愛花 (末吉カヌークラブ) 2位: 遠藤 帆夏・今西 愛依 (オーバルカヌーチーム) 3位: 梅原 三和・片山 友花 (和知ジュニアカヌークラブ)
フラット スラローム	男子	1位: 吉岡 和美 (佐倉市カヌー協会) 2位: 関本 晃太 (マホロバ・ホンダカヌースクール) 3位: 高瀬 優 (佐倉市カヌー協会)
	女子	1位: 大戸 章花 (戸田ドルフィンカヌースポーツ少年団) 2位: 長洲 百花 (佐倉市カヌー協会) 3位: 吉本 美海 (石川県カヌー協会・かけはし海洋クラブ)



選手宣誓

雄大な富士山のふもとで5種目10クラスの競技を開催



フラットスラローム競技



親子でカヌー体験会



23道府県から31チーム134人のジュニア選手が参加

ウ. 2014 B&G OP級ヨット大会

海洋センター・海洋クラブ間の交流と日頃の練習の成果発表を目的に、初心者から世界大会を目指す上級者まで、全てのジュニアセーラーが参加可能なクラス別のOP級ヨットレースを「東日本大会」および「西日本大会」として開催し、併せて“水辺の安全教室”を実施した。

また、両大会のAクラス上位者各2人には「第46回日本オプティミストセーリング選手権大会」の出場権が与えられた。

(ア) 2014 B&G OP級ヨット大会（東日本大会）

期 日：平成26年7月19日(土)・20日(日)
場 所：愛知県蒲郡市 豊田自動織機 海陽ヨットハーバー
共 催：愛知県ヨット連盟、名古屋市ヨット連盟、
B&Gなごや海洋クラブ

後 援：文部科学省、国土交通省、愛知県、
愛知県教育委員会、蒲郡市、
蒲郡市教育委員会、中日新聞社、
東海テレビ放送株式会社

協 力：第四管区海上保安本部、日本OP協会、
(一社)日本ジュニアヨットクラブ連盟、
中部ブロックB&G地域海洋センター連絡協議会、
愛知県B&G海洋センター連絡協議会、B&G全国指導者会

協 賛：アキレス(株)、大塚製薬(株)、日本船具(株)、(株)ノースセール・ジャパン、
ハーケンジャパン(株)、ヨッティングワールド(株)

人 数：91人(競技大会/10都府県16クラブ)(参加クラブ一覧は101頁)

※指導者・保護者を含めると約200人

(敬称略)

結 果：	クラス	1位	2位	3位
	A	神谷 仁 (中3・男子) 静岡県セーリング連盟 浜名湖ジュニアクラブ	藤本 諒 (中3・女子) 江の島ヨットクラブジュニア	藤原 達人 (中3・男子) B&G兵庫ジュニア海洋クラブ
	B	市川 太陽 (小5・男子) 静岡県セーリング連盟 浜名湖ジュニアクラブ	重松 駿 (小4・男子) 夢の島ヨットクラブ	高山 巧太郎 (小6・男子) 海陽海洋ジュニアクラブ
	C	城 毅 (小4・男子) 琵琶湖ジュニアヨットクラブ	藤澤 慎悟 (小4・男子) 三重県ヨット連盟 ジュニアユースヨットクラブ	服部 友賀 (小6・男子) 三重県ヨット連盟 ジュニアユースヨットクラブ



全力で帆走する選手たち



91人のジュニアセーラーが参加した東日本大会



一般を対象としたクルーザー乗船会も実施

(イ) 2014 B&G OP級ヨット大会 (西日本大会)

期 日：平成26年7月20日(日)・21日(月・祝)

場 所：大分県別府市 北浜ヨットハーバー

共 催：大分県セーリング連盟、B&G別府海洋クラブ

後 援：文部科学省、国土交通省、大分県、
大分県教育委員会、別府市、別府市教育委員会、
JFおおいた別府支店、大分合同新聞社、
NHK大分放送局、OBS大分放送、
TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、FM大分

協 力：日本OP協会、(一社)日本ジュニアヨットクラブ連盟、
北九州ブロックB&G地域海洋センター連絡協議会、
大分県B&G財団地域海洋センター連絡協議会、B&G全国指導者会

協 賛：アキレス(株)、大塚製薬(株)、日本船具(株)、(株)ノースセール・ジャパン、ハーケンジャパン(株)、
ヨッティングワールド(株)

人 数：93人(競技大会/10県、17クラブ)(参加クラブ一覧は101頁)

※指導者・保護者を含めると約200人

(敬称略)

結果：	クラス	1位	2位	3位
	A	前田 海陽 (中1・男子) 広島セーリングスクール	長谷川 真大 (中1・男子) B&G高松海洋クラブ	佐々木 マールトン 星和 (中1・男子) B&G兵庫ジュニア海洋クラブ
	B	若林 陽太郎 (小6・男子) B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	幸野 翔太 (小4・男子) B&G別府海洋クラブ	越智 啓敬 (小3・男子) 広島セーリングスクール
	C	後藤 すず (小5・女子) 広島セーリングスクール	木下 時一 (小2・男子) B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	河野 壘 (小1・男子) B&G別府海洋クラブ



白熱のレースを展開する
Aクラスの選手たち



93人のジュニアセーラーが参加した西日本大会



Cクラスのレースは
ビーチからスタート



夜のレセプションで交流
を深める参加選手たち



B&G OP級ヨット大会
(西日本大会)

東日本大震災復興支援

“B&G全国スポーツ大会”の各会場でチャリティ販売と募金活動を実施。参加者の皆さんの善意により集まった合計327,680円は、東日本大震災復興事業に活用する。



B&G杯
全国少年少女カヌー大会

3. 助成・活動支援

(1) 地域海洋センター及び海洋クラブの施設整備（日本財団助成事業）

海洋センター建設後10年を経過し「海洋センター評価」が原則B評価以上で、施設の機能保全および機能向上（バリアフリー化など）を目的とする修繕、ならびに台風等により被害を受けた海洋センター施設の原状復帰修繕等に対し、助成金の交付を行った。

また、B&Gプランの趣旨に賛同し、地域に根付いた海洋性レクリエーション活動を組織的・継続的に実施する団体を「B&G海洋クラブ」として登録するとともに、海洋センター・海洋クラブに対して舟艇器材の「追加配備」および「再配備」による活動支援を行った。

ア. 通常修繕に対する助成金の交付

平成26年度通常修繕として助成した30施設、災害復旧修繕として助成した5施設に対して、総額539,900,000円の助成金の交付を行った。（詳細は91・92頁）

修繕項目	市町村数	海洋センター数	施設数	助成金額
通常修繕	29	29	30	532,700,000円
災害復旧修繕	5	5	5	7,200,000円
計	34	34	35	539,900,000円

☆☆☆ 決定書授与式を開催 ☆☆☆

平成26年度の通常修繕助成金額が1,000万円以上となる22自治体、および災害復旧修繕助成金額が100万円以上となる2自治体に対して、修繕助成金決定書授与式を実施。40紙の新聞に掲載されるとともに7社のテレビ局で放映され、ボートレースの収益金の有効活用と施設のリニューアルを住民に周知した。



熊本県津奈木町 西川 町長（右）
B&G財団 菅原 専務理事（左）



秋田県男鹿市 渡部 市長（右）
B&G財団 古山 常務理事（左）

リニューアルオープン 式典開催

修繕助成により利便性や機能が向上した14ヶ所の海洋センターで、リニューアルオープン式典が行われた。



屋根・外壁全面改修など、新しく生まれ変わった 大分県宇佐市安心院B&G海洋センター（左）と工事前の写真（右）



滋賀県米原市伊吹B&G海洋センターのプールリニューアルオープンでは、シドニー五輪400mメドレーリレー銅メダリストの源 純夏氏による水泳教室も開催された



イ. 平成27年度修繕助成の決定

平成27年度に通常修繕および災害復旧修繕を計画している31市町村、31海洋センター、33施設に対し、海洋センター施設整備委員会の審議を経て、総額550,400,000円の助成を決定した。

修繕項目	市町村数	海洋センター数	施設数	助成決定金額
通常修繕	31	31	33	550,400,000円



施設整備委員会

これまでの修繕助成金総額（H13～H26年度）

種別	助成金額	種別	助成金額
通常修繕	4,886,900,000円	災害復旧	281,490,000円
艇庫	153,200,000円	艇庫特別施設整備	96,800,000円
プール	3,233,700,000円	特例修繕	56,600,000円
体育館	1,495,200,000円	特別施設整備	57,500,000円
グラウンド	4,800,000円	助成金額 総額	5,379,290,000円

ウ. 舟艇器材等の配備

(ア) 舟艇器材追加・再配備

16海洋センター・25海洋クラブ 計41ヵ所からの申請内容をもとに活動状況等を審査し、内28ヵ所（16センター12クラブ）に対し、救助艇やライフジャケットなど485点の安全器材等を主体とする舟艇器材（約789万円相当）の配備に係る助成を行った。（詳細は93頁）

配備舟艇器材

ライフジャケット、救助艇、船外機、カヌー、SUP（スタンドアップパドルボード）など



ライフジャケット



救助艇



SUP
(スタンドアップパドルボード)

(イ) 海洋クラブ登録に係る舟艇器材の新規配備

平成26年度に登録された、5海洋クラブに対し、救助艇・船外機およびライフジャケット（5,438,714円）を配備した。

新規海洋クラブ名	県名	主な新規配備舟艇類
B&G徳良湖海洋クラブ	山形県	24種104器材（救助艇：1艇、ライフジャケット：40着、カヌー：9艇、船台：1台、その他：53器材）
B&G土浦海洋クラブ	茨城県	12種37器材（救助艇：1艇、ライフジャケット：20着、カヌー：4艇、船台：1台、その他：26器材）
B&G南アルプス海洋クラブ	山梨県	11種58器材（船外機：1台、ライフジャケット：30着、カヌー：8艇、ヨット：2艇、船台：2台、その他：15器材）
B&G明和海洋クラブ	群馬県	4種18器材（カヌー：3艇、パドル：3本、ライフジャケット：12着）
B&G猪名川海洋クラブ	兵庫県	4種19器材（カヌー：3艇、パドル：4本、ライフジャケット：12着）

エ. 平成26年度 海洋センターの現状調査等

62カ所の海洋センターを対象に、市町村長や教育長との面談のほか、海洋センターの管理・運営状況および問題点等の確認を行った。

オ. 海洋センターの評価

海洋センターの管理・運営面での現状を把握し、今後の活動の活性化に役立てるとともに、財団が行う公正な支援活動の“指標”として、統一された評価基準による評価を実施。また、評価結果を公表し優良海洋センターの表彰を行うとともに、改善点等の指導を行った。

海洋センター評価は、年間評価（対象期間：4月～3月）および中間評価（対象期間：4月～9月）の2回を実施し公表した。平成25年度の年間評価（H26年4月度評価）の結果は次のとおり。

なお、平成26年度年間評価（H27年4月度評価）の詳細は62頁に記載。



第7回「B&G全国サミット」で、「特A」189センターと「A」115センターを紹介。10年以上連続「特A」評価となっている北海道滝川市、青森県南部町、埼玉県久喜市、広島県府中市、愛媛県愛南町が代表として登壇した。

評価別 海洋センター数（平成25年度実績）

特A	A	B	C	D	E
189	115	135	21	5	1

カ. 優良海洋センターの表彰（特A・A）

平成25年度の年間評価（H26年4月度評価）において、A評価以上の優良海洋センター304センターを「第7回B&G全国サミット」で表彰した。

「特A評価」海洋センター 189ヶ所

No.	ブロック	道府県	海洋センター名	No.	ブロック	道府県	海洋センター名	No.	ブロック	道府県	海洋センター名	
1	北海道	北海道	砂川市	38	東北	山形	舟形町	75	中部	北陸	福井	大野市
2			厚岸町	39			酒田市平田	76				若狭町三方
3			せたな町	40			柳津町	77				中央市玉穂
4			剣淵町	41			小野町	78				山梨市牧丘
5			大樹町	42	瑠町	79	南アルプス市白根					
6			鷹栖町	43	かすみがうら市千代田	80	甲斐市敷島					
7			斜里町	44	北茨城市	81	甲斐市双葉					
8			愛別町	45	石岡市	82	甲州市塩山					
9			大空町東藻琴	46	五霞町	83	大町市					
10			枝幸町歌登	47	下野市国分寺	84	白馬村					
11			名寄市風連	48	那須烏山市南那須	85	飯綱町牟礼					
12			積丹町	49	芳賀町	86	飯島町					
13			美幌町	50	明和町	87	松本市波田					
14			大空町女満別	51	玉村町	88	可児市					
15	石狩市	52	嵐山町	89	川辺町							
16	浦臼町	53	久喜市栗橋	90	八百津町							
17	沼田町	54	松伏町	91	御嵩町							
18	苫前町	55	岡岡市	92	中津川市加子母							
19	滝川市	56	御宿町	93	中津川市付知							
20	古平町	57	横芝光町横芝	94	掛川市大東							
21	弘前市	58	香取市小見川	95	掛川市							
22	鶴田町	59	大多喜町	96	磐田市竜洋							
23	青森	青森	南部町名川	60	香取市栗源	97	川根本町本川根					
24			六戸町	61	南房総市千倉	98	牧之原市相良					
25			弘前市岩木	62	成田市大栄	99	松崎町					
26			久慈市山形	63	香取市山田	100	掛川市大須賀					
27	岩手	岩手	一関市東山	64	銚南町	101	袋井市袋井					
28			奥州市前沢	65	横芝光町光	102	新城市作手					
29			一関市藤沢	66	胎内市中条	103	東栄町					
30	宮城	宮城	亘理町	67	新潟	長岡市和島	104	西尾市一色				
31			川崎町	68	燕市	105	いなべ市大安					
32			大郷町	69	砺波市	106	桑名市長島					
33			蔵王町	70	南砺市福野	107	菟野町					
34	秋田	秋田	能代市	71	石川	穴水町	108	熊野市紀和				
35			男鹿市	72	志賀町富来	109	志摩市志摩					
36			由利本荘市由利	73	白山市鶴来	110	伊賀市大山田					
37			にかほ市象潟	74	福井	勝山市	111	亀山市関				

No.	ブロック	道府県	海洋センター名	No.	ブロック	道府県	海洋センター名	No.	ブロック	道府県	海洋センター名
112	近畿	滋賀	野洲市中主	138	中国	岡山	瀬戸内市長船	164	北九州	福岡	築上町築城
113			米原市山東	139			瀬戸内市邑久	165			久留米市三漕
114			米原市伊吹	140			矢掛町	166			みやま市瀬高
115		大阪	高島市今津	141		鏡野町	167	朝倉市甘木			
116			堺市美原	142		赤磐市吉井	168	太良町			
117			南あわじ市南淡	143		府中市	169	神崎市			
118		兵庫	養父市おおや	144		東広島市黒瀬	170	江北町			
119			上郡町	145		東広島市安芸津	171	時津町			
120			香美町香住	146		周防大島町	172	杵築市			
121		和歌山	姫路市家島	147		岩国市美和	173	中津市耶馬溪			
122			芦屋市	148		徳島市	174	長洲町			
123			猪名川町	149		牟岐町	175	津奈木町			
124		中国	鳥取	串本町		150	徳島	美波町由岐		176	南九州
125	鳥取市			151	那賀町鷺敷	177		玉名市岱明			
126	鳥取市佐治			152	海陽町海南	178		宇城市三角			
127	島根		北栄町北条	153	香川	小豆島町内海	179	鹿児島	いちき串木野市		
128			伯耆町岸本	154		三豊市高瀬	180		長島町		
129			松江市松江	155		三豊市財田	181		阿久根市		
130	岡山		津江市桜江	156	愛媛	久万高原町久万	182	さつま町			
131			浜田市三隅	157		松山市中島	183	湧水町栗野			
132			雲南市加茂	158		今治市大三島	184	日置市東市来			
133	岡山		松江市宍道	159	高知	鬼北町広見	185	天城町			
134			備前市吉永	160		愛南町御荘	186	南さつま市坊津			
135			津山市加茂	161		津野町東津野	187	与論町			
136	岡山		井原市井原	162	香美市香北	188	伊江村				
137		奈義町	163	四万十町窪川	189	名護市					

「A評価」海洋センター 115ヶ所

No.	ブロック	道府県	海洋センター名	No.	ブロック	道府県	海洋センター名	No.	ブロック	道府県	海洋センター名		
1	北海道	北海道	遠別町	40	北陸	新潟	上越市頸城	79	中国	和歌山	広川町		
2			新篠津村	41			糸魚川市能生	80			鳥取	倉吉市関金	
3			北竜町	42			佐渡市羽茂	81				島根	鳥取市気高
4			下川町	43		上市町	82	美郷町邑智					
5			東神楽町	44		高岡市福岡	83	出雲市平田					
6			名寄市	45		富山市八尾	84	岡山		岡山市建部			
7			芦別市	46		石川 七尾市	85			新見市哲多			
8			上富良野町	47		福井 高浜町	86			井原市美星			
9			室蘭市	48		あわら市金津	87	美作市作東					
10	東北	青森	平川市尾上	49	中部	長野	長和町和田	88	四国	岡山	和気町佐伯		
11			東北町	50			山形村	89			新見市大佐		
12			中泊町中里	51			上松町	90			坂町		
13			岩手	軽米町		52	岐阜	飯綱町三水		91	徳島	安芸高田市高宮	
14				岩泉町		53		恵那市山岡		92		香川	北広島町大朝
15				八幡平市松尾		54		中津川市福岡		93			安芸高田市八千代
16			大船渡市三陸	55		富加町	94	愛媛		阿南市			
17			普代村	56		御前崎市	95			高松市国分寺			
18			花巻市東和	57		浜松市三ヶ日	96			今治市吉海			
19	宮城	涌谷町	58	愛知	浜松市天竜	97	今治市朝倉						
20		登米市米山	59		清須市春日	98	宗像市玄海						
21		栗原市築館	60		豊川市小坂井	99	大任町						
22		仙台市泉	61		大台町	100	福岡	福智町金田					
23		登米市迫	62		大紀町大内山	101	北九州	築上町椎田					
24		にかほ市金浦	63		三重 伊勢市御園	102		佐賀	鹿島市				
25		横手市十文字	64		松阪市飯高	103			佐世保市小佐々				
26		大仙市神岡	65		志摩市浜島	104	平戸市生月						
27		福島	大瀧村		66	日野町	105	宇佐市安心院					
28	田村市滝根		67	多賀町	106	玖珠町							
29	小美玉市玉里		68	長浜市浅井	107	由布市挾間							
30	関東	茨城	行方市玉造	69	近畿	滋賀	甲賀市甲賀	108	南九州	熊本	美里町砥用		
31			常陸太田市水府	70			南丹市園部	109			熊本市城南		
32			鹿沼市粟野	71			南丹市八木	110			あさぎり町免田		
33		栃木	那須塩原市塩原	72		京都	京丹波町瑞穂	111		宮崎	宮崎市田野		
34			埼玉 吉見町	73			京丹波町和知	112			霧島市牧園		
35			千葉 長南町	74			新温泉町浜坂	113			鹿児島	鹿屋市串良	
36		北陸	阿賀町三川	75		兵庫	市川町	114		沖縄	薩摩川内市樋脇		
37			佐渡市小木	76			神河町神崎	115			本部町		
38			阿賀野市安田	77			丹波市山南						
39		阿賀町上川	78	奈良	曽爾村								

キ. 海洋センター運営等に係る協議

海洋センター評価に基づき、2年連続でC・D評価以下となった海洋センターに対し、自治体執行部（首長・副首長等）と財団役員による海洋センターの運営や存続等に関する協議・指導を行った。

(2) 海洋クラブ登録等（日本財団助成事業）

ア. 海洋クラブの登録及び活動促進

海洋クラブの登録

新たに5カ所の「B&G海洋クラブ」を登録した。

※新規海洋クラブの詳細は83頁

登録No.	名称	登録日	クラブ員数
1354	B&G徳良湖海洋クラブ	平成26年 8月27日	39人
1355	B&G土浦海洋クラブ	平成26年12月24日	41人
1356	B&G南アルプス海洋クラブ	平成27年 2月 4日	38人
1357	B&G明和海洋クラブ	平成27年 2月25日	小規模
1358	B&G猪名川海洋クラブ	平成27年 2月25日	小規模

イ. 海洋クラブの評価

海洋クラブの管理・運営面での現状を把握し、今後の活動の活性化に役立てるとともに、財団が行う公正な支援活動の“指標”として、統一された評価基準による海洋クラブの評価を行った。

平成25年度（平成25年4月～平成26年3月）の活動実績を基に「平成26年度 海洋クラブ評価」をまとめ公表した。

なお、平成27年度「海洋クラブ評価」（平成26年度実績）の詳細は80頁に記載。

評価	北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	四国	北九州	南九州
特A (29)	滝川 鷹栖	平田 舟形	江の島 葉山 香取市小見川	砺波 あわら	なごや	伊丹 和歌浦 兵庫ジュニア	瀬戸内 桜江 三隅 大島	池田 高松 松山 新居浜 御荘	福岡Jr 別府 津屋崎 神埼 時津	宮崎シーライオン 伊江
A (57)	新冠 小樽 大樹 瀬棚 小平 女満別 愛別 砂川 積丹 室蘭 美幌	弘前 尾上 東北 鶴田 亘理 小野	千倉 横芝光	かけはし (小松) 富来 ななお 福野 穴水	飯網 大町 竜洋 松崎 作手 春日 小島(孤野)	あいおい 家島	建部 美星 吉永 松江 矢掛 奈義 加茂(津山) 白石島(笠岡) 黒瀬	中島 大三島 広見 香川国分寺	虹の松原 ハウスステンボス町 甘木 佐世保	鹿屋 新和 湯前 長洲 与論 勝連 本部
B (92)	熊石 古平 新篠津	岩崎 市浦 田瀬湖(東和) 米山 中新田 中田 能代 大内 天王 迫 塙	吉井 山北 茨城八千代 玉造 南那須 栗橋	新潟 金沢 たいない 頸城 ワンマ 佐渡(小木) 上市 三方 勝山	旭 川辺 八百津 相良 飯島 掛川 大安 御園 やまなし 恵那	サントピア 今津 中主 浅井 香住 八木 美原 上郡 山添 和知 竹野	鳥取 邑智 島根平田 佐伯 美作(作東) 井原 北房 浅口(寄島) 八千代 坂	YASU 由岐 吉海 三木 津田 那賀町(驚敷) 内海	塩田 みやま 穂波 豊津 浜 太良 大山 直入 真玉 生月 加津佐 天瀬 杵築 湯布院 国見 鯛生金山	根占 津奈木 岱明 砥用 宇土三角 蔵之元(長島) 串良 浜瀬(長島) 志布志(有明)

評価	北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	四国	北九州	南九州
C (32)	有珠(伊達) 剣淵 芦別	大蔵 雄和 八郎湯	かみがら江 三宅島 幸手 長南	大崎 松任はまな す 能生 三川 若狭美浜	黄金崎 芝川 大山田	高島	福山 琴ヶ浜 大佐 向島	土庄 ゆげ 寒川 高瀬	犀川 福智(金田)	南郷 南関 薩摩
D (1)						やしろ				
休部 E (41)	風連	山形 森吉 金浦 西目	岡部 玉里 鶴ヶ島 岩間	津川	熱海 御前崎 阿山 岐阜福岡 浜島 河津	神崎 浜坂	宇部 江津 西ノ島 瀬戸田 蒜山 日置	那賀川	鹿町 大野川 勝本 鶴見 上浦 蒲江 弥生 武蔵	与那国 川内 坊津 知覧 伊良部 天城 泗水 佐多
(252)	(20)	(26)	(19)	(22)	(27)	(20)	(33)	(21)	(35)	(29)

ウ. 海洋クラブの現況調査

海洋クラブの新規登録に向けた活動状況・現地調査を実施するとともに、優良海洋クラブの支援に向けた活動視察等を行った。

No.	クラブ名 (道府県・市町村)	調査日	調査目的
1	大町 (長野県大町市)	5月14日(水)	海洋クラブの現況調査、運営状況確認、艇庫、活動水面視察
2	宮崎シーライオン (宮崎県宮崎市)	6月7日(土)~8日(日)	特色のある事業(カヌーアスロン大会)視察に併せた優良海洋クラブの現況調査
3	徳良湖 (山形県尾花沢市)	7月8日(火)~9日(水)	新規海洋クラブ登録調査。申請内容の確認、運営に係るヒアリング
4	別府 (大分県別府市)	7月19日(土)~21日(祝)	2014 B&G OP級ヨット大会(西日本大会)実施に合わせた優良海洋クラブの現況調査
5	やまなし (山梨県富士河口湖町)	7月25日(金)~27日(日)	「2014B&G杯全国少年少女カヌー大会」実施に合わせた優良海洋クラブの現況調査
6	福岡ジュニア (福岡県福岡市)	8月3日(日)~4日(月)	「2014 B&G福岡・釜山ジュニア親善ヨット大会」視察
7	土浦 (茨城県土浦市)	①10月12日(日) ②12月12日(金)	①新規海洋クラブ登録調査と「誰でも楽しもう霞ヶ浦」の現地視察 ②新規海洋クラブ登録に向けた役員現地視察
8	なごや (愛知県名古屋市)	11月13日(木)~14日(金)	優良海洋クラブの現況調査、「B&G OP級ヨット大会(東日本大会)」中止、および今後の協力体制について説明
9	明和 (群馬県明和町)	11月18日(火)	新規海洋クラブ登録調査。申請内容の確認、現地視察
10	南アルプス (山梨県南アルプス市)	①12月1日(月)~2日(火) ②1月12日(月)~14日(水)	①新規海洋クラブ登録調査 ②新規海洋クラブ登録に向けた役員現地視察
11	猪名川 (兵庫県猪名川町)	12月3日(水)~4日(火)	新規海洋クラブ登録調査。申請内容の確認、現地視察

(3) その他支援

ア. マリンスポーツ技能認定

海洋センター利用者および海洋クラブ員に対しカヌー、ヨット、水泳の技術を認定する技能認定テストを海洋センター・海洋クラブに委託して実施した。

平成26年度は、全国30ヵ所の海洋センター・海洋クラブで実施され、3,146人の技能認定書が交付された。

技能認定種類	概要
カヌー	技術レベルに応じて1級から5級を認定
OPヨット	
水泳	〃 〃 1級から10級を認定
総合	全種目の総合的な技術レベルとして1級から5級を認定



イ. 会長賞・賞状等の交付

海洋センター・海洋クラブが開催する「B&G財団会長賞」(大会)、ブロックおよび道府県連絡協議会で開催する「マリンスポーツ大会」に賞状を交付した。

H26年度 交付数

種別	交付対象事業数	交付数(賞状)
B&G財団会長賞	84海洋センター 143事業	1,908枚
マリンスポーツ大会	3ブロック・16道府県連絡協議会 26事業	2,381枚



B&G財団会長杯
第27回山梨市牧丘B&G海洋センター剣道大会



第27回B&G財団会長杯カヌー大会
岡山県奈義町

(4) B&Gクリーンフェスティバル

海洋センター・海洋クラブによる海洋性レクリエーション普及イベントと併せて、日頃の活動水域での清掃やゴミ拾いなどのクリーン活動を推進し、環境保全への意識付けを行った。

期 間：平成26年4月1日～平成27年3月31日(通年)

実施数：77海洋センター、4海洋クラブ

人 数：合計14,534人(クリーン活動5,009人、
海レク活動2,605人、水辺の安全教室
6,920人)

クリーン活動成果：ゴミ回収量7,229kg



静岡県沼津市
事前にポスターを作成して参加者を募り、
水辺の安全教室も併せて実施

指導者の養成に関する事業

青少年の健全育成をはじめ、幼児から高齢者まで、地域住民の健康づくりを推進するには優れた指導員が不可欠である。B&G財団では、積極的に海洋性レクリエーション指導員の養成に取り組むとともに、これまでに養成した指導員の貴重な人的資源を有効に活用するため、ボランティアによる指導者組織「B&G地域指導者会」を海洋センターに設置し、活動を促進している。

1. 海洋性レクリエーション指導員の養成と活用（日本財団助成事業）

(1) アドバンスト・インストラクターの養成

主として、海洋性レクリエーション活動の実技指導に携わり、海事知識および海洋性レクリエーションの普及に努める指導員を養成した。これまでの養成者総数は2,133人。

期 間：平成26年5月30日(金)～7月3日(木) 35日間

場 所：沖縄県 本部町B&G海洋センター（マリンピアザ オキナワ）

対 象：地方自治体または財団が認める団体等から推薦された者

人 数：44人（42海洋センター、内財団職員2人を含む）

内 容：海洋性レクリエーション活動に係わる総合的な知識・技能および安全管理を中心とした研修（B&G財団概要、指導員概要、海洋性レクリエーション理論・実技・実習、救助艇の操船、水泳実技、安全管理、海洋センター管理・運営、健康増進プログラム、環境教育、心肺蘇生法等）



規律正しい合宿研修で心身を練磨



海洋性レクリエーションを代表するカヌーとヨットを学ぶ



着衣泳講習



安全講習（CPR）



自然環境学習



新たに誕生した44人のアドバンスト・インストラクター

主な講師

《実技》

(敬称略)

講師名	所属・役職	科目
小松 一憲	B&G財団 テクニカルアドバイザー	ヨット学科・実技
濱本 徹夫	日本OP協会 理事 大分県別府海洋クラブ 代表	ヨット学科・実技
谷川 真理	マラソンランナー 流通経済大学 客員教授	ウォーキング・ジョギング
源 純夏	水泳 オリンピックメダリスト	水泳理論・実技
木尾 克己	(株)ルネサンス	水泳理論・実技
今西 淳樹 藤田 和人	(一社)ウォーターリスクマネジメント協会 理事長 (一社)ウォーターリスクマネジメント協会 理事	救助艇操船

《講義》

(敬称略)

講師名	所属・役職	科目
唐澤 敏哉	(株)サーフレジェンド・気象予報士	気象・海象
椿本 昇三	筑波大学 体育系 教授	水辺の安全教室
柳 敏晴	神戸常盤大学短期大学部 教授	海洋性レクリエーション総論
千足 耕一	東京海洋大学 准教授	海洋性レクリエーション活動と安全
小峯 力	中央大学 教授	自助・共助・命の尊厳
宮脇 昭	横浜国立大学 名誉教授	植樹講話

《講習》

(敬称略)

講師名	所属・役職	科目
古瀬 浩史	帝京科学大学	インタープリテーション
中村 淳美 渡辺 未知	(株)自然教育研究センター	
藤田 和人 桃原 正樹 尾田 智史 富田 正登 森 洋行 兵後 有亮	NPO法人日本ライフセービング協会 公認インストラクター	BLS (CPR+AED) 講習会 (日本ライフセービング協会認定)

《講話》

(敬称略)

講師名	所属・役職	科目
工藤 祐直	B&G全国指導者会 会長 青森県南部町 町長	町長講話「指導者の重要性」

《修了記念講話特別講師》

(敬称略)

講師名	所属・役職	科目
谷 寿男	北海道鷹栖町 町長	アドバンスト・インストラクター養成研修 修了記念講話

講師名	所属・役職	科目
種継 武	兵庫県 上郡町海洋センター (アドバンスト/アクア・インストラクター)	実技試験・指導者会講話
村川 安亨	長崎県 平戸市生月海洋センター (アドバンスト/アクア・インストラクター)	マリン実技
織田 渉良	佐賀県 太良町海洋センター (アドバンスト・インストラクター)	マリン実技
向後 智一	千葉県 香取市山田海洋センター (アドバンスト・インストラクター)	マリン実技

(2) アクア・インストラクターの養成

主として、プール活動の実技に携わり、海洋性レクリエーションの普及に努める指導者を養成した。これまでの養成者総数は1,454人。

期 間：平成26年5月30日(金)～6月21日(金) 23日間

場 所：沖縄県 本部町B&G海洋センター (マリニピアザ オキナワ)

対 象：地方自治体または財団が認める団体等から推薦された者

人 数：40人 (40海洋センター)

内 容：海洋性レクリエーション活動の基礎となる水泳の知識・技能および安全管理を中心とした研修 (B&G財団概要、指導員概要、水泳理論・実技・実習、海洋性レクリエーション理論・実技、安全管理、海洋センター管理・運営、健康増進プログラム、環境教育、心肺蘇生法等)



指導理論



指導実習



着衣泳



プールを活用したカヌー実技



水泳の基礎を学ぶ



安全講習 (CPR)



新たに誕生した40人のアクア・インストラクター

主な講師

《実技》

(敬称略)

講師名	所属・役職	科目
谷川 真理	マラソンランナー 流通経済大学 客員教授	ウォーキング・ジョギング
源 純夏	水泳 オリンピックメダリスト	水泳理論・実技
木尾 克己	(株)ルネサンス	水泳理論・実技

《講義》

(敬称略)

講師名	所属・役職	科目
唐澤 敏哉	(株)サーフレジェンド・気象予報士	気象・海象
椿本 昇三	筑波大学 体育系 教授	水辺の安全教室
柳 敏晴	神戸常盤大学短期大学部 教授	海洋性レクリエーション総論
千足 耕一	東京海洋大学 准教授	海洋性レクリエーション活動と安全
小峯 力	中央大学 教授	自助・共助・命の尊厳
宮脇 昭	横浜国立大学 名誉教授	植樹講話

《講習》

(敬称略)

講師名	所属・役職	科目
古瀬 浩史	帝京科学大学	インタープリテーション
中村 淳美 渡辺 未知	(株)自然教育研究センター	
藤田 和人 桃原 正樹 尾田 智史 富田 正登 森 洋行 兵後 有亮	NPO法人日本ライフセービング協会 公認インストラクター	BLS (CPR+AED) 講習会 (日本ライフセービング協会認定)

《講話》

(敬称略)

講師名	所属・役職	科目
工藤 祐直	B&G全国指導者会 会長 青森県南部町 町長	町長講話「指導者の重要性」

《修了記念講話特別講師》

(敬称略)

講師名	所属・役職	科目
高良 文雄	沖縄県本部町 町長	アクア・インストラクター養成研修 修了記念講話

《サポートスタッフ》

(敬称略)

講師名	所属・役職	科目
松田 佳和	猪名川町海洋センター (アクア・インストラクター)	水泳実技
橋本 篤幸	南アルプス市白根海洋センター (アドバンスト・インストラクター)	水泳実技
中田 洋満	白山市鶴来海洋センター (アクア・インストラクター)	実技試験・水泳実技

充実した講師陣 アドバンスト／アクア・インストラクター養成研修



ヨット学科・実技

ロンドン五輪 ヨット日本代表コーチ
B&G財団 テクニカルアドバイザー
小松 一憲 氏



ウォーキング・ジョギング

マラソンランナー
流通経済大学 客員教授
谷川 真理 氏



水泳理論・実技

オリンピックメダリスト
源 純夏 氏



救助艇操船

(一社) ウォーターリスク
マネジメント協会 理事長
今西 淳樹 氏



気象・海象

(株) サーフジェント
気象予報士
唐澤 敏哉 氏



着衣泳

筑波大学 体育系 教授
椿本 昇三 氏



海洋性レクリエーション
活動と安全

東京海洋大学 准教授
千足 耕一 氏



自助・共助・命の尊厳

中央大学 教授
小峯 力 氏



植樹講話

横浜国立大学 名誉教授
宮脇 昭 氏



インタープリテーション

帝京科学大学
古瀬 浩史 氏

講 話

「指導者の重要性」

アドバンスト／アクア・
インストラクター養成研修



B&G全国指導者会 会長
青森県南部町
工藤 祐直 町長

修了記念講話

アドバンスト・インストラクター
養成研修



北海道鷹栖町
谷 寿男 町長

アクア・インストラクター
養成研修



沖縄県本部町
高良 文男 町長

(3) リーダーおよびジュニアリーダー養成委託

アドバンスト／アクア・インストラクターの実技指導等を補佐するボランティア指導者として、リーダーおよびジュニアリーダーの養成を海洋センター等へ委託するとともに、同資格失効者の再登録研修を委託実施した。これまでの養成者総数は14,063人。

- 期 間：3～4日間（28時間）（随時）
- 場 所：全国の海洋センター・海洋クラブ
- 対 象：海洋センター・海洋クラブ等において、海洋性レクリエーションまたは水泳指導に携わる者（リーダーは20歳以上、ジュニアリーダーは13歳以上20歳未満）
- 人 数：新規養成203人（22海洋センター、8連絡協議会）
再登録10人（2海洋センター）
- 内 容：海洋性レクリエーションまたは水泳の基礎的な理論および実技・安全管理等
開催件数および参加者数

項 目	開催件数		参加者数
リーダー・アクアリーダー およびジュニアリーダー研修	道府県連絡協議会	8件	203人
	海洋センター	22件	
リーダーおよびインストラクター 再登録研修	道府県連絡協議会	1件	10人
	海洋センター	1件	

B&G指導者資格の概要と養成人数

資格名	研修期間	対象者	養成人数
アドバンスト・インストラクター	約35日間	地方公共団体または財団が認める団体の推薦があった20歳以上	2,133人
アクア・インストラクター	約23日間		1,454人
インストラクター	約10日間	20歳以上	730人
リーダー、アクアリーダー	28時間		14,063人
ジュニアリーダー	28時間	13歳以上20歳未満	
合 計			18,380人

2. 指導員の資質向上（日本財団助成事業）

海洋性レクリエーションに関する事業プログラムや安全管理等の最新の知識・情報等を提供する研修会を実施し、B&G指導員の資質向上を図るとともに指導員のネットワークづくりを推進した。

(1) 指導員研修会

新しいプログラムや情報の提供、安全管理等を中心とした研修会を開催するとともに、全国の指導者の相互交流、情報交換を行った。

- 時期：平成27年1月22日(木)～23日(金)
- 場所：日本財団ビル2階会議室
- 対象：地域海洋センター・海洋クラブ 指導者等
- 人数：182人（160センター・1クラブ）



講師名	内 容
都並 敏史 (一社)日本サッカー名蹴会 副会長	基調講演「夢を叶えるうえで大切なこと」
神田 忠彦 山梨学院大学 准教授	講義「スポーツと人間形成」
早川 修 早川総合法律事務所	講義「リスクマネジメント」事故事例と法的責任
清水 隆一 コーチングカレッジ(株) 代表取締役社長	講義「コーチングの基本」
中井 求 三重県大紀スイミングクラブ	講義「チームづくりと指導者の役割」

「夢を叶えるうえで大切なこと」

都並 敏史 氏



「全ての経験を夢に繋げるイメージを持ちましょう」

「スポーツと人間形成」

神田 忠彦 氏



「スポーツの楽しさを伝えられる指導者が良い指導者です」

「リスクマネジメント」

早川 修 氏



「天候の急変などで事業を中止する基準をマニュアル化し、共有することが重要です」

「コーチングの基本」

清水 隆一 氏



「目標に向かう姿勢が、それぞれ人によって違うことを認め、あげることが大切です」

「チームづくりと指導者の役割」

中井 求 氏



「常に目標を持ち、選手と共有できる指導者としてこれからも挑戦していきます」

事例発表

「植樹事業の事例」

高知県津野町
東津野B&G海洋センター
大崎 あや 氏

育苗や小学校での授業等、植樹祭を実施するまでの過程や今後の展開について発表。



「防災事業の事例」

静岡県牧之原市
相良B&G海洋センター
曾根 由多 氏

牧之原市内の教育機関で行っている防災体験学習について紹介。



研修内容

[1日目] 1月22日(木) 13:00~	[2日目] 1月23日(金) 9:00~
1. 開会 主催者挨拶	7. 講義:「リスクマネジメント」
2. オリエンテーション	8. 講義:「コーチングの基本」
3. 講義:「スポーツと人間形成」	9. 平成27年度事業説明
4. 講演:「チームづくりと指導者の役割」	10. 平成27年度全国指導者会の活動
5. 事例紹介	11. 閉会 主催者挨拶
①「植樹事業の事例」	
②「防災事業の事例」	
6. 基調講演:「夢を叶えるうえで大切なこと」	
情報交換会	

(2) レベルアップ研修会

B&G海洋性レクリエーション指導員、および幼児運動プログラム、高齢者運動プログラムの指導員等を対象に、各種専門的な技術や知識、指導力等、指導員としてのレベルアップと指導員間の連携強化を図る研修会を実施した。

ア. カヌープログラム

時期：平成26年9月5日(金)～7日(日)
場所：石川県七尾市B&G海洋センター
人数：21人
講師：大村 朱澄 (ロンドンオリンピック女子500m
カヤックシングルおよびペア)



イ. 水泳プログラム

時期：平成26年9月24日(金)～26日(日)
場所：北海道長万部町B&G海洋センター
人数：22人
講師：野口 智博氏 (日本大学文理学部
教授・B&G人材バンク特別講師)



ウ. ヨットプログラム

時期：平成26年11月13日(木)～15日(土)
場所：徳島県徳島市B&G海洋センター
人数：30人
講師：唐澤 敏哉氏 (株サーフレジェンド 気象予報士)



エ. 幼児運動プログラム

時期：平成27年2月12日(木)～13日(金)
場所：日本財団ビル2階会議室
人数：36人
講師：荒木 秀夫氏 (徳島大学 教授)
仲義 健氏 (豊岡市教育委員会)
今野 純氏 (アクアダイナミックス研究所)
藤井 初美氏 (深川VIP体操クラブ)



オ. 高齢者運動プログラム

時期：平成27年2月26日(木)～27日(金)
場所：日本財団ビル2階会議室
人数：32人
講師：高橋 紀子氏 (ルナ・イ・ソル代表)
大蔵 倫博氏 (筑波大学 准教授)
上岡 洋晴氏 (東京農業大学 教授)



3. B&G指導者会の登録と活動促進（日本財団助成事業）

全国指導者会の役員およびブロック責任者と連携し、全海洋センターへの地域指導者会の設置に努め活動の促進を図った。また、次年度の方針等の意見・情報の交換を行い、指導者会会員に情報を提供した。

(1) 地域指導者会の登録推進

平成26年度に新たに41海洋センターを登録し、地域指導者会の設置総数は434海洋センター（全センターの約92%）となった。（全国の指導者会一覧は96頁）

H27. 3. 31現在

No.	道府県	登録No.	市町村名	No.	道府県	登録No.	市町村名
1	北海道	360	伊達市	22	静岡県	359	沼津市戸田
2		342	上富良野町	23	滋賀県	361	日野町
3	宮城県	344	加美町中新田	24		356-1	甲賀市甲賀
4	秋田県	355	三種町八竜	25		356-2	甲賀市甲南
5		351	横手市十文字	26		353	近江八幡市安土
6		367	湯沢市	27	京都府	362	和束町
7	栃木県	349	鹿沼市粟野	28	和歌山県	347	紀の川市那賀
8		364	那須塩原市塩原	29	広島県	339-1	安芸高田市八千代
9		368	さくら市喜連川	30		339-2	安芸高田市美土里
10	埼玉県	369	鶴ヶ島市	31	福岡県	358	星野村
11	千葉県	371	いすみ市岬	32		372	宮若市宮田
12	新潟県	338-1	上越市頸城	33	長崎県	118-2	佐世保市鹿町
13		338-2	上越市安塚	34	大分県	346	日田市天瀬
14	富山県	352	氷見市	35		336	竹田市直入
15		366	上市町	36		341	豊後高田市真玉
16	福井県	354	越前町朝日	37	熊本県	343	城南町
17	長野県	345	上松町	38	鹿児島県	357	南大隅町佐多
18		365	生坂村	39		370	指宿市山川
19	静岡県	340	磐田市竜洋	40	沖縄県	337	伊江村
20		350	芝川町	41		348	うるま市勝連
21		363	御前崎市				

☆☆☆ 県別「B&G指導者会」登録数 ☆☆☆

ブロック	道府県名	センター数	登録数	登録率	未登録数	ブロック	道府県名	センター数	登録数	登録率	未登録数	
北 海 道	北海道	36	36	100%	0	近 畿	京都府	6	6	100%	0	
	東 北	青森県	12	12	100%		0	大阪府	3	3	100%	0
		岩手県	16	14	88%		2	兵庫県	19	14	74%	5
		宮城県	14	12	86%		2	奈良県	2	2	100%	0
		秋田県	16	15	94%		1	和歌山県	4	3	75%	1
		山形県	2	2	100%		0	鳥取県	7	7	100%	0
		福島県	7	5	71%		2	島根県	8	8	100%	0
関 東	茨城県	10	10	100%	0	中 国	岡山県	20	20	100%	0	
	栃木県	6	6	100%	0		広島県	14	14	100%	0	
	群馬県	4	3	75%	1		山口県	5	5	100%	0	
	埼玉県	9	7	78%	2		徳島県	8	8	100%	0	
	千葉県	12	12	100%	0		香川県	8	8	100%	0	
北 陸	新潟県	17	17	100%	0	四 国	愛媛県	8	8	100%	0	
	富山県	7	7	100%	0		高知県	4	4	100%	0	
	石川県	4	4	100%	0		福岡県	16	16	100%	0	
	福井県	12	8	67%	4		佐賀県	5	4	80%	1	
中 部	山梨県	10	8	80%	2	北九州	長崎県	8	8	100%	0	
	長野県	19	13	68%	6		大分県	19	19	100%	0	
	岐阜県	12	12	100%	0		熊本県	13	11	85%	2	
	静岡県	15	14	93%	1	南九州	宮崎県	2	1	50%	1	
	愛知県	5	5	100%	0		鹿児島県	18	16	89%	2	
	三重県	13	13	100%	0		沖縄県	6	4	67%	2	
	滋賀県	11	10	91%	1		合 計		472	434	92%	38

(2) 第5回「B&G全国指導者会」ブロック責任者会議

B&G全国指導者会の正副会長と全国10ブロックの責任者を対象に会議を開催した。

会議では、指導者会の運営・活動状況や問題点、次年度事業計画、指導者会設置100%に向けた各ブロックの取り組み、広報展開や今後への展望など、活発な意見が交わされた。



各ブロックからの出席者 (敬称略)

期 日	平成26年10月9日(木)～10日(金)
場 所	B&G 財団会議室 (東京都港区)
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ▶平成25年度事業報告決算および平成26年度事業計画予算の確認 ▶地域指導者会100%設置への状況確認と今後の見通し ▶平成26年度「会長賞」の選考 ▶平成27年度の基本的な事業内容 ▶第3回総会開催に向けた取り組み ▶指導員研修会の確認
参加者	全国指導者会 正副会長3人、 ブロック責任者10人 合計13人

ブロック名	責任者
北海道	草島 猛 (北海道石狩市)
東北	千葉 桂志 (宮城県登米市)
関東	白戸 重行 (茨城県石岡市)
北陸	多田 朗 (石川県七尾市)
中部	赤塚 誠 (岐阜県八百津町)
近畿	種継 武 (兵庫県上郡町)
中国	古崎 敏雄 (山口県周防大島町)
四国	藤原 元久 (愛媛県今治市)
北九州	古賀 博隆 (福岡県朝倉市)
南九州	柳田 孝志 (鹿児島県与論町)

(3) 「B&G全国指導者会」正副会長会議

平成26年度は、「B&G全国指導者会」の正副会長による会議を3回開催し、当該年度実績報告および次年度の活動計画・予算、設置状況の意見交換等を行った。

	開催日・開催場所	議題・審議事項等
第1回	平成26年6月26日(木)～27日(金) (B&G財団会議室)	<ul style="list-style-type: none"> ▶平成26年度 事業計画・予算計画について ▶平成26年度 事業計画の実施について ▶平成27年度以降の全国指導者会の在り方について
第2回	平成26年8月25日(月)～26日(火) (B&G財団会議室)	<ul style="list-style-type: none"> ▶平成25年度事業報告・決算および平成26年度事業計画・予算の確認について ▶地域指導者会100%設置への状況確認と今後の見通しについて ▶平成26年度「会長賞」の選考について ▶第3回総会開催に向けた取り組みについて
第3回	平成27年2月19日(木)～20日(金) (B&G財団会議室)	<ul style="list-style-type: none"> ▶平成27年度事業計画と予算計画の確認について ▶平成27年度以降の全国指導者会の在り方について ▶B&G財団の事業計画・スケジュール確認



B&G全国指導者会 会長
青森県南部町
工藤 祐直 町長



B&G全国指導者会 副会長
埼玉県久喜市
川島 正光 氏



徳島県阿南市
金久 博 氏



平成26年度全国指導者会 会長賞受賞指導者会

平成26年10月に開催した「B&G全国指導者会ブロック責任者会議」において、活動が顕著なB&G指導者会10カ所を審査により選出。平成27年度海洋センターブロック連絡協議会総会で表彰する。

県名	指導者会名	会長名
北海道	滝川市B&G海洋センター指導者会	山田 健治
青森県	六戸町B&G海洋センター地域指導者会	小泉 則雄
栃木県	B&Gしもつけ指導者会	近藤 隆博
富山県	B&G福野指導者会	上保 研三
岐阜県	可児市B&G海洋センター指導者会	高木 和博
京都府	宮津市B&G海洋センター指導者会	馬場 俊文
広島県	府中市B&G海洋センター指導者会	密山 康文
愛媛県	大三島B&G育成土会	奥野 靱
熊本県	津奈木町B&G海洋センター地域指導者会	平野 新市
佐賀県	江北町B&G指導者会	相島 千代治

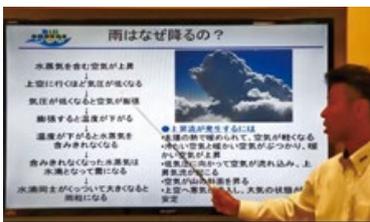
(4) 周知活動

B&G全国指導者会「かわら版」発行

全国指導者会の情報紙として「かわら版」を発行。地域の活動や情報などを発信している。



指導者用DVD作成 「気象・防災に関する知識」



「B&G全国指導者会」ポスター 活動方針・活動目標（H25年～H27年）

平成25年～平成27年
活動方針・活動目標
未来を担う子どもたちのために
“育てよう生きる力”
“とどけよう笑顔と元気”

【活動目標】

1. 組織力の強化・地域社会との連携
 - 全国指導者会の組織整備を推進し、B&G地域指導者会の100%設置を達成する
 - 地域との連携を強化し、地域住民の理解づくりに貢献する
2. 生きる力を育てる自然体験活動等のさらなる実践
 - 自然や水とふれあう中から、子どもたちに生きる力を発掘させる
 - 自然体験活動や水辺の安全教育を通じて、親子等の交流の場を提供する
3. 海洋センター等の有効活用・活動の活性化
 - 海洋センターを総合とする施設を活用し、利用促進策、活動を活性化させる
4. 指導者の資質向上
 - 最新技術や知識を常に取り入れた研修を推進し、自己研鑽に励む
 - 人材育成研修会を活用し、能力向上を促進し、実践に活かす
5. 指導者会の情報ネットワーク構築
 - 全国に連携し、より密な指導者会の情報ネットワークを築く
6. 有益な情報発信と活動の周知
 - 会報「かわら版」を刊行し、メディア・会報等に有益な情報を提供する
 - 各種媒体を使い、全国指導者会・B&G指導者の活動を周知する
7. 全国指導者会シンボルマークの普及と活用
 - 新たに決まったシンボルマークを有効活用し、普及に努める

水の安全教養の資質 海のレク体験の実践 自然体験活動の推進

B&G全国指導者会
事務局：B&G本部（東京都）
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-4-10 丸の内三井ビル
TEL: 03-5426-3252 / FAX: 03-5426-3253

B&G全国指導者会 活動方針・活動目標（平成25年～平成27年）

活動方針 未来を担う子どもたちのために
“育てよう生きる力” “とどけよう笑顔と元気”

B&G全国指導者会会員は、「未来を担う子どもたちのために」を基軸とし、“育てよう生きる力”“とどけよう笑顔と元気”の行動指針のもと、指導者としての経験や高度な技術、指導力を活かし、日本全国での「自然体験活動」や「水辺の安全教育」の推進、未来を担う子どもたちのために“育てよう生きる力”“とどけよう笑顔と元気”の実現に向け、会員が一致団結し、青少年の健全育成に努めることを活動方針とする。

- | | | |
|--------------|---------------------------|------------------------|
| 活動目標
(項目) | 1. 組織力の強化・地域社会との連携 | 4. 指導者の資質向上 |
| | 2. 生きる力を育てる自然体験活動等のさらなる実践 | 5. 指導者会の情報ネットワーク構築 |
| | 3. 海洋センター等の有効活用・活動の活性化 | 6. 有益な情報発信と活動の周知 |
| | | 7. 全国指導者会シンボルマークの普及と活用 |

ネットワーク構築と調査研究事業

少子・高齢化をはじめ経済・行政・教育・情報など、地域社会を取り巻く環境は目まぐるしく変化している。B&G財団は、常に世の中の変化に対応し、多様化する地域住民や自治体のニーズに合った事業の推進に努めている。全国にはりめぐらされた“ネットワーク”を通じてノウハウを共有するとともに、自治体の首長や教育長を対象とする「B&G全国サミット」などの全国会議を開催し、地域の要望を事業に反映した公益性の高い事業を提供している。また、「B&Gプラン」の推進に係る様々な情報をインターネットを通じて広く社会に発信している。

1. ネットワーク構築

(1) 情報ネットワークに係る活動

ア. 情報ネットワークの強化

(ア) 情報ネットワークシステムの安定運用

全国の海洋センター・海洋クラブ、海洋センター所在自治体等との連携強化と財団事業の効果的な展開を図るため、システムの安定した運用に努めた。

また、インターネット回線の高速化を行い、業務効率の向上と経費節減を図った。

(イ) インターネットを利用した大会の提供

主に海洋センター利用者を対象に、日々の練習や活動の成果を競う場として、インターネットを活用した大会を開催した。

大会等名称	申請件数
インターネット水泳記録会	6,455件
ウォーターマラソン (サマーチャレンジ)	7,849件 (3,019件)

イ. 情報ネットワークシステムを活用した情報共有の推進（日本財団助成）

全国の海洋センター・海洋クラブ、指導者等との更なる情報共有を推進し、財団事業の効率的、効果的な普及・展開を図るため、情報ネットワークシステム「B&Gコンパス」の改修を実施し、機能向上を図った。

主な改修内容

機能名	改修項目
メッセージ機能	メールソフトのような機能、操作性の充実
センター情報機能・指導者情報機能	データ活用のための検索、抽出仕様の改善
ユーザ・ログイン機能	ログイン・ユーザ管理機能の向上
配信先選択、検索機能	配信先選択や検索機能の向上
活動人数集計機能	入力フォームや統計データ出力表示の改善



(2) 人的ネットワークを推進する会議等の実施（日本財団助成事業）

ア. 第7回「B&G全国サミット」の開催

B&G海洋センターの更なる活用で地域を元気に!!

367自治体から211人の首長をはじめ副首長・教育長など過去最高の769人が出席

全国の海洋センター所在自治体の首長と教育長を対象に開催している「B&G全国サミット」は、当財団と自治体、自治体間相互の情報を共有しながら連携を強化し、一丸となって青少年の健全育成をはじめ地域の活性化と発展に寄与することが目的。

7回目となる今回は「B&G海洋センターの更なる活用で地域を元気に!!」をテーマに開催。海洋センター所在全390市町村の94%にあたる、367自治体から211人の首長をはじめ副首長や教育長など686人が出席（前回比104%）。来賓やポートルース関係者、マスコミ関係者を含め、過去最高の合計769人が来場した。

当日は、日本財団 笹川陽平 会長による特別基調講演をはじめ、地域のコミュニティ施設としての海洋センターの活用事例やB&G財団の新たな取り組みを紹介。また、“地域の元気”を促進するため、今後も財団事業の積極的な活用を確認するとともに、財団に対し、活動の基盤となる海洋センターの修繕助成継続の要望および、B&Gネットワークの活用による災害時の協力体制構築の提案がなされた。最後に引き続き「共同宣言」を推進していくことが確認され、会議終了後には“優良海洋センターの表彰”や“2014広報大賞の表彰”なども行われた。



主催者挨拶

「時代に即した新たな取り組みを展開します」

B&G財団 会長 梶田 功



「消滅可能性自治体が注目され、多くの自治体が危機感を感じている。B&G財団では青少年の健全育成もさることながら、地域を元気にする新しい事業にも積極的に取り組んでいく。様々な団体とも連携した“時代に即した新たな取り組み”に対してご理解とご協力をお願いしたい」

「時代に即した新たな取り組み」に対してご理解とご協力をお願いしたい」

特別基調講演

「ハンセン病を考える 日本と世界の今」

日本財団 笹川 陽平 会長



「病気を制圧することができても、今なお残る偏見や差別をなくさなければ問題は解決しません。

また、日本の再生は皆さんの手にかかっている。英知を結集し皆さん方の地方から元気

を出し、日本の国を良くしていく心意気で活力ある地方をつくっていただきたい」

日時	平成27年1月28日(水) 14:00~17:00		
場所	笹川記念会館国際会議場（東京都港区）		
参加者	海洋センター関係	首長	211人
		副首長	46人
		教育長	204人
		代理等	225人
	来賓	ポートルース関係者 関連団体 等	28人
報道関係者	マスコミ関係者	55人	
合計			769人



首長・副首長・教育長など769人が出席

正・副会長の選任

「B&G全国町村長会議」正副会長の任期満了に伴う新役員選任の後、「B&G全国サミット」の副会長が併せて選任され、昨年度選任された「B&G全国市長会議」の正副会長とともに「B&G全国サミット」の副会長に選任された。

「B&G全国サミット」会長・副会長

会長	新潟県胎内市 吉田 和夫 市長
副会長	千葉県香取市 宇井 成一 市長
	静岡県掛川市 松井 三郎 市長
	青森県南部町 工藤 祐直 町長
	山口県周防大島町 椎木 巧 町長
	奈良県曽爾村 芝田 秀数 村長



左から：松井 副会長、宇井 副会長、吉田 会長
工藤 副会長、椎木 副会長、芝田 副会長

「B&G全国町村長会議」会長・副会長

会長	青森県南部町 工藤 祐直 町長
副会長	山口県周防大島町 椎木 巧 町長
	奈良県曽爾村 芝田 秀数 村長

教育長会議の報告

平成26年11月26日・27日に開催された第11回「B&G全国教育長会議」の報告が、同会議の川上一郎 副会長より行われた。

「B&Gプランを推進する提言を引き続き推進していくことが参加者全員で確認されました」



「B&G全国教育長会議」副会長
高知県津野町 川上 一郎 教育長

次 第

テーマ：B&G海洋センターの更なる活用で地域を元気に!!

第1部 14:00～

1. 主催者挨拶 B&G財団 会長 梶田 功
2. 来賓紹介
3. 特別基調講演
「ハンセン病を考える 日本と世界の今」..... 日本財団 笹川 陽平 会長

第2部 (議事)

4. 正副会長の選任・挨拶
5. 第11回「B&G全国教育長会議」の報告 ... 高知県津野町 川上 一郎 教育長
6. B&G財団からの事業説明
7. 海洋センターを活用した取り組み事例の発表
 - ▶ 町民の集うB&Gをめざして 愛媛県久万高原町 高野 宗城 町長
 - ▶ ながしまサマースクール
～B&G全国サミットで結ばれた北と南の友情物語～
..... 鹿児島県長島町 川添 健 町長
..... 北海道東神楽町 山本 進 町長
 - ▶ プラチナ社会を目指して 島根県雲南市 速水 雄一 市長
8. B&G財団への要望等
9. 第7回B&G全国サミット共同宣言の確認

第3部 (表彰)

10. 2014 B&G広報大賞表彰
11. 優良海洋センター表彰

交流会 17:20～

B&G財団からの事業紹介

2015年度は「青少年の健全育成計画」(5ヵ年)に基づき、青少年の心身を鍛え、これからの時代を生き抜く力の育成などを目的に、必要な既存事業を含む新たな事業展開について説明した。

- ▶ 2015年度の事業について
- ▶ 地域コミュニティ再生・活性化の調査・研究
- ▶ コミュニティ機能付加改修支援
- ▶ 「避難所開設訓練」および「全国対抗事業」
- ▶ 誰もが海に親しめる事業の推進

「海洋センターを活用した取り組み事例」発表

様々な地域のニーズに応じて海洋センターを活用している事例として、4ヵ所の海洋センター所在自治体から発表を行った。

= 町民の集うB&Gを目指して =

愛媛県久万高原町 高野 宗城 町長



「海洋センターを活用しながら、地場産業振興をテーマにした『久万林業まつり』や高原野菜等の特産品販売、地元の文化祭などのほか、地域防災拠点・緊急避難所として利用しています」

= プラチナ社会を目指して =

島根県雲南市 速水 雄一 市長



「『市民一人ひとりがプラチナのように輝いて過ごせる町』を目指して海洋センターを地域活性化の場として位置づけ、さまざまな地域おこし事業を展開しています」

= 「ながしまサマースクール」 = ～ B&G全国サミットで結ばれた北と南の友情物語 ～

北海道東神楽町 山本 進 町長



「どちらの町も花づくりに力を注いでいることから、一昨年のB&G全国サミットで懇意となり、両町の子供たちの交流事業が実現しました。昨年の夏休みには、内陸にある東神楽町の子供たちが海のある長島町でホームステイをしながらカヌーやさまざまな体験を行いました」

鹿児島県長島町 川添 健 町長



B&G財団への要望等について

事前に首長から提出された意見や要望を取りまとめ、吉田会長から当財団に対し「今後も地方の元気を促進するため、修繕助成の継続を要望するとともに災害時にはB&Gネットワークを活用し助け合う」ことが提案され、出席者の拍手によって承認された。

これに対し、B&G財団専務理事 菅原悟志からは、「今後も積極的に地域を元気にするための支援を行う。修繕助成については、ポートレース関係者の協力を得て継続できるよう努めて行く。また、災害時の応援体制についてもB&Gネットワークを最大限に活用できるよう、早急に検討する」との回答がなされた。



「共同宣言」の確認

吉田会長の進行により、本サミットにおいても、青少年の健全育成、地域住民の健康づくりを行うとともに全6項目の「共同宣言」を引き続き積極的に推進していくことが確認された。



★★★ 優良海洋センター表彰 ★★★

平成26年4月度評価で「特A評価」となった189海洋センター、「A評価」となった115海洋センターを紹介し表彰。表彰状は10年連続「特A評価」を獲得した広島県府中市の戸成市長と愛媛県愛南町の清水町長に代表で手渡された。



表彰を受ける特AおよびA評価センター



府中市 戸成市長（左）と愛南町 清水町長（右）

★★★ 「2014B&G広報大賞」表彰 ★★★

平成26年度の広報大賞に選ばれた兵庫県香美町香住海洋センターの浜上勇人町長には、審査委員長の岸ユキ氏より表彰状と賞品目録（一眼レフデジタルカメラ）が贈られた。



岸 審査委員長(左)から香美町 浜上 勇人町長に賞状と賞品目録が手渡された

第7回「B&G全国サミット」共同宣言

一、海洋センターとの連携

B&G財団と全国390市町村との連携をさらに深め、一丸となって“B&Gプラン”＝スポーツ・健康・人づくり＝を推進する。

一、施設の運営と管理

市町村合併の有無にかかわらず、今後も“B&Gプラン”の趣旨に則り、全ての施設について善良なる維持・管理に努め、運営にあたっては“B&G指導員”を適切に配置する。また、その推進のため“B&G指導者会”を設立し、その活用を図る。

一、積極的な事業の推進

“B&Gプラン”の理念を再認識するとともに、B&G財団が実施する新たなソフト事業を最大限に活用し、青少年の健全育成と地域住民の健康づくりを積極的に推進する。

一、情報・ノウハウの共有

海洋センターの情報・ノウハウを共有し、コンパスと人的ネットワーク、そしてブロック連絡協議会を通じて地域交流の促進、および地域海洋センターの活性化を図る。

一、環境・防災・水辺の安全教育の推進

全国の海洋センター・指導者会などが協力し、青少年の「生きる力」を育む“自然体験活動”と“環境・防災・水辺の安全教育”を積極的に推進する。

一、「東日本大震災」の復旧・復興

日本一の「健康・人づくり」のネットワークを活用し、今後とも各種の支援活動を継続するとともに、B&G「日本元気復活事業」などを通じ、被災地に元気と希望を提供する。

2015年1月28日

海洋センター所在市町村長一同

自治体紹介ブース

今年度初の試みとして、海洋センター所在自治体を紹介する「自治体紹介ブース」を設置。10年以上連続で「特A評価」を獲得している5つの自治体の特産品や町のPR等を行った。



交流会

会議終了後には“交流会”を開催。各自治体の話題や海洋センターの活動などに関する様々な情報交換が行われ、交流を深めた。



情報交換を行う出席者



自治体紹介ブースで特産品を試食する出席者

イ. 第11回「B&G全国教育長会議」開催

38人の教育長を含む78人の教育関係者等が出席!!
 テーマは“尊い命を守るために ～事例から学ぶ防災教育～”

平成26年11月26日(水)、27日(木)の両日、東京都港区の日本財団ビルにて、「尊い命を守るために～事例から学ぶ防災教育～」をテーマに、第11回「B&G全国教育長会議」を開催。全国44道府県から38人の教育長を含む78人の教育関係者等が出席した。

会議では、初日に群馬大学大学院理工学府の片田敏孝教授による基調講演「命を守る主体的姿勢を育む防災教育～釜石市津波防災教育に学ぶ～」をはじめ、NPO法人レスキューストックヤードの松山文紀氏による事例発表「学校に求められる地域防災拠点としての役割」や5人の教育長による事例発表などを実施した。



主催者挨拶

B&G財団 会長 梶田 功



「東日本大震災をはじめとする自然災害が多発しており、行政の皆様もご苦労が続いている。自分の命は自分で守る“自助意識”を養うことが子供たちの命を守る喫緊の課題であり、今後ますます青少年への防災教育が必要不可欠となってまいります」

基調講演

命を守る主体的姿勢を育む防災教育
 ～釜石市津波防災教育に学ぶ～
 群馬大学広域首都圏防災研究センター長
 群馬大学大学院理工学府 教授 片田 敏孝氏



「津波(災害)は必ずやってくるが、常に恐れている必要はない。その時だけ『避難三原則』に則ってしっかりと避難することが、その地に住まう人の(自然に対する)『作法』である。こうした子供たちへの学び・防災教育が世代を超えた地域の防災文化として広まることを期待しています」

日時	平成26年11月26日(水)14:00～17:40 ～27日(木) 9:00～11:30		
場所	日本財団ビル(東京都港区)		
参加者	海洋センター関係	教育長	38人
		首長部局代表者	2人
		代理	11人
		随行者	11人
		来賓・報道	16人
合計		78人	

次 第

テーマ：尊い命を守るために ～事例から学ぶ防災教育～

- [1日目] 11月26日(水)
- 第1部 14:00～
- 主催者挨拶 B&G財団 会長 梶田 功
 - 来賓・出席者紹介
 - 役員の変更について・正副会長挨拶
 - B&G財団からの事業説明
 - 教育長事例発表I
 - 主体的に行動する力を身につけた生徒の育成
～自分の命を守り抜く力の向上を目指して～ …… 熊本県南阿蘇村 藤岡 孝輔 教育長
 - 北広島町大朝小学校での防災教育の取り組み
～8月広島豪雨土砂災害から学ぶ～ …… 広島県北広島町 池田 庄策 教育長
 - 基調講演
「命を守る主体的姿勢を育む防災教育」～釜石市津波防災教育に学ぶ～
…… 群馬大学広域首都圏防災研究センター長 群馬大学大学院 理工学府 教授 片田 敏孝氏
- 交流会 17:50～
- [2日目] 11月27日(木) 9:00～
- 教育長事例発表II
 - 「稲むらの火」と広川町の防災教育 ～学校と地域が連携した防災教育～
……和歌山県広川町 松林 章 教育長
 - 興津地区自主防災組織の取り組み ……高知県四万十町 川上 哲男 教育長
 - 我々は何を知り、何を考え、何をすべきか…… 兵庫県篠山市 前川 修哉 教育長
 - NPO法人からの事例発表「学校に求められる地域防災拠点としての役割」
…… NPO法人レスキューストックヤード スタッフ「震災が無く全国ネットワーク」事務局長 松山 文紀 氏
 - B&G全国教育長会議「提言」

役員改選・正副会長挨拶

「青少年の健全育成とブロック連絡協議会の活性化に向けて、皆様のご協力をお願いします」



(左) 会長：北海道砂川市 井上克也 教育長(新任)
 (中央) 副会長：高知県津野町 川上一郎 教育長(再任)
 (右) 副会長：愛知県東栄町 伊藤 勉 教育長(新任)

防災教育に力を入れている5ヵ所の海洋センター所在自治体から事例発表が行われた。

主体的に行動する力を身につけた生徒の育成
～自分の命を守り抜く力の向上を目指して～

熊本県南阿蘇村 藤岡 孝輔 教育長



「平成24年の九州北部豪雨をきっかけに防災教育に一段と力を入れるようになりました。多角的な防災教育を進めることで、生徒たちは防災意識が高まり家庭においても防災意識の変化が生まれています」

北広島町大朝小学校での防災教育の取り組み
～8月広島豪雨土砂災害から学ぶ～

広島県北広島町 池田 庄策 教育長



「昨年8月の広島土砂災害以降、多くの自主防災組織が結成され、地域の小中学校も地域の防災組織と連携強化し、地域ぐるみで安全・安心の社会づくりを推進しています」

「稲むらの火」と広川町の防災教育
～学校と地域が連携した防災教育～

和歌山県広川町 松林 章 教育長



「多くの村人を津波から救った濱口梧陵を称える“津波祭”を112年にわたり実施しており、この高い防災意識は後世にもしっかりと伝承していきます」

興津地区自主防災組織の取り組み

高知県四万十町 川上 哲男 教育長



「興津地区は“自分たちの命は自分たちで守る”ことを目的に自主防災組織を地域の小学校と連携して発足。子供たちも防災リーダーの一員として、自助・共助・公助の三位一体となった地域防災文化の醸成をめざしています」

我々は何を知り、何を考え、何をすべきか

兵庫県篠山市 前川 修哉 教育長



「兵庫県では震災・学校支援チーム『EARTH』があり、地域ごとに防災教育推進リーダーを育成しています。学校の防災教育でもいざというときに自分が何をできるかについて児童が住民とともに考える機会を設けています」



「学校に求められる地域防災拠点としての役割」

NPO法人レスキューストックヤード スタッフ

「震災がつなぐ全国ネットワーク」事務局長 松山 文紀 氏

学校は地域の人たちの心の拠り所でもあります。災害時には、学校は様々な機能の拠点となり混乱する場合もあるので、平時から自治会やPTAなどとともに考えておくことが大切です



「B&G全国教育長会議」提言の採択

会議2日目には、井上会長の進行により、「B&Gプランを推進する提言」が参加者一同の賛同を得て採択された。

第11回B&G全国教育長会議



「B&Gプランを推進する提言」

- 一、自然体験活動を実践する「指導員の養成」と「B&G指導者会の設立」推進
環境教育も指導できる「B&G指導員」を積極的に養成し、また、多くの人材・指導者を必要とする自然体験活動を促進するため「B&G指導者会」設立を推進しよう。
- 一、地域と学校との連携強化
地域の自然や、子供たちの知性と感性を育む、学校と連携した事業や、BGプール・学校プールで、安全教育「着衣泳」「カヌー・ヨット教室」を推進しよう。
- 一、海洋性レクリエーション事業の推進
海洋基本法にも謳われている「国民の海洋への理解促進」に繋がる海洋性レクリエーション事業の推進のため、海・自然の体験、集団生活から自立心や協調性を学ぶ体験事業へ積極的に参加しよう。
- 一、親子・家族の絆の推進
自然に親しみ親と子が共に汗をかき、協力して達成感を得る“親子ふれあいキャンプ”など、親と子の絆を深める事業を推進しよう。
- 一、海洋センター・クラブの活用
自然体験活動、安全教育などを実践する拠点である、「海洋センター・海洋クラブ」を活用し、子供や地域の住民が参加できるように、活動を積極的に支援しよう。
- 一、環境・防災・水辺の安全教育の推進
全国の海洋センター・指導者会などが協力し、青少年の「生きる力」を育む“自然体験活動”と“環境・防災・水辺の安全教育”を積極的に推進する。

2014年11月27日
第11回「B&G全国教育長会議」

交流会

第1日目の会議終了後には交流会が開催され、参加者相互による情報交換を行いながら親睦が図られた。



ウ. 「海洋センターブロック連絡協議会」 総会への出席

海洋センターブロック連絡協議会および海洋センター道府県連絡協議会の活動促進を図るため、全国10ブロック連絡協議会が主催する総会に、財団の役員およびブロック担当職員が出席した。

No.	ブロック	開催地	開催日	出席センター・クラブ数および人数
1	北海道	北海道 砂川市	4月23日(水)	36海洋センター 68人(含:首長9人、副首長2人、教育長19人)
2	東北	青森県 十和田市	4月24日(木)	56海洋センター・1海洋クラブ 93人(含:首長6人、教育長7人)
3	関東	東京都 港区	4月21日(月)	41海洋センター 71人(含:首長18人、副首長5人、教育長6人)
4	北陸	石川県 七尾市	5月12日(月)	37海洋センター 61人(含:首長3人、教育長6人)
5	中部	長野県 上松町	5月13日(火)	73海洋センター 146人(含:首長13人、副首長5人、教育長19人)
6	近畿	和歌山県 広川町	5月22日(木)	43海洋センター 64人(含:首長2人)
7	中国	島根県 出雲市	5月21日(水)	50海洋センター 82人(含:首長3人、副首長2人、教育長4人)
8	四国	徳島県 徳島市	5月15日(木)	28海洋センター・2海洋クラブ 83人(含:首長12人、副首長1人、教育長13人)
9	北九州	大分県 豊後高田市	5月29日(木)	42海洋センター 68人(含:首長7人、副首長2人、教育長4人)
10	南九州	鹿児島県 与論町	5月22日(木)	36海洋センター 76人(含:首長1人、副首長8人、教育長4人)
合 計				442海洋センター・3海洋クラブ 812人(含:首長74人、副首長25人、教育長82人)

次 第(例)

1. 主催者挨拶 …………… ブロック連絡協議会 会長
2. 来賓挨拶 …………… B&G財団 役員
3. 議 事
 - 議案第1号 平成25年度事業報告について
 - 議案第2号 平成25年度決算報告について
 - 【監査報告・ブロック内活動事例報告】
 - 議案第3号 平成26年度事業計画(案)について
 - 議案第4号 平成26年度予算(案)について
 - 報 告 事 項
 - 報告事項 B&G特派員の紹介について
 - 第10回B&G全国教育長会議について
4. B&G全国指導者会の活動について
5. 平成26年度B&G財団事業説明
6. センター表彰
 - 利用状況の優良海洋センター表彰(施設別ベスト30)
 - 広報大賞の表彰

「海洋センターブロック連絡協議会」総会では、平成25年度の“施設別利用者ベスト30”の表彰も行われた。(写真は関東ブロック)

(体育館)



左から
埼玉県松伏町、
埼玉県久喜市栗橋、
埼玉県鶴ヶ島市

(温水プール)



左から
群馬県玉村町、
栃木県芳賀町、
埼玉県白岡市、
群馬県明和町、
千葉県横芝光町



「関東ブロック総会」には、29人の首長・副首長・教育長が出席



艇庫の部第20位の千葉県香取市

平成26年度「ブロック連絡協議会」幹事センターおよび会長

No.	ブロック名	海洋センター名	会長名
1	北海道	北海道 砂川市	砂川市 善岡 雅文 市長
2	東北	岩手県 一関市	一関市 勝部 修 市長
3	関東	埼玉県 鶴ヶ島市	鶴ヶ島市 藤縄 善朗 市長
4	北陸	福井県 美浜町	美浜町 山口 治太郎 町長
5	中部	長野県 上松町	上松町 田上 正男 町長
6	近畿	和歌山県 広川町	広川町 西岡 利記 町長
7	中国	島根県 出雲市平田	出雲市 長岡 秀人 市長
8	四国	徳島県 牟岐町	牟岐町 福井 雅彦 町長
9	北九州	大分県 豊後高田市真玉	豊後高田市 永松 博文 市長
10	南九州	鹿児島県 与論町	与論町 南 政吾 町長

Ⅱ. 自治体職員のB&G財団への派遣研修

海洋センター所在市町村から自治体職員を受け入れ、当財団事業への参画や“アドバンスト・インストラクター養成研修”をはじめ各種研修に参加し、財団への理解促進および自治体相互の協力体制の強化を図った。平成15年度から36人を受け入れた。



自治体派遣職員
左から 堀 利考、加藤 真央、平尾 卓
(敬称略)

平成26年度 自治体派遣研修参加者 (敬称略)

氏名	自治体名	期間
加藤 真央	三重県志摩市	平成26年4月 1日 ～ 平成27年3月31日
平尾 卓	茨城県北茨城市	
堀 利考	福井県大野市	

参加者一覧

(敬称略)

年度	氏名	所属	期間	年度	氏名	所属	期間
H15	池田 茂喜	北海道滝川市	上期 (6カ月間)	H22	和田 智磯	鹿児島県天城町	1年間
	米内 聡	青森県南部町	上期 (6カ月間)		大内 義崇	北海道鷹栖町	1年間
H16	小島 武史	北海道砂川市	1年間		山田 正直	新潟県胎内市	1年間
	島袋 一平	沖縄県名護市	上期 (6カ月間)		工藤 陽平	熊本県湯前町	1年間
H17	安里 孝夫	沖縄県本部町	1年間	H23	土岐 竜馬	三重県いなべ市	1年間
	林 桂太郎	岐阜県可児市	上期 (6カ月間)	久留米 三四郎	兵庫県南あわじ市	1年間	
H18	丹場 康雄	北海道積丹町	下期 (6カ月間)	亀山 直記	大分県佐伯市	1年間	
	真砂 敏文	大分県杵築市	1年間	H24	糺谷 哲史	埼玉県久喜市	1年間
	猪岡 靖士	岡山県井原市	上期 (6カ月間)	鈴木 翔太	福井県大野市	1年間	
	高田 知史	福岡県柳川市	上期 (6カ月間)	曾根 由多	静岡県牧之原市	1年間	
H19	川原 陽介	鹿児島県阿久根市	上期 (6カ月間)	H25	門間 瑛司	宮城県大郷町	1年間
	千葉 桂志	宮城県登米市	1年間	岡本 祐子	山口県周防大島町	1年間	
	山田 誠	徳島県徳島市	上期 (6カ月間)	大崎 あや	高知県津野町	1年間	
H20	瀧田 宗蔵	鹿児島県いちき串木野市	上期 (6カ月間)	H26	加藤 真央	三重県志摩市	1年間
	額田 泰充	岡山県瀬戸内市	下期 (6カ月間)	平尾 卓	茨城県北茨城市	1年間	
H21	大門 英人	北海道大樹町	1年間	堀 利考	福井県大野市	1年間	
	磯川 由美子	青森県南部町	4月～10月		合計 36人		
H21	向後 智一	千葉県香取市	1年間				
	山田 丈寿	岐阜県八百津町	1年間				
	藤田 幸一郎	長崎県佐世保市	1年間				

2. 調査研究等の活動

B&G財団事業および海洋センター・海洋クラブの活動成果を取りまとめるとともに、その活動の重要性や効果を検証し、B&Gプランの推進に係る調査研究を行った。

(1) 時代に即した事業展開のための調査研究（日本財団助成事業）

新たな事業展開を図るために、3つのテーマによるプロジェクトチームを立ち上げ、新規事業の方向性および継続事業の新たな普及展開方法の検討に係る調査を行った。

プロジェクトテーマ	調査内容	詳細
海洋教育の推進	新たな体験活動	新たな海洋体験活動に関する情報収集・事業視察 体験活動の先進事例に関する調査
海洋センター・クラブの活性化	新たな活用法	「防災事業」に関する情報収集・視察 “地域コミュニティ活性化”支援事業に関するヒアリングおよびアンケート調査
	B&G指導員の地域連携	B&G指導者会と学校・保護者・地域等との連携による“モデル事業”の実施および事例の収集
B&Gプランの推進	オリンピック寄付支援	五輪を目指すウォータースポーツに取り組む選手への寄付支援の検討
	オンラインクイズ大会	トライアル大会の実施
	地域支援ボランティア	ボランティア活動に関するヒヤリング等

(2) 地域の特色ある事業への協力（日本財団助成事業）

B&GネットワークとB&G指導員の特性を活かし、親子や異年齢間における海や自然に親しむ体験活動をはじめ、子供たちの「生きる力」の育成、地域の活性化を目的とする下記32事業に対し、経費の一部補助として8,148,752円の共催金を交付した。（詳細は95頁）

対象	事業数	事業費	共催金交付額
海洋センターブロック連絡協議会	10	2,623,020円	1,903,715円
海洋センター道府県連絡協議会	1	489,182円	473,936円
海洋クラブ	7	3,369,099円	2,434,511円
指導者会	14	3,732,315円	3,336,590円
合計	32	10,213,616円	8,148,752円



東北ブロック連絡協議会
「がんばろう!東北B&G海洋体験交流会」



B&G宮崎シーライオンクラブ
「第2回サンビーチ・ーツ葉カヌーアスロン」

(3) 事業成果の分析・評価

平成25年度の財団事業および海洋センター・海洋クラブ活動状況の詳細について分析し検証を行うとともに、全体を取りまとめた「B&G財団活動実績報告書」を作成・発行し、情報の公開を行った。

時期：平成26年7月1日発行

配付先：地域海洋センター所在市町村長・教育長、地域海洋センター・海洋クラブ、ボートレース関係者ほか

仕様：A4版、110頁



3. 広報活動

青少年の健全育成や地域住民の「健康づくり・人づくり」の推進など、当財団と全国の海洋センター・海洋クラブが取組む事業や活動を広く一般に周知するため、マスメディアによる広報をはじめとする各種の広報活動を積極的に展開するとともに、情報の提供を行った。

(1) 広報活動

ア. マスメディアによる広報

財団事業および海洋センター・海洋クラブの活動を広く社会へ周知するため、新聞・テレビ等へのパブリシティ広報活動を行った。

プレスリリースの発信：133件

取材実績：新聞165紙・雑誌3誌・テレビ18局

イ. 「B&G広報大賞」の選出と表彰

「B&G広報大賞」は、海洋センター・海洋クラブの活動を広く周知するため、積極的な広報活動を展開し、B&Gプランの普及に努めた海洋センター・海洋クラブを表彰することを目的に実施している。

審査部門は、「テレビの部」・「新聞の部」・「ホームページの部」・「地域広報の部」・「B&G特派員の部」の5部門で、「2014B&G広報大賞」への応募件数は2,404件。広報大賞審査委員8人による審査委員会で、各審査部門から優秀賞を選出し、その中から最高の栄誉となる広報大賞が選ばれた。

なお、広報大賞は、平成27年1月28日に笹川記念会館で開催した「第7回B&G全国サミット」で表彰した。優秀賞については、平成27年度の各ブロック総会で表彰する。



審査委員会

「2014 B&G広報大賞審査委員会」

日 時：平成27年1月16日(金) 14時～17時

場 所：B&G財団会議室

出席者：B&G広報大賞審査員8人（審査員のコメントについては54・55頁を参照）

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★ 2014 B&G広報大賞 ★★★★★★★★★★★★★★★★★★

B&G広報大賞

兵庫県香美町香住B&G海洋センターが受賞！

今回、広報大賞に輝いたのは、「新聞の部」で優秀賞に選ばれた兵庫県香美町香住B&G海洋センター。

「もっと掘り下げた記事で海洋センターの活動を伝えたい」という県紙「日本海新聞」（発行部数17万部）の要望を受けて、エッセイ風に日々の事業を解説する「B&G徒然日記」が2014年4月から月に1回の掲載でスタート。

その内容は幼児時期の運動の大切さを伝えるときもあれば、高齢者も参加できる健康体操教室の紹介もあるなど多岐にわたっている。

新聞記者との交流によって生まれた記事のアイデアを形にしたうえ、自ら原稿を書いて連載を支えている点が審査委員から大きな評価を受けた。



海洋センター職員が自ら原稿を書き連載を支える「B&G徒然日記」

受賞の感想

香美町香住B&G海洋センター 担当：駒居 大輔 氏

広報大賞受賞の一報を受け、職員一同が大変驚き、喜びました。受賞に対し感謝申し上げます。今年度、新たな新聞広報として毎月1回「B&G徒然日記」により様々な活動、指導員の思いなど発信しております。このように評価していただき嬉しく思います。

ただ、今年度の取り組みだけでは受賞に至らなかったのではないかと思います。前任の方々が精力的に、そして着実に続けられた活動が実を結んだものと実感しております。今後もこうした活動を続け、町民にとって身近で愛されるB&Gを目指します。



職員みんなで喜びました！

優 秀 賞

「テレビの部」

1	徳島市（徳島県）	1泊2日の日程で実施された「水と親しむ親子防災キャンプ」の様子を、9分間にわたって紹介。B&Gのテロップ、紹介アナウンスのほか、横断幕の掲示も入っている。
2	伊丹海洋クラブ（兵庫県）	マリンスポーツに触れる機会の少ない障害者のためのヨット体験会を1分10秒にわたって紹介。参加者はB&Gグッズを着用。B&Gの紹介アナウンスも入っている。
3	高松海洋クラブ（香川県）	ユースワールド参加資格を得たクラブの選手を7分40秒にわたって紹介。選手が教育長を表敬訪問したことが取材につながった。B&Gテロップ、紹介アナウンスも入っている。

「新聞の部」

1	滝川市（北海道）	地方紙、ブロック紙（地域版）を中心に19点の記事を応募。日頃から事業ごとに報道機関へ周知を行っており、掲載された場合は後日、お礼の挨拶に行っている。
2	室蘭市（北海道）	地方紙を中心に8点の記事を応募。その大半がカラー記事で目を引く構成になっている。いつも記者に取材依頼を直接行って事業内容を伝えており、その努力が実っている。
3	熊野市紀和（三重県）	地方紙および全国紙（地方版）の記事39点を応募。日頃から積極的に取材依頼を行っており、記者の都合が取れない場合は自ら作った原稿を送って掲載を依頼している。
4	香美町香住（兵庫県）	県紙の記事14点を応募。日頃から記者とコミュニケーションを深めており、そのなかで生まれたエッセイ記事「B&G徒然日記」が審査委員から高い評価を受けた。
5	雲南市加茂（島根県）	地方紙、県紙を中心に22点の記事を応募。事業ごとに必ず取材依頼を行っており、自前の新聞も定期的に発行してセンター内に掲示する努力を続けている。

「地域広報の部」

ケーブルテレビの部

周防大島町（山口県）	「プールでOPヨット教室」に初めて採用した水上スキー体験会の様子を3分30秒でまとめ、4日間にわたって放映。B&Gテロップ、紹介アナウンス、横断幕も入っている。
宮崎シーライオン海洋クラブ（宮崎県）	カヌーとトライアスロンを合わせた「カヌー・アスロン大会」を2分20秒で紹介。クラブの代表が競技の楽しみ方などをインタビューで解説し、分かりやすい内容になっている。

地域広報誌の部

滝川市（北海道）	募集告知を中心に24点の記事を応募。市の広報係、子供の情報誌を出している教育委員会と密に連携を取りながら、さまざまな事業の様子を地域にアピールしている。
雲南市加茂（島根県）	自前の「海洋センター新聞」を中心に30点の記事を応募。市の広報誌や地域情報誌などには、担当記者と直接交渉しながら取材を依頼するよう心掛けている。
府中市（広島県）	地域情報誌や市の広報誌など、複数のメディアを使い分けながらさまざまな情報を発信。取材の際は、各メディアの担当者と密に連絡を取り合いながら内容を詰めている。
宗像市玄海（福岡県）	全国紙の地方版に折り込まれる地域情報紙を中心に3点の記事を応募。首長の定例記者会見の際には、首長からも海洋センターのPRを行ってもらうなどの努力を重ねている。
時津町（長崎県）	町の広報誌に設けられた「海洋センター通信」というページを中心に11点の記事を応募。広報誌に専用のページを設けたことで、住民の関心をより多く集めることができている。

「ホームページの部」

1	志摩市浜島（三重県）	探しやすく、わかりやすいページ構成が特徴。センター名で立ち上げたFacebookの更新頻度も高い。他のセンター・クラブでは見られない「LINE」の情報発信にも力を入れている。
2	名護市（沖縄県）	トップにB&G財団のほか特派員ブログへのリンクも掲載。名護の穴場マップもあってセンター周辺情報も取得できるほか、FacebookやTwitterの情報発信も積極的に行っている。
3	B&G高松海洋クラブ（香川県）	フォトアルバムやレース成績など、海洋クラブならではの情報を細かく掲載。Facebookには写真だけでなく動画も使って、ヨットや選手の動きを効果的に伝えている。

（敬称略）

「特派員の部」

1	北海道ブロック特派員	北海道滝川市	鈴木 博之
2	関東ブロック特派員	群馬県明和町	島田 聡
3	中国ブロック特派員	島根県松江市宍道	吉川 周治
4	四国ブロック特派員	高知県香美市香北	大峯 啓之
5	南九州ブロック特派員	鹿児島県南さつま市坊津	現王園 仁志

※その他の特派員15人には「奨励賞」が贈られた

審査員のコメント

審査委員長

岸 ユキ氏

女優、B&G財団 評議員



今回満票に近い支持を集め、「新聞の部」で大賞を射止めた兵庫県の香美町香住海洋センター。県紙に「B&G徒然日記」という連載のコーナーを持ったことは審査員一同の驚きであった。

一方、全体としてはマスコミとのコミュニケーションが浸透している事を感じ、嬉しい限りだ。三重県熊野市では、記者が取材に来ることができなかった時、事業の内容と写真を自分から発信しており、北海道滝川市では記事が掲載された後は、お礼のフォローを忘れないという。そんな中から、よりすばらしい広報がなされる事を願う。

中井 一平氏

読売新聞大阪本社 専務取締役



インターネットの世界がどんどん広がる中、存在感に陰りが出ている「新聞の部」から初めて大賞が選ばれた。長年、新聞記者生活を送ってきた者としては嬉しい限りで、受賞した香住海洋センターには心からお祝いの言葉を贈りたい。一般紙上で外部の団体がコラムの連載を実現するのは至難の技だ。長年にわたって培った「信頼」という土壌の上に咲いた花を、惚れ惚れと眺めさせてもらった。

田久保 雅己氏

(株) 舵社 常務取締役、B&G財団 施設整備委員



香住海洋センターの皆様、広報大賞受賞おめでとうございます。「新聞の部」が大賞に輝いたのは初。デジタル情報が氾濫する現代、活字によるアナログ情報が評価されたことは、雑誌編集という紙媒体を生業としている私にとっても嬉しい結果となりました。新聞紙面に「B&G徒然日記」という連載タイトルを見て、審査員の誰もが「これはすごい！」と感嘆の言葉を発していました。B&Gという名称を冠した連載コラム。広報の王道と真ん中を達成した活動に、心から敬意を表します。

山下 勲氏

(公社) 日本写真家協会 会員、B&G財団フォトアドバイザー



海洋スポーツなどのイベントが各媒体を通して数多く紹介されましたが、体験内容の充実さに感心しました。なかでも障害者のヨット体験会は感動的でした。成果に対する評価はもちろんですが、新事業に取り組んだ将来への期待度という点も選考基準に入りたいものでした。

また、親子防災キャンプの紹介TVなどは、自然災害から自分を命は自分で守るという精神を踏まえて、海洋センター利用の拡大につながる要素がうかがえました。

加藤 雅章 氏

(株) ロボット 執行役員 ウェブ・コミュニケーション部 部長



今回も応募数が増え、全国の皆さんの日々のご努力が伝わってきました。前回の審査から今年にかけて感じたことは、オウンドメディアでの発信からSNSを使ったアードメディアでのコミュニケーションがより活発になってきているようであるということです。そのため、どちらかに頼るということではなく、バランスよく取り組むということも今後のテーマになっていくのではないかと思います。

小谷 和彦 氏

(株) TBSテレビ ネットワーク局ネットワーク部 担当部長



昨年より応募総数10%アップという、一段と白熱した審査でしたが、その中でも香美町香住の「B&G徒然日記」を見た瞬間は、「これはスゴイ！」と思わず声が出てしまいました。メディアに関わる人なら誰もが分かる相手の魂まで食い込んだ活動は、歴代のご担当者まで含めた長く深い信頼関係の成せる業で、そのご努力に深く敬意を捧げます。おめでとうございます！

谷川 真理 氏

マラソンランナー・流通経済大学 客員教授、B&G財団 評議員



今年も全国の海洋センターの素晴らしい活動を知ることができ、頼もしさを感じました。大賞の次点となった徳島市の親子防災キャンプは、自然災害に見舞われる日本では必要なことだと思いますし、キャンプを通して親子がふれあうアイデアが斬新でした。また、高松市のヨット選手や雲南市のレスリング三選手の記事などは、報道されることで彼らの向上心も上がります。ぜひ、5年後の東京オリンピックに向けて、選手の皆さんをその気にさせていただきたいと思います。

前岡 良徹 氏

(株) 日本レジャーチャンネル 代表取締役社長



「テレビの部」の大賞が3年続いていましたが、今年は「新聞の部」が大賞となりました。香美町香住の受賞は素晴らしかったと思います。年々努力された結果でしょう。また、全体としてはB&G財団のロゴの利用やアピールの工夫がテレビ画面等に表現されて広報活動に幅が広がっていました。バラエティ番組や植樹祭、親子防災キャンプなどの題材にも活動の広がりが出ていました。今後の広報活動に期待いたします。

ウ. 広報誌「アンドリーニュース」の発行

財団の活動等を広く一般に周知するため、年2回発行し、海洋センター・海洋クラブほか関係団体に配付した。



エ. オリジナルグッズの製作・販売

「海の日Tシャツ」などのオリジナルグッズを作成し、海洋センター・海洋クラブに提供した。



オ. B&G壁新聞「アンドリーニュース」発行

平成26年度は全17号を発行し、“B&Gコンパス”を通じて全国の海洋センター・海洋クラブに発信した。



(2) インターネットを活用した情報の発信・提供

各種事業を財団公式ホームページで紹介するとともに、参加者サービスの一環として、水泳、OP級ヨット、カヌーの全国大会の活動写真を提供するフォトアルバムも実施した。また、新たな閲覧者獲得を目的に公式ホームページに新規コンテンツを追加。水泳大会とB&G全国サミットについては、UstreamやYouTube Liveを活用しライブ中継を行った。

なお、事業毎にあったブログを一本化し、職員の署名記事配信を開始するとともに、FacebookとTwitterに公式アカウントページを新設し、ソーシャルネットワークを使った情報発信にも着手した。



リニューアルした公式ブログ

平成26年度 公式サイトページビュー：1,754,019PV
公式ブログページビュー：251,221PV
Facebook平均リーチ数：163リーチ

(3) 地域情報発信強化のための人材育成事業（日本財団助成事業）

ア. 「B&G特派員」による情報発信

ブロック連絡協議会および道府県連絡協議会、海洋センター・海洋クラブの活動内容等を積極的に広報するため、新たに平成26年度「B&G特派員」10人を任命し、平成25年度特派員と合わせ、各ブロック2人の20人体制で情報発信を行った。情報発信については、「CANPANブログ」を活用し、249件の情報を発信した。

(ア) 「B&G特派員」研修会

B&G特派員の役割や業務内容、広報活動等について理解を深めるとともに、ブロック内の広報リーダーとしてのスキルアップを図るため、研修会を開催した。

期 日：平成26年4月16日(水)～18日(金)
場 所：日本財団会議室（第1・2）



対 象：ブロック連絡協議会から推薦された、B&G指導員有資格者または海洋センター・海洋クラブの担当者

人 数：20人

内 容：特派員の役割・意義、業務内容、広報活動について、記事の書き方、写真の撮り方、映像の撮影について、ディスカッションほか

講 師：

(敬称略)

講師名	所 属 等	内 容
山田 泰久	NPO法人 CANPANセンター 常務理事	「ブログ記事のトレンド、SNSの活用」
隈 昭司	(一社) 共同通信社 業務局 業務企画部長	「地域の情報と通信社の業務について」
山下 勲	(公社) 日本写真家協会会員 B&G広報大賞審査委員	「写真の撮り方」(基礎編・応用編)
市川 和彦	マリンジャーナリスト B&G財団特約ライター	「記事の書き方」(基礎編・応用編)
千葉 好則	フリー報道カメラマン B&G財団オフィシャルカメラマン	「映像の撮影について」

平成26年度B&G特派員

(敬称略)

No.	ブロック	県	センター名	氏名	任期(2年)		BG 資格	No.	ブロック	県	センター名	氏名	任期(2年)		BG 資格
					H25 H26	H26 H27							H25 H26	H26 H27	
1	北海道	北海道	沼田町	岩井 俊直	○		AD	11	近畿	京都府	京丹波町和知	川野 雅夫	○		担当者
2		北海道	滝川市	鈴木 博之		○	AD	12		和歌山県	串本町	太田 陽介		○	AQ
3	東北	東北ブロック特派員アドバイザーの佐藤栄毅を中心にOBで活動						13	中国	山口県	田布施町	松田 翔	○		LE
4		宮城県	大郷町	門間 瑛司		○	AD	14		島根県	松江市宍道	吉川 周治		○	AQ
5	関東	群馬県	明和町	島田 聡	○		AD	15	四国	高知県	香美市香北	大峯 啓之	○		AQ
6		千葉県	横芝光町	伊橋 健		○	AD	16		徳島県	牟岐町	森本 晃		○	担当者
7	北陸	富山県	上市町	山本 英希	○		AD	17	北九州	福岡県	大任町	岩下 啓一	○		AD
8		福井県	大野市	鈴木 翔太		○	AD	18		佐賀県	みやき町北茂安	井村 保之助		○	担当者
9	中部	山梨県	甲斐市双葉	石井 誠	○		AQ	19	南九州	鹿児島県	南さつま市坊津	現王園 仁志	○		AD
10		長野県	生坂村	宮川 陽一		○	担当者	20		宮崎県	宮崎市田野町	外村 孝伸		○	AQ

平成19年度からスタートした「B&G特派員制度」により、全国の海洋センターや海洋クラブの活動取材、これまでに合計1,425件の情報が発信された。



AD：アドバンスト・インストラクター
AQ：アクア・インストラクター
LE：リーダー

(イ) 「B&G特派員」フォトコンテスト

特派員制度の周知や写真撮影技術の向上を目的に、特派員20人と特派員(OB)13人によるフォトコンテストを実施した。写真のテーマを「笑顔」とし、Webおよび指導員研修会で投票を行い、265件の投票を得た。なお、応募者全員に参加賞としてB&Gオリジナルスイミングタオルを贈呈するとともに、入賞者には、賞状と副賞としてB&Gロゴ入りバックを贈呈した。

フォトテーマ：笑顔

応募数：33点(特派員20人、特派員アドバイザー13人)

投票期間：平成26年11月10日～平成27年1月23日



受賞者

(敬称略)

金賞	関東ブロック 島田 聡	群馬県明和町B&G海洋センター
銀賞	北海道ブロック 鈴木 博之	北海道滝川市B&G海洋センター
銅賞	南九州ブロック 現王園 仁志	鹿児島県南さつま市坊津B&G海洋センター



金賞「ゴール」



銀賞「笑顔でピース！」



銅賞「沈記念 ハイチーズ！」

(ウ) 地域情報発信プラットフォームの強化

財団の公式サイトで、海洋センター・海洋クラブの施設内容や所在地の情報を公開している「全国のB&G」と、海洋センター・海洋クラブの事業や活動情報を公開している「イベント情報」を、海洋センター・海洋クラブが効果的な情報発信ツールとして活用できるよう、情報項目を追加するとともに、検索機能を強化し、アイコンなどのビジュアル化も図りユーザビリティを高めた。

また、海洋センター・海洋クラブ所在自治体の魅力を周知できるよう、自治体の特産品やスポーツイベント、観光イベントなどの情報も入力できるよう改修を行った。なお、今回の改修に伴い、トップページのリニューアルも行った。



トップページをリニューアルした公式サイト



自治体イベントも発信できる「イベント情報」

海洋センター・海洋クラブの話題

～ 世界を目指すB&Gの選手たち ～

平成26年度も、B&G海洋センター・海洋クラブ出身の選手たちが、日頃の練習の成果を発揮して国内外の大舞台で活躍した。

競泳

三重県大紀町大内山B&G海洋センターのプールで練習に励む阪本祐也君（中3）は、平成26年8月に開催された全国中学校水泳競技大会100mバタフライで優勝。9月の長崎国体では準優勝を果たした。

また、鳥取県伯耆町岸本B&G海洋センターに通う稲垣大智君（中3）は、長崎国体100m平泳ぎで見事優勝を獲得した。



三重県知事に国体優勝の報告をする阪本君

ヨット

平成26年8月末に開催された「西日本OP級ヨット選手権大会」では、B&G時津海洋クラブの尾道佳諭君（中2）が優勝を果たし、B&G兵庫ジュニア海洋クラブの藤原達人君（中2）が準優勝を獲得。

2人は10月にアルゼンチンで開催された「OP級世界選手権大会」に日本代表として出場した。



優勝した尾道君（左）と2位の藤原君（中央）。
3位の小柳倫太郎君（右）はB&G福岡ジュニア海洋クラブの選手

「仁川アジア大会（韓国）」上位入賞者

平成26年9月から10月にかけて韓国の仁川で開催されたアジア大会でも、カヌーやボート、セーリング種目で上位入賞を果たした。

カヌー

カヌー男子スプリントカヤックペア200mで、松下桃太郎（B&Gかけはし海洋クラブOB）、藤嶋大規（B&Gやまなし海洋クラブOB）組が見事優勝。

また、女子スプリントカヤックペア500mで、木村朱澄（川根本町本川根B&G海洋センターOG）、柿崎史穂組が3位に入賞した。



アジア大会カヌー男子スプリントカヤックペア
200mで優勝した松下・藤嶋組
（写真提供：YUTAKA／アフロススポーツ）

このほかの上位成績

- ボート男子エイト2位
伊藤清剛（B&G迫海洋クラブOB）
- セーリング男子420級2位
小泉維吹・松尾虎太郎 組
（ともにB&Gドリームキャンプ招待者）
- セーリング女子420級4位
田中美沙樹（B&G兵庫ジュニア海洋クラブOG）・高野芹菜 組
- カヌー男子カナディアンペア1000m4位
小梶孝行（近江八幡市安土B&G海洋センターOB）・長井海斗 組

海洋センターの運営・活動状況

1. 海洋センターの活動状況

平成26年度末の海洋センター所在自治体数は昨年度同様に、218市、159町、13村で390自治体、472海洋センターであった。海洋センター建設当初と比較すると、市の数が4.3倍に増え、海洋センター所在人口も760万人から2,630万人と約3.5倍に増加した。

海洋センターの活動状況では、“指導者の適正配置”や“効率的な管理・運営”、さらに“財団ソフト事業の積極的な活用”などにより利用促進が図られている。海洋センターの管理・運営状況の指標となる“海洋センター評価”では、活動が優れているとされる評価「A」以上のセンターが全体の71%（前年度65%）を占めるとともに、「特A」評価の海洋センターが初めて200箇所を超え、10年連続「特A」評価の海洋センターも2ヶ所増え5ヶ所となるなど着実に活動状況は向上している。

平成26年度の海洋センターの利用者人数は、夏場に2週続けて日本列島を縦断した大型の台風11号・12号の影響で、プールの利用者が昨年度を19万6千人下回る392万5千人となったが、体育館の利用者は3万7千人増え575万人となり、全体では16万4千人の減少で994万8千人となった。

また、B&G財団と海洋センター所在自治体との連携を強化し、各地域の実情にあった事業を提供するため、海洋センター所在市町村の首長や教育長を対象とする「B&G全国サミット」、「B&G全国教育長会議」を開催。B&G財団と自治体執行部との相互理解が一層深まったことにより、B&Gネットワークを活用した“海洋センター所在自治体間での交流事業”が徐々に増加しつつあり、今後もこうした傾向がますます強くなると思われる。

そのほか、「ブロック連絡協議会総会」（同連協主催）に財団役職員が出席し、今後の財団の活動について説明を行い、また、自治体との「人事交流」を継続して実施するなど、自治体との連携・協力体制がより強固になりつつある。

なお、「東日本大震災」により、施設全壊の甚大な被害を受けた7海洋センター・11施設のうち、岩手県洋野町の艇庫では、7月に東北ブロック内から子供たち109人が参加して、艇庫の落成式と記念イベント「がんばろう東北！ B&G海洋体験交流会」が実施されるなど本格的な艇庫活動が再開された。同じく東日本大震災でプールが全壊した岩手県陸前高田市では、平成27年度から温水プール施設を含む、総工費54億円の総合交流センター（仮称）の建設に着手。プールに対する3,000万円の災害復旧修繕の申請があり、支援を決定した。

ブロック連絡協議会の活動について

B&G財団では、平成の大合併を機に、財団と自治体相互の理解促進および連携を強化するため、県やブロックの全国組織づくりに着手。以後、北海道を皮切りに各ブロックが立ち上がり、平成18年度に10ブロックの連絡協議会が設立され全国のネットワークが完成した。

現在では、自治体の合併による広域圏での情報交換はもとより、各ブロック傘下の県連絡協議会をはじめ海洋センター・海洋クラブとの連携によるブロックスポーツ大会や各種交流事業、指導者研修会、さらには財団が推進する各種ソフト事業を自主開催するなど、「B&Gプラン」推進の中枢となる組織として重要な役割を担っている。

ブロック連絡協議会の活動の活性化と発展には、特に、市町村長や教育長など行政（教育行政）のトップの理解が重要である。平成26年度の「ブロック連絡協議会総会」（同連協主催）には、自治体執行部である首長をはじめ副首長や教育長が、全10ブロック合わせて181人（前年度：185人）が出席するなど、ブロック連絡協議会の重要性が自治体や海洋センターに深く浸透されていることが伺われる。

B&G財団は、今後も各道府県およびブロックの連絡協議会との連携を強化し、青少年の心身を鍛え、これからの時代を生き抜く力を育成する「青少年の健全育成」に取り組んでいく。

2. 海洋センター評価

本評価は、「B&Gプラン」推進拠点である全国の地域海洋センターが、管理・運営面での現状を把握し、今後の更なる活動の活性化を図るための“指標”であり、評価に応じた海洋センターへの公正な支援を行うためのものである。平成15年度から「海洋センター評価」を導入し、平成19年度から評価基準とともに結果の公表を行っている。

評価方法は、海洋センターから提出される“運営状況報告書”等のほか、指導員の配置状況、財団事業の活用・参加状況などの評価基準に基づく評価を行っている。

評価対象期間

年間評価	当該年度（4月～3月）の評価を翌年度はじめに各海洋センターに公表する
中間評価	各海洋センターが年間評価向上への対策を講じることができるよう、当該年度の上期（4月～9月）の評価を同年度下期はじめに公表する

評価の種類と財団支援等

評価	点数範囲（50点満点）	財団支援・指導等
特A	40点以上	修繕助成の対象となり、評価に応じた助成率が得られる。その他、評価ランクに応じた支援を行う
A	32点～39点	
B	20点～31点	原則として、Bランク以下は修繕助成の対象外となる。上位ランクとなるよう改善に向けた指導を行う
C	12点～19点	
D	0点～11点	運営指導を行う。改善が見られない場合は首長を含めた協議を行う
E	施設休止	

海洋センター評価基準（概略）

評価項目と配点	評価の対象	
1.指導員関係（計10点）	①指導員配置状況（7点）	配置基準による配置状況
	②指導者会設置状況（3点）	指導者会の登録および活動の有無
2.海洋センター運営関係（計15点）	①利用人数（5点）	年間利用者人数状況（「増加率」および「ランキング」による）
	②施設維持管理（5点）	財団修繕助成実績および自主修繕実績
	③大会・教室開催（5点）	大会・教室の開催状況
3.財団事業関係（上限10点）	①財団事業の活用（上限7点）	財団事業の実施・参加状況
	②会議等への出席（6点）	各種会議への出席状況
4.情報提供関係（計5点）	①B&Gコンパスの活用（2点）	B&Gコンパスへの情報提供およびメッセージの未読状況
	②日報サービスの活用（3点）	利用者数の入力状況
5.特別加点（上限10点）	17項目（計57点）	財団事業「B&Gプラン」推進への協力状況
合計（50点）		

（表 彰）

年間評価が「特A」、「A」ランクの優良海洋センターをB&G全国サミットの席上で表彰しており、平成26年度のサミットでは、「平成25年度 年間評価」（平成26年4月度評価）の優良海洋センター304センターを表彰した。

表彰にあたっては、「特A評価」を10年以上連続して獲得している5自治体の首長に、「特A評価」海洋センターの代表として表彰状を授与した。

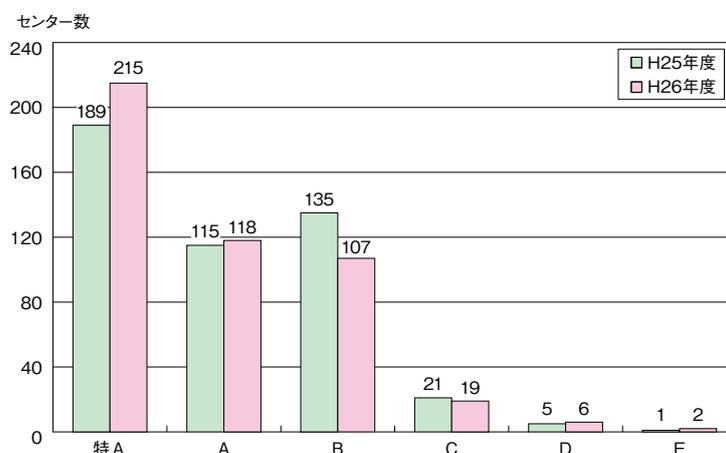
(1) 平成26年度「年間評価」(前年度対比)

平成26年度の年間評価は、前年度に対して「B」「C」評価のセンターが減少し「特A」評価センターが5.4%増加した。評価の構成率で見ると、「B」評価以上と「C」評価以下が前年度とほぼ同数で推移している。

評価別海洋センター数 (前年度比較)

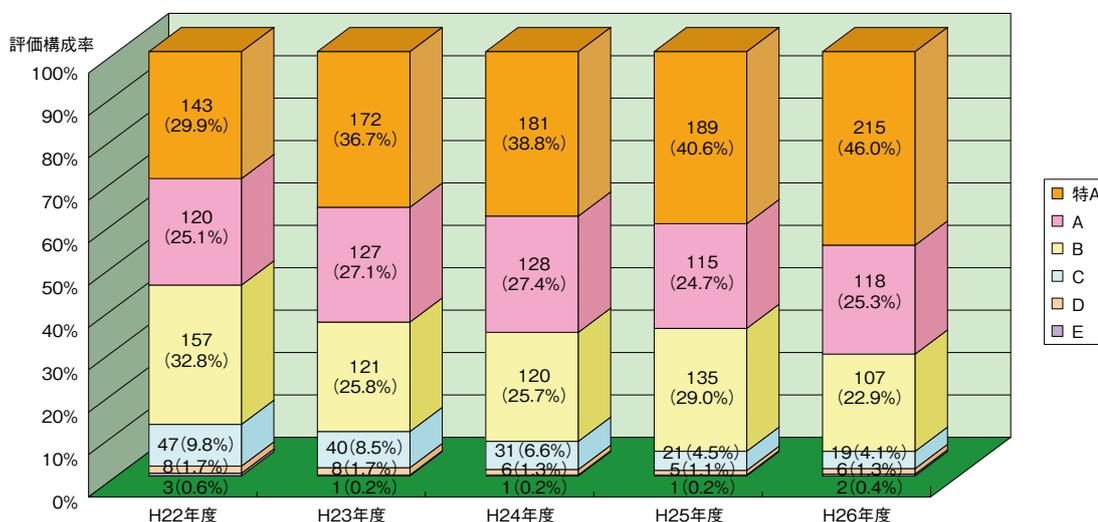
年度	評価区分	特A	A	B	C	D	E
H25年度	年間評価	189	115	135	21	5	1
	構成率	40.6%	24.7%	29.0%	4.5%	1.1%	0.2%
H26年度	年間評価	215	118	107	19	6	2
	構成率	46.0%	25.3%	22.9%	4.1%	1.3%	0.4%
増減数	年間評価	26	3	-28	-2	1	1
	構成率差	5.4%	0.6%	-6.1%	-0.4%	0.2%	0.2%

海洋センター評価 (前年度比較)



(2) 海洋センター年間評価5カ年の推移

過去5年間の評価の推移(構成率)を見ると、「特A」評価の優良海洋センターが着実に伸びており、H22年度の29.9%に対してH26年度は46.0%と増加。「A」評価以上をみても71.3%となり、初めて70%を超えた。



(3) 平成26年度「年間評価」(ブロック別傾向)

ア. 各評価の構成比率の傾向

各評価の割合(構成比率)をブロック別に見ると、優良海洋センター(A評価以上)の構成比率が高い上位ブロックは、北海道(86%)、四国(86%)、関東(81%)となっている。

ブロック別 評価別 一覧(平成26年度 年間評価)

※%はブロック内の評価割合

ブロック名	特A	評価 比率	A	評価 比率	B	評価 比率	C	評価 比率	D	評価 比率	E	評価 比率	合計
北海道	27	75%	4	11%	5	14%	0	0%	0	0%	0	0%	36
東北	27	44%	20	32%	13	21%	1	2%	1	2%	0	0%	62
関東	22	54%	11	27%	7	17%	1	2%	0	0%	0	0%	41
北陸	18	42%	11	26%	9	21%	2	5%	3	7%	0	0%	43
中部	35	49%	20	28%	13	18%	3	4%	0	0%	0	0%	71
近畿	19	42%	5	11%	20	44%	1	2%	0	0%	0	0%	45
中国	24	44%	14	26%	13	24%	3	6%	0	0%	0	0%	54
四国	15	54%	9	32%	4	14%	0	0%	0	0%	0	0%	28
北九州	13	27%	15	31%	13	27%	6	13%	0	0%	1	2%	48
南九州	15	38%	9	23%	10	26%	2	5%	2	5%	1	3%	39
合計	215	46%	118	25%	107	23%	19	4%	6	1%	2	0%	467

東日本大震災被災センター6ヵ所を除く

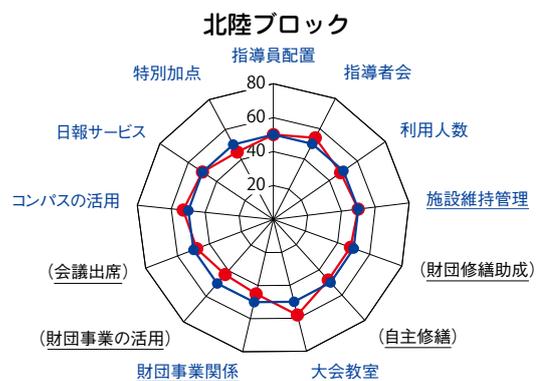
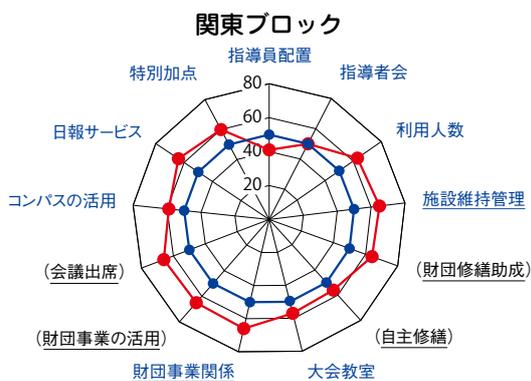
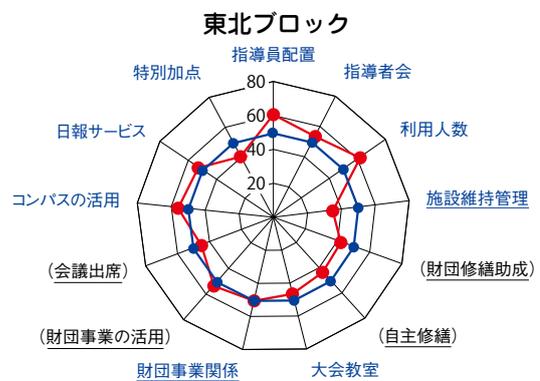
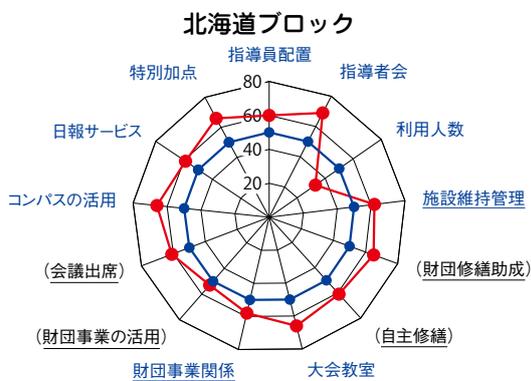


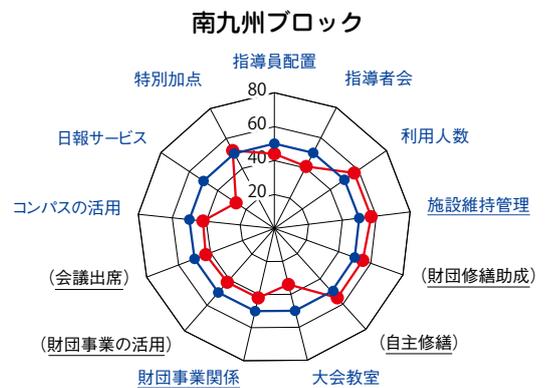
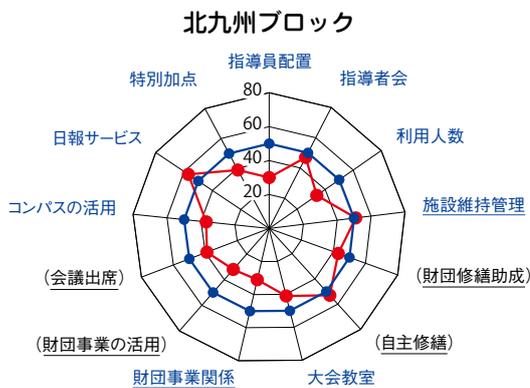
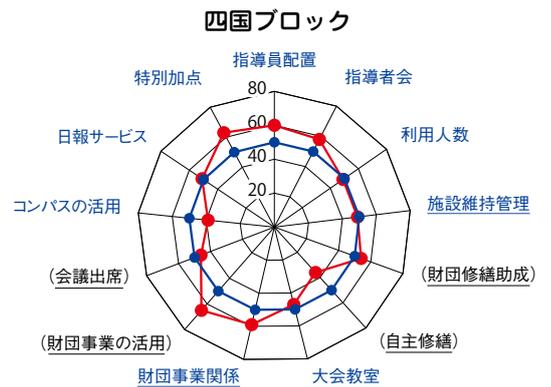
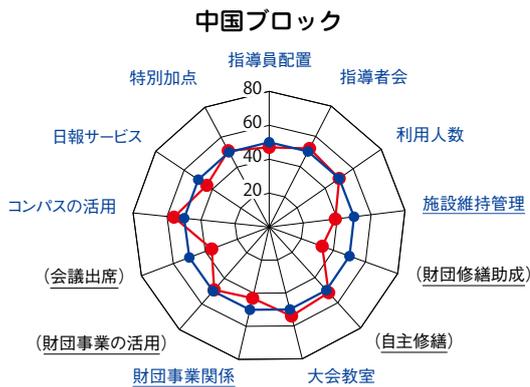
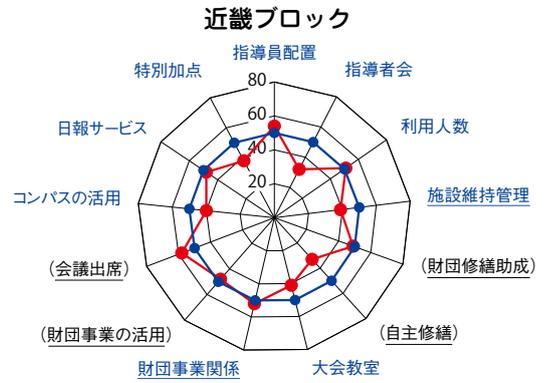
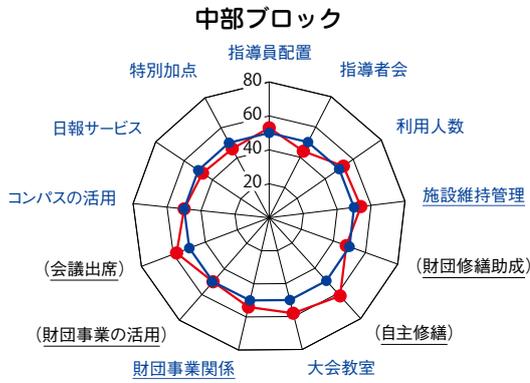
イ. 評価項目の傾向（レーダーチャート）

次のグラフ（レーダーチャート）は、“ブロック内海洋センターの各評価点の平均値”を“当該ブロックの各評価点”として、“全海洋センターの各評価点の平均値”との偏差を表したもので、青線が全海洋センターの平均値（50）、赤線が各ブロックの偏差値を示している。

なお、グラフ上の「施設維持管理」の評価内訳として“財団修繕助成”と“自主修繕”を、また「財団事業関係」の評価内訳として“財団事業の活用”と“会議出席”を参考に記載した。

評価項目	評価値の上位3ブロック（H26）			評価値の上位3ブロック（H25）		
	北海道	関東	四国	関東	北海道	四国
全評価項目の合計	北海道	関東	四国	関東	北海道	四国
指導員配置	東北	四国	北海道	東北	北海道	中部
指導者会	北海道	四国	北陸	北海道	四国	中国
利用人数	関東	東北	南九州	関東	四国	南九州
施設維持管理	関東	北海道	南九州	関東	北海道	北陸
大会教室	北海道	中部	北陸	関東	四国	北海道
財団事業関係	関東	四国	北海道	関東	四国	中部
B&Gコンパスの活用	北海道	関東	東北・中国	北海道	中国	中部
日報サービス	関東	北海道	北九州	南九州	北海道 関東・近畿	北陸
特別加点	北海道	四国	関東	関東	北陸	四国





(4) 平成26年度「年間評価」(類型別)

各評価の割合(構成比率)を施設(類型)別に見ると、優良海洋センター(A評価以上)の構成比率が最も高い類型は「3類(体育館・艇庫):86%」で、次に「5類(艇庫・プール・体育館):78%」「4類(プール・体育館):73%」「2類(プール・艇庫):67%」と続く。また、1類(艇庫orプール)施設の中では、「1類(屋内温水プール):89%」が最も優良海洋センターの割合が高い。

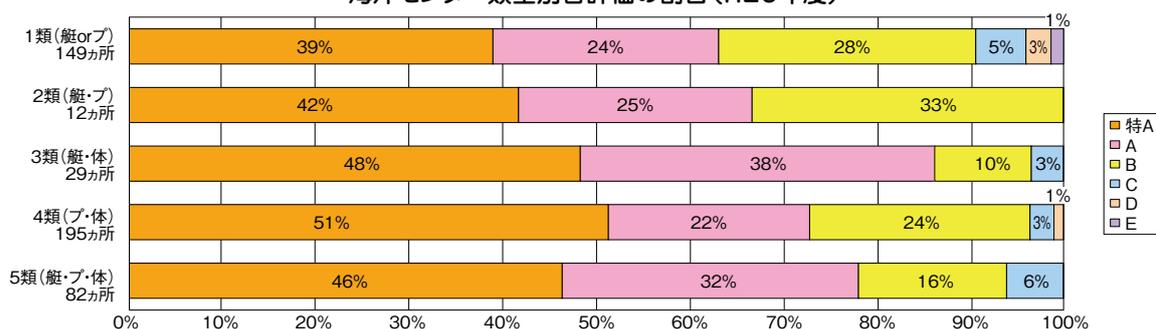
次頁のレーダーチャートは、“類型別の海洋センター評価点の平均値”を当該類型の評価点として、“全海洋センターの各評価点の平均値”との偏差を表したものの。青線が全海洋センターの平均値(50)、赤線が各類型の偏差値を示している。

類型別 評価別 一覧 (H26年度 年間評価)

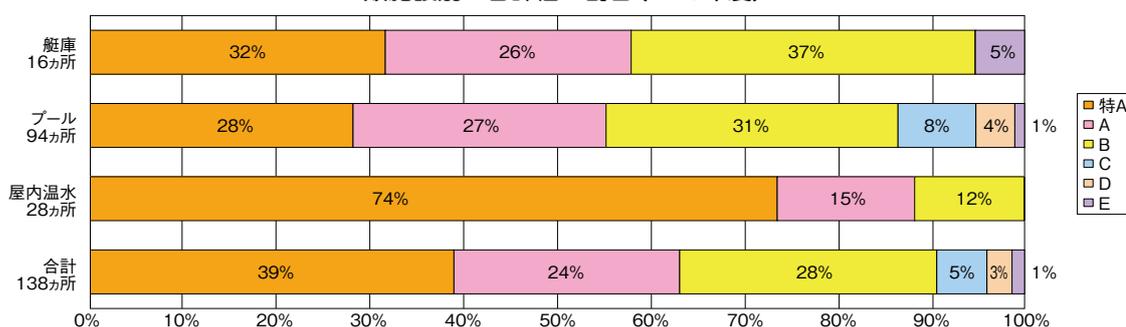
H27年4月度評価

類型	施設名	特A	評価 比率	A	評価 比率	B	評価 比率	C	評価 比率	D	評価 比率	E	評価 比率	合計
1類	艇庫 (19カ所)	6	32%	5	26%	7	37%	0	0%	0	0%	1	5%	19
	プール (96カ所)	27	28%	26	27%	30	31%	8	8%	4	4%	1	1%	96
	屋内温水 プール (34カ所)	25	74%	5	15%	4	12%	0	0%	0	0%	0	0%	34
	1類合計 (149カ所)	58	39%	36	24%	41	28%	8	5%	4	3%	2	1%	149
2類	プール 艇庫 (12カ所)	5	42%	3	25%	4	33%	0	0%	0	0%	0	0%	12
3類	体育館 艇庫 (29カ所)	14	48%	11	38%	3	10%	1	3%	0	0%	0	0%	29
4類	体育館 プール (195カ所)	100	51%	42	22%	46	24%	5	3%	2	1%	0	0%	195
5類	体育館 プール 艇庫 (82カ所)	38	46%	26	32%	13	16%	5	6%	0	0%	0	0%	82
合計	合計 466カ所	215	46%	118	25%	107	23%	19	4%	6	1%	2	0.4%	467

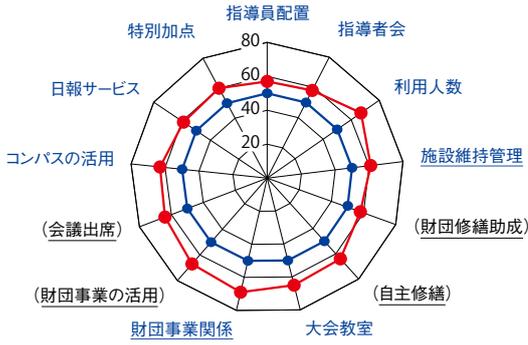
海洋センター類型別各評価の割合(H26年度)



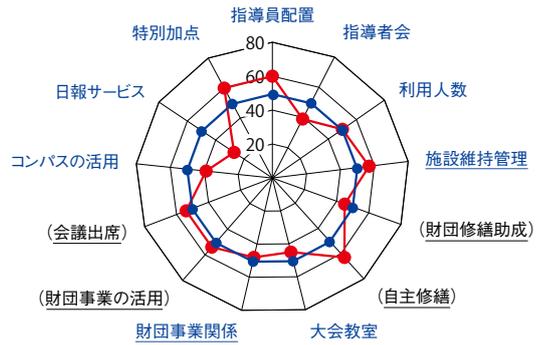
1類施設別の各評価の割合(H26年度)



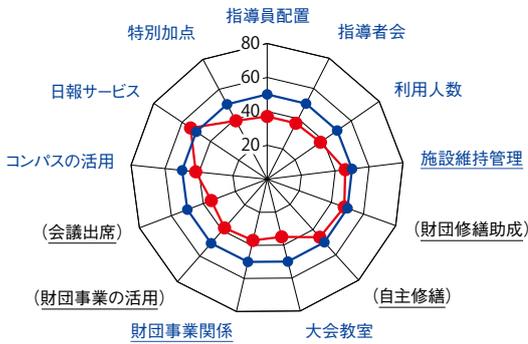
1類 (屋内温水プール)



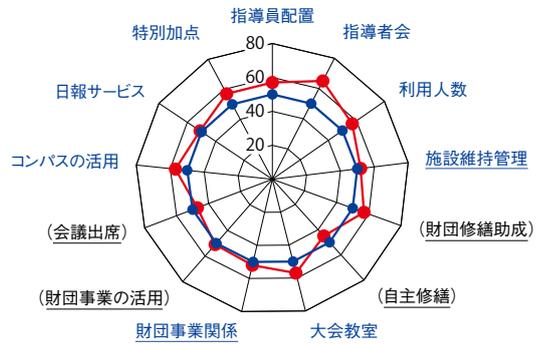
2類 (プール・艇庫)



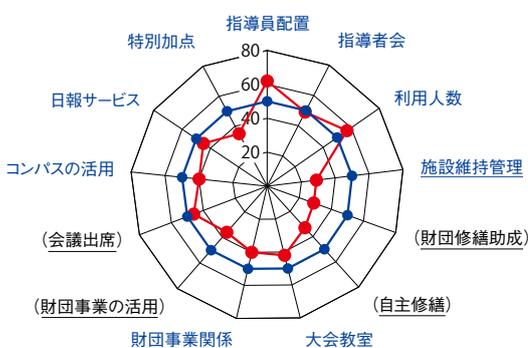
1類 (プール)



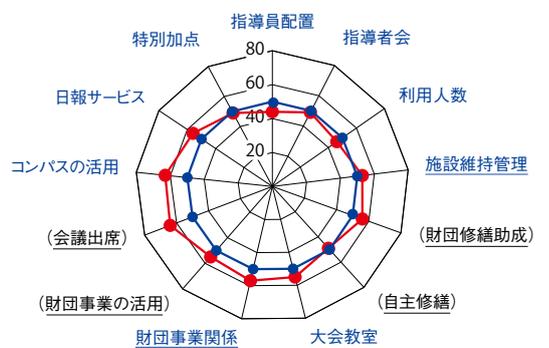
3類 (艇庫・体育館)



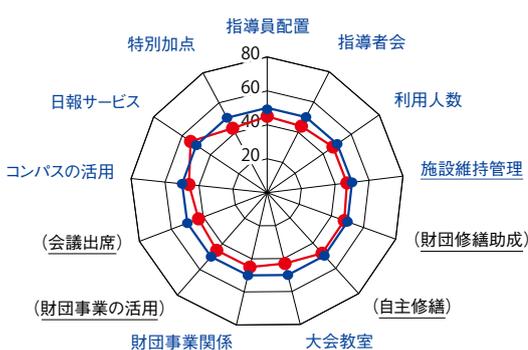
1類 (艇庫)



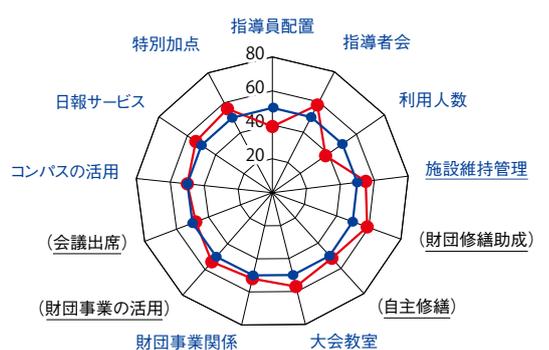
4類 (プール・体育館)



1類合計



5類 (艇庫・プール・体育館)



3. 利用者人数

(1) 海洋センター利用者数（施設別傾向）

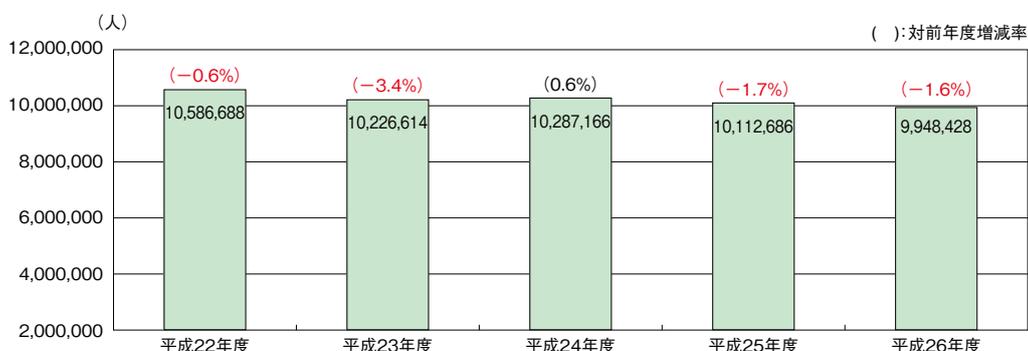
ア. 施設全体

平成26年度は前年度より約16万4千人（1.6%）の減少となった。平成26年度の利用状況を総括すると、プールの利用者が約19万6千人の減となっており、その主な要因は、夏から秋にかけて大型の台風が数多く上陸し、施設の休館やイベント等が中止となったことによるものである。その一方で、体育館は3万7千人の増となった。

★★★ 総利用者人数の推移 ★★★

（平成27年4月26日集計）

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
利用者人数	10,586,688	10,226,614	10,287,166	10,112,686	9,948,428
増減数	-58,579	-360,074	60,552	-174,480	-164,258
(率)	-0.6%	-3.4%	0.6%	-1.7%	-1.6%



イ. 艇庫

平成26年度は前年度より約5千人（1.7%）の減少となった。台風の影響があったものの平成21年度からライフジャケット浮遊体験等の“水辺の安全教室”を実施。年々同教室への参加者数が増加しており、微減となった。

★★★ 艇庫利用人数の推移 ★★★

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
利用者人数	285,166	309,794	288,281	277,360	272,609
増減数	-2,305	24,628	-21,513	-10,921	-4,751
(率)	-0.8%	8.6%	-6.9%	-3.8%	-1.7%

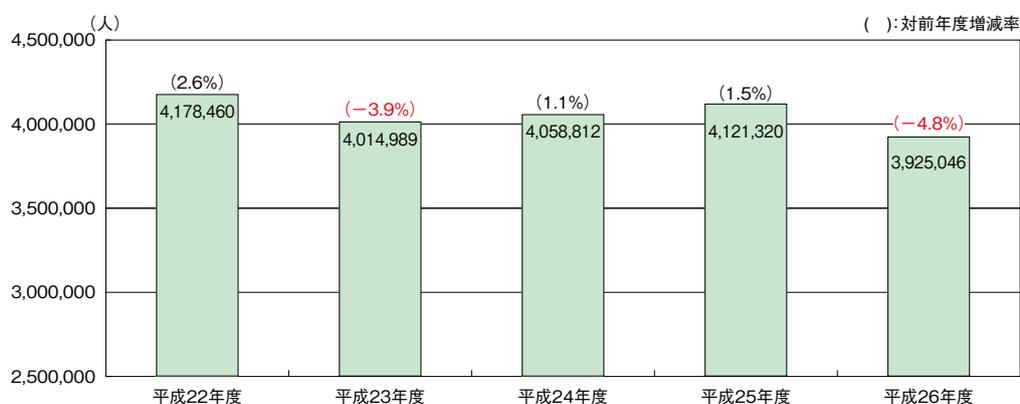


ウ. プール

平成26年度は前年度を約19万6千人（4.8%）下回り、大幅な減少となった。
この大きな要因は、前述のとおり台風の影響によるものであるが、そのほかにも通年温水プールのリニューアルのため半年以上閉館したセンターなどの影響もあった。

★★★ プール利用人数の推移 ★★★

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
利用者人数	4,178,460	4,014,989	4,058,812	4,121,320	3,925,046
増減数	106,958	-163,471	43,823	62,508	-196,274
(率)	2.6%	-3.9%	1.1%	1.5%	-4.8%

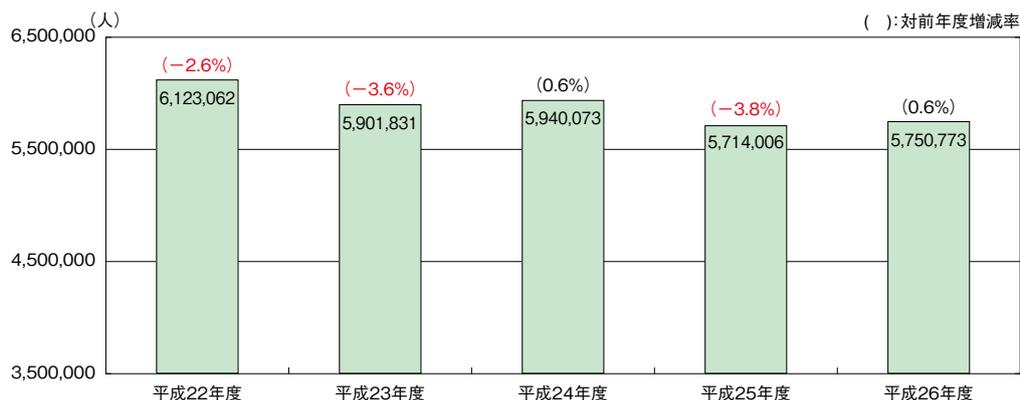


エ. 体育館

平成26年度は前年度より約3万7千人（0.6%）の増加となった。
これは全国10ブロックの内、7カ所のブロックで利用人数が増加したことによるものである。（次頁参照）

★★★ 体育館利用人数の推移 ★★★

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
利用者人数	6,123,062	5,901,831	5,940,073	5,714,006	5,750,773
増減数	-163,232	-221,231	38,242	-226,067	36,767
(率)	-2.6%	-3.6%	0.6%	-3.8%	0.6%



(2) 海洋センター利用者数（ブロック別傾向）

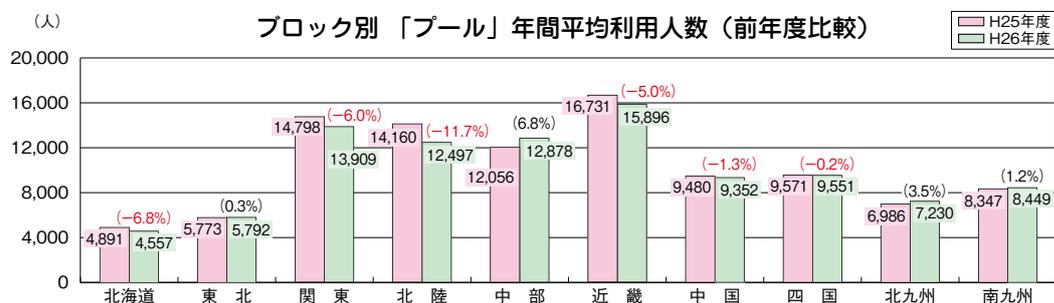
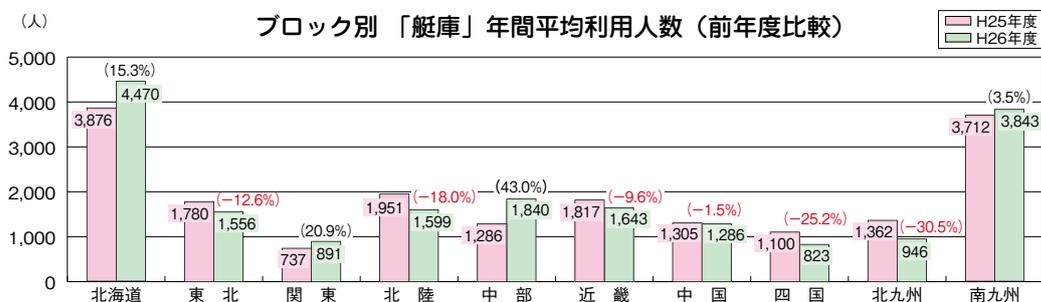
平成26年度の海洋センター利用人数について、施設別の年間平均利用人数の高い上位ブロックは次のとおり。

“年間平均利用人数”および“対前年度増減率”上位3ブロック

施設	年間平均利用人数			対前年度増減率		
	北海道	南九州	中部	中部	関東	北海道
艇庫	北海道	南九州	中部	中部	関東	北海道
プール	近畿	関東	中部	中部	北九州	南九州
体育館	四国	関東	近畿	関東	北陸	四国

※数値は1施設の年間平均
ブロック別 施設別 年間平均利用人数（前年度比較）

ブロック	艇庫			プール			体育館		
	利用人数		増減率	利用人数		増減率	利用人数		増減率
	H25年度	H26年度		H25年度	H26年度		H25年度	H26年度	
北海道	3,876	4,470	15.3%	4,891	4,557	-6.8%	19,230	19,363	0.7%
東北	1,780	1,556	-12.6%	5,773	5,792	0.3%	19,539	19,870	1.7%
関東	737	891	20.9%	14,798	13,909	-6.0%	22,411	24,132	7.7%
北陸	1,951	1,599	-18.0%	14,160	12,497	-11.7%	16,982	17,990	5.9%
中部	1,286	1,840	43.0%	12,056	12,878	6.8%	18,478	17,243	-6.7%
近畿	1,817	1,643	-9.6%	16,731	15,896	-5.0%	20,690	19,877	-3.9%
中国	1,305	1,286	-1.5%	9,480	9,352	-1.3%	14,767	15,349	3.9%
四国	1,100	823	-25.2%	9,571	9,551	-0.2%	23,192	24,196	4.3%
北九州	1,362	946	-30.5%	6,986	7,230	3.5%	15,509	15,496	-0.1%
南九州	3,712	3,843	3.5%	8,347	8,449	1.2%	17,528	17,819	1.7%
全国平均	1,913	1,873	-2.1%	10,407	10,195	-2.0%	18,492	18,732	1.3%



4. 利用者数の各種統計データ（詳細）

(1) 平成26年度 施設別・道府県別 年間利用者数（前年度比較）

※平成27年4月26日集計（単位：人）

ブロック・道府県	人口	艇庫			プール			体育館			合計		
		25年度	26年度	増減	25年度	26年度	増減	25年度	26年度	増減	25年度	26年度	増減
北海道	574,772	38,764	44,702	5,938	141,833	132,140	-9,693	403,840	406,613	2,773	584,437	583,455	-982
北海道ブロック	574,772	38,764	44,702	5,938	141,833	132,140	-9,693	403,840	406,613	2,773	584,437	583,455	-982
青森県	444,339	2,587	2,751	164	40,705	36,666	-4,039	121,883	114,306	-7,577	165,175	153,723	-11,452
岩手県	851,246	12,872	9,369	-3,503	68,499	71,670	3,171	75,357	74,345	-1,012	156,728	155,384	-1,344
宮城県	1,608,142	10,256	11,778	1,522	35,465	28,658	-6,807	219,251	232,386	13,135	264,972	272,822	7,850
秋田県	821,064	1,275	810	-465	96,298	98,357	2,059	126,133	122,039	-4,094	223,706	221,206	-2,500
山形県	116,062	1,344	1,573	229	3,606	4,397	791	31,276	32,205	929	36,226	38,175	1,949
福島県	178,552	141	176	35	32,548	32,465	-83	70,874	100,282	29,408	103,563	132,923	29,360
東北ブロック	4,019,405	28,475	26,457	-2,018	277,121	272,213	-4,908	644,774	675,563	30,789	950,370	974,233	23,863
茨城県	430,959	102	97	-5	49,423	46,887	-2,536	133,100	141,593	8,493	182,625	188,577	5,952
栃木県	370,684	0	0	0	138,990	132,501	-6,489	38,354	43,532	5,178	177,344	176,033	-1,311
群馬県	85,567	171	215	44	155,103	147,623	-7,480	24,270	25,369	1,099	179,544	173,207	-6,337
埼玉県	561,405	0	0	0	91,539	93,794	2,255	279,304	292,064	12,760	370,843	385,858	15,015
千葉県	365,691	4,149	5,033	884	127,265	107,738	-19,527	197,292	197,274	-18	328,706	310,045	-18,661
関東ブロック	1,814,306	4,422	5,345	923	562,320	528,543	-33,777	672,320	699,832	27,512	1,239,062	1,233,720	-5,342
新潟県	1,631,004	14,187	14,004	-183	119,588	101,939	-17,649	119,589	126,055	6,466	253,364	241,998	-11,366
富山県	776,755	2,676	568	-2,108	100,959	98,399	-2,560	129,396	130,329	933	233,031	229,296	-3,735
石川県	202,874	3,574	3,414	-160	121,006	94,779	-26,227	31,125	30,186	-939	155,705	128,379	-27,326
福井県	537,175	4,925	5,930	1,005	139,886	142,721	2,835	144,440	144,502	62	289,251	293,153	3,902
北陸ブロック	3,147,808	25,362	23,916	-1,446	481,439	437,838	-43,601	424,550	431,072	6,522	931,351	892,826	-38,525
山梨県	326,015	0	0	0	102,432	103,966	1,534	62,130	67,703	5,573	164,562	171,669	7,107
長野県	975,425	929	1,449	520	106,732	107,396	664	182,922	180,848	-2,074	290,583	289,693	-890
岐阜県	377,716	8,788	10,893	2,105	87,219	84,256	-2,963	257,198	254,192	-3,006	353,205	349,341	-3,864
静岡県	1,637,772	3,182	2,626	-556	271,212	263,048	-8,164	154,053	145,923	-8,130	428,447	411,597	-16,850
愛知県	474,606	56	387	331	118,754	112,800	-5,954	79,932	86,054	6,122	198,742	199,241	499
三重県	773,460	5,055	7,037	1,982	109,366	103,367	-5,999	224,635	200,753	-23,882	339,056	311,157	-27,899
中部ブロック	4,564,994	18,010	22,392	4,382	795,715	774,833	-20,882	960,870	935,473	-25,397	1,774,595	1,732,698	-41,897
滋賀県	473,156	10,219	9,514	-705	234,233	230,955	-3,278	105,898	108,812	2,914	350,350	349,281	-1,069
京都府	74,728	11,307	13,758	2,451	13,728	7,876	-5,852	58,759	53,151	-5,608	83,794	74,785	-9,009
大阪府	866,945	478	578	100	29,964	26,615	-3,349	59,071	52,171	-6,900	89,513	79,364	-10,149
兵庫県	1,139,776	4,191	1,780	-2,411	312,071	275,879	-36,192	310,856	313,882	3,026	627,118	591,541	-35,577
奈良県	5,805	873	369	-504	3,468	3,253	-215	0	0	0	4,341	3,622	-719
和歌山県	124,279	187	288	101	59,045	59,477	432	24,034	8,657	-15,377	83,266	68,422	-14,844
近畿ブロック	2,684,689	27,255	26,287	-968	652,509	604,055	-48,454	558,618	536,673	-21,945	1,238,382	1,167,015	-71,367
鳥取県	271,230	5,824	5,896	72	22,766	21,026	-1,740	82,362	89,829	7,467	110,952	116,751	5,799
島根県	515,348	10,912	9,992	-920	69,782	71,625	1,843	82,289	80,282	-2,007	162,983	161,899	-1,084
岡山県	1,226,996	3,770	3,581	-189	186,610	180,252	-6,358	173,731	172,049	-1,682	364,111	355,882	-8,229
広島県	832,205	7,418	6,698	-720	112,786	112,411	-375	184,547	197,044	12,497	304,751	316,153	11,402
山口県	269,685	2,090	1,964	-126	6,211	7,467	1,256	67,755	74,743	6,988	76,056	84,174	8,118
中国ブロック	3,115,464	30,014	28,131	-1,883	398,155	392,781	-5,374	590,684	613,947	23,263	1,018,853	1,034,859	16,006
徳島県	383,077	2,689	1,968	-721	62,119	59,738	-2,381	121,223	120,137	-1,086	186,031	181,843	-4,188
香川県	619,914	5,752	4,023	-1,729	37,193	32,453	-4,740	191,385	215,303	23,918	234,330	251,779	17,449
愛媛県	845,556	2,558	2,241	-317	107,972	119,049	11,077	127,718	123,572	-4,146	238,248	244,862	6,614
高知県	55,899	0	0	0	32,001	27,534	-4,467	23,519	24,905	1,386	55,520	52,439	-3,081
四国ブロック	1,904,446	10,999	8,232	-2,767	239,285	238,774	-511	463,845	483,917	20,072	714,129	730,923	16,794
福岡県	890,114	2,847	2,205	-642	116,359	132,577	16,218	224,964	232,183	7,219	344,170	366,965	22,795
佐賀県	109,820	6,449	5,775	-674	37,691	39,314	1,623	58,608	54,602	-4,006	102,748	99,691	-3,057
長崎県	448,152	3,921	2,996	-925	28,322	25,187	-3,135	112,323	103,334	-8,989	144,566	131,517	-13,049
大分県	457,717	14,028	7,001	-7,027	90,066	84,873	-5,193	177,928	167,732	-10,196	282,022	259,606	-22,416
北九州ブロック	1,905,803	27,245	17,977	-9,268	272,438	281,951	9,513	573,823	557,851	-15,972	873,506	857,779	-15,727
熊本県	1,080,052	3,742	3,578	-164	74,150	52,080	-22,070	196,658	168,840	-27,818	274,550	224,498	-50,052
宮崎県	462,030	193	207	14	8,186	7,318	-868	18,577	13,540	-5,037	26,956	21,065	-5,891
鹿児島県	700,833	9,716	8,347	-1,369	161,215	139,588	-21,627	170,551	186,530	15,979	341,482	334,465	-7,017
沖縄県	262,887	53,163	57,038	3,875	56,954	62,932	5,978	34,896	40,922	6,026	145,013	160,892	15,879
南九州ブロック	2,505,802	66,814	69,170	2,356	300,505	261,918	-38,587	420,682	409,832	-10,850	788,001	740,920	-47,081
合計	26,237,489	277,360	272,609	-4,751	4,121,320	3,925,046	-196,274	5,714,006	5,750,773	36,767	10,112,686	9,948,428	-164,258

※プール利用人数は多目的フロア利用を含む人数

(2) 平成26年度 海洋センター施設別利用者数 (ベスト50)

平成27年4月3日集計

施設数は閉鎖を除く(単位:人)

艇庫 146ヵ所				通年型温水プール(屋内・上屋加温) 108ヵ所				期間限定プール(上屋・屋外) 277ヵ所				体育館 305ヵ所			
順位	センター名	道府県名	利用人数	順位	センター名	道府県名	利用人数	順位	センター名	道府県名	利用人数	順位	センター名	道府県名	利用人数
1	本部町	沖縄県	56,795	1	坂井市丸岡	福井県	127,760	1	磐田市竜洋	静岡県	22,717	1	上郡町	兵庫県	99,932
2	滝川市	北海道	19,143	2	芳賀町	栃木県	105,566	2	堺市美原	大阪府	21,689	2	久喜市栗橋	埼玉県	97,970
3	宮津市	京都府	11,408	3	猪名川町	兵庫県	90,833	3	徳島市	徳島県	10,516	3	徳島市	徳島県	84,927
4	八百津町	岐阜県	10,345	4	袋井市袋井	静岡県	85,387	4	浅口市鴨方	岡山県	10,394	4	高松市国分寺	香川県	84,499
5	室蘭市	北海道	9,400	5	芦屋市	兵庫県	84,366	5	新潟市新潟	新潟県	10,270	5	可児市	岐阜県	65,768
6	花巻市東和	岩手県	8,862	6	玉村町	群馬県	83,801	6	南房総市千倉	千葉県	10,170	6	鶴ヶ島市	埼玉県	64,501
7	阿賀町津川	新潟県	7,860	7	白山市鶴来	石川県	83,523	7	久留米市三瀬	福岡県	9,646	7	石狩市	北海道	55,169
8	加美町中新田	宮城県	7,804	8	白岡市	埼玉県	76,399	8	斜里町	北海道	9,636	8	小野町	福島県	52,346
9	砂川市	北海道	7,725	9	豊川市小坂井	愛知県	74,720	9	川辺町	岐阜県	9,321	9	東川町	北海道	47,454
10	豊後高田市真玉	大分県	6,148	10	日置市東市来	鹿児島県	72,964	10	田村市滝根	福島県	9,280	10	白馬村	長野県	43,477
11	美浜町	福井県	5,391	11	浜松市天竜	静岡県	71,995	11	あさぎり町免田	熊本県	9,065	11	松伏町	埼玉県	42,952
12	近江八幡市安土	滋賀県	5,254	12	富山市八尾	富山県	70,602	12	三原市久井	広島県	9,048	12	北栄町北条	鳥取県	42,341
13	胎内市中条	新潟県	5,097	13	井原市井原	岡山県	67,819	13	軽米町	岩手県	9,021	13	時津町	長崎県	41,686
14	大台町	三重県	4,973	14	朝倉市甘木	福岡県	65,550	14	湯前町	熊本県	8,966	14	菰野町	三重県	41,411
15	松江市松江	島根県	4,469	15	松本市波田	長野県	63,233	15	御嵩町	岐阜県	8,769	15	愛南町御荘	愛媛県	41,211
16	香取市小見川	千葉県	4,414	16	高島市高島	滋賀県	60,266	16	小野町	福島県	8,752	16	柳川市大和	福岡県	41,204
17	神埼市	佐賀県	4,240	17	明和町	群馬県	58,459	17	高山市国府	岐阜県	8,620	17	弘前市	青森県	41,002
18	呉市蒲刈	広島県	4,147	18	府中市	広島県	52,862	18	浅口市寄島	岡山県	8,314	18	長洲町	熊本県	40,936
19	与論町	鹿児島県	3,545	19	松江市穴道	島根県	50,537	19	菊池市泗水	熊本県	8,070	19	香美町香住	兵庫県	40,006
20	七尾市	石川県	3,114	20	高島市今津	滋賀県	49,895	20	瀬戸内市長船	岡山県	7,985	20	玉名市岱明	熊本県	39,255
21	倉吉市関金	鳥取県	2,969	21	横芝光町光	千葉県	45,983	21	信濃市形村	長野県	7,939	21	香取市山田	千葉県	39,248
22	三豊市高瀬	香川県	2,956	22	甲賀市甲賀	滋賀県	45,708	22	雲南市加茂	島根県	7,801	22	いすみ市岬	千葉県	38,462
23	野洲市中主	滋賀県	2,954	23	名護市	沖縄県	44,862	23	いちき串木野市	鹿児島県	7,477	23	いちき串木野市	鹿児島県	38,351
24	鳥取市	鳥取県	2,927	24	にかほ市象潟	秋田県	41,611	24	鬼北町広見	愛媛県	7,371	24	南アルプス市白根	山梨県	37,743
25	美郷町邑智	島根県	2,704	25	串本町	和歌山県	41,592	25	みやま市瀬高	福岡県	7,192	25	南砺市福野	富山県	36,976
26	京丹波町和知	京都府	2,256	26	西条市丹原	愛媛県	39,908	26	甲斐市敷島	山梨県	7,175	26	田布施町	山口県	36,754
27	西ノ島町	島根県	2,171	27	矢掛町	岡山県	35,703	27	長浜市浅井	滋賀県	7,111	27	新潟市新潟	新潟県	36,454
28	今治市大三島	愛媛県	2,072	28	愛南町御荘	愛媛県	34,892	28	亶理町	宮城県	7,026	28	長島町	鹿児島県	36,410
29	小平町	北海道	2,070	29	海陽町海南	徳島県	33,881	29	時津町	長崎県	6,996	29	今治市朝倉	愛媛県	36,233
30	登米市迫	宮城県	1,911	30	浜松市三ヶ日	静岡県	33,650	30	玉名市岱明	熊本県	6,939	30	神河町神崎	兵庫県	35,550
31	周防大島町	山口県	1,890	31	みやき町北茂安	佐賀県	32,205	31	十和田市	青森県	6,898	31	高岡市福岡	富山県	35,287
32	登米市中田	宮城県	1,777	32	上郡町	兵庫県	31,850	32	奥州市前沢	岩手県	6,888	32	石川町	福島県	35,266
33	佐世保市小佐々	長崎県	1,736	33	西尾市一色	愛知県	31,263	33	佐世保市小佐々	長崎県	6,830	33	西尾市一色	愛知県	35,202
34	酒田市平田	山形県	1,573	34	桑名市長島	三重県	30,864	34	八郎潟町	秋田県	6,809	34	能代市	秋田県	34,952
35	太良町	佐賀県	1,535	35	南アルプス市白根	山梨県	30,533	35	可児市	岐阜県	6,768	35	みやこ町豊津	福岡県	34,291
36	阿久根市	鹿児島県	1,420	36	今治市朝倉	愛媛県	29,006	36	北茨城市	茨城県	6,738	36	日置市東市来	鹿児島県	33,414
37	津奈木町	熊本県	1,401	37	燕市	新潟県	28,374	37	高山市清見	岐阜県	6,604	37	雲南市加茂	島根県	33,090
38	長洲町	熊本県	1,373	38	甲州市塩山	山梨県	28,326	38	佐伯市弥生	大分県	6,566	38	鳥取市	鳥取県	32,920
39	南さつま市坊津	鹿児島県	1,300	39	由布市挾間	大分県	27,985	39	坂町	広島県	6,530	39	野洲市中主	滋賀県	32,819
40	掛川市	静岡県	1,291	40	米原市山東	滋賀県	24,929	40	北栄町北条	鳥取県	6,527	40	石岡市	茨城県	31,902
41	瀬戸内市邑久	岡山県	1,178	41	福智町金田	福岡県	23,295	41	瑞町	福島県	6,379	41	松江市松江	島根県	31,802
42	鶴田町	青森県	1,103	42	一関市藤沢	岩手県	23,291	42	みやま市高田	福岡県	6,225	42	牧之原市相良	静岡県	31,585
43	大町市	長野県	1,058	43	四万十町窪川	高知県	20,688	43	大潟村	秋田県	6,154	43	大野市	福井県	31,498
44	尾道市向島	広島県	1,026	44	上越市頸城	新潟県	20,469	44	香取市山田	千葉県	6,026	44	由利本荘市西目	秋田県	31,183
45	徳島市	徳島県	987	45	高岡市福岡	富山県	18,672	45	美郷町邑智	島根県	6,023	45	下野市国分寺	栃木県	30,931
46	磐田市竜洋	静岡県	974	46	鏡野町	岡山県	18,620	46	行方市玉造	茨城県	6,011	46	坂井市春江	福井県	30,860
47	弘前市	青森県	967	47	八百津町	岐阜県	18,538	47	潟上市天王	秋田県	5,867	47	御前崎市	静岡県	30,739
48	高島市高島	滋賀県	938	48	東広島市安芸津	広島県	17,399	48	長岡市越路	新潟県	5,842	48	三木町	香川県	30,494
49	せたな町	北海道	879	49	豊岡市出石	兵庫県	16,985	49	薩摩川内市榑脇	鹿児島県	5,826	49	宇城市三角	熊本県	30,384
50	那賀町驚敷	徳島県	854	50	松崎町	静岡県	16,395	50	一関市東山	岩手県	5,811	50	弘前市岩木	青森県	30,383

(3) 海洋センター利用者数（利用形態別傾向）

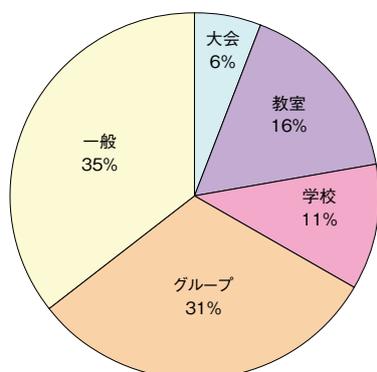
海洋センター利用者の傾向を“利用形態”別に見ると、「艇庫」は“学校利用”が多く、「温水プール」は“教室”と“一般利用”、「プール（温水以外）」は“学校”と“一般利用”、「体育館」では“グループ”の利用が多いなど、施設ごとの特徴が見られる。

また、各利用形態で最も利用構成率の高い施設は、“大会利用”が「体育館」、「教室利用」が「温水プール」、「学校利用」が「艇庫」、「グループ利用」が「体育館」、「一般利用」が「プール（温水以外）」となっており、例年同じ傾向が見られる。

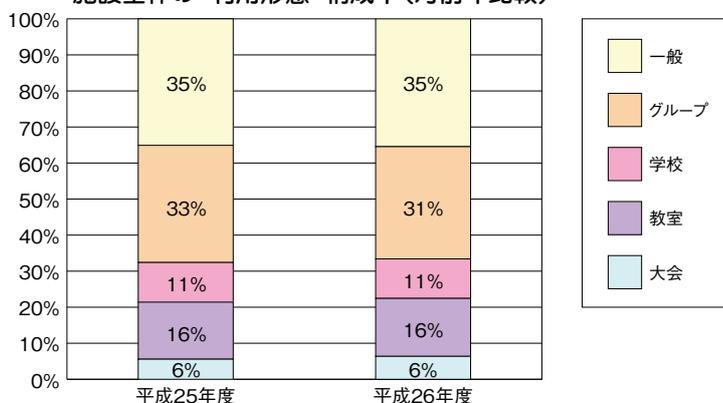
		大会	教室	学校	グループ	一般	合計
艇庫	人数	19,591	26,893	112,926	48,127	67,802	275,339
	比率	7%	10%	41%	17%	25%	100%
温水プール	人数	17,903	943,493	115,671	131,062	1,618,564	2,826,693
	比率	1%	33%	4%	5%	57%	100%
プール	人数	16,764	90,686	241,633	81,761	806,084	1,236,928
	比率	1%	7%	20%	7%	65%	100%
体育館	人数	587,688	561,287	635,515	2,881,166	1,085,117	5,750,773
	比率	10%	10%	11%	50%	19%	100%
合計	人数	641,946	1,622,359	1,105,745	3,142,116	3,577,567	10,089,733
	比率	6%	16%	11%	31%	35%	100%

☆☆☆☆☆☆ 施設別利用形態グラフ ☆☆☆☆☆☆

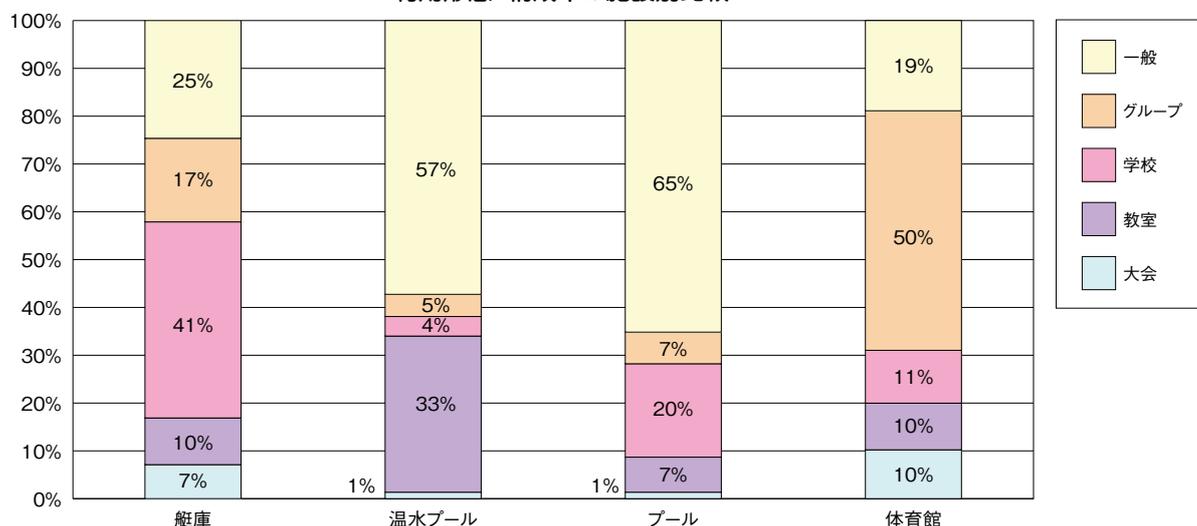
施設全体の“利用形態”構成率



施設全体の“利用形態”構成率(対前年比較)



“利用形態”構成率の施設別比較



(4) 海洋センター利用形態（ブロック別傾向）

平成26年度の海洋センター利用人数について、施設ごとの各利用形態で最も高い利用傾向にあるブロックは次のとおり。

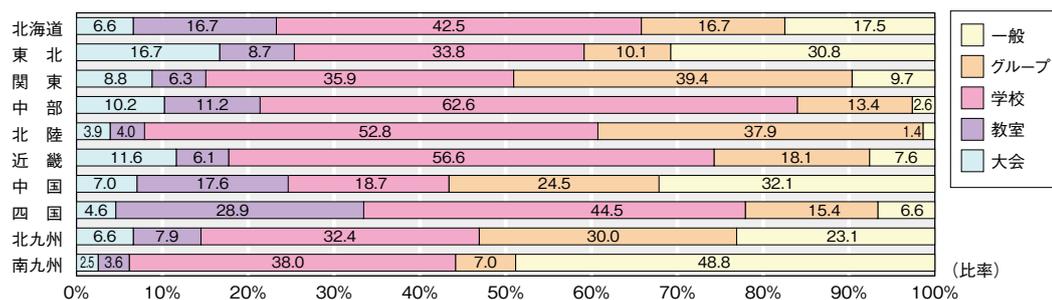
施設別・利用形態別“利用比率”の最も高いブロック

施設	大会	教室	学校	グループ	一般
艇庫	東北(16.7%)	四国(28.9%)	中部(62.6%)	関東(39.4%)	南九州(48.8%)
温水プール	南九州(1.8%)	近畿(40.8%)	北海道(27.6%)	北海道(16.9%)	四国(70.7%)
プール	中国(3.4%)	近畿(12.3%)	東北(31.9%)	北海道(14.0%)	南九州(69.2%)
体育館	東北(15.5%)	近畿(18.2%)	北九州(16.6%)	関東(55.7%)	北海道(25.8%)

ア.艇庫

ブロック	大会	教室	学校	グループ	一般
北海道	6.6%	16.7%	42.5%	16.7%	17.5%
東北	16.7%	8.7%	33.8%	10.1%	30.8%
関東	8.8%	6.3%	35.9%	39.4%	9.7%
中部	10.2%	11.2%	62.6%	13.4%	2.6%
北陸	3.9%	4.0%	52.8%	37.9%	1.4%
近畿	11.6%	6.1%	56.6%	18.1%	7.6%
中国	7.0%	17.6%	18.7%	24.5%	32.1%
四国	4.6%	28.9%	44.5%	15.4%	6.6%
北九州	6.6%	7.9%	32.4%	30.0%	23.1%
南九州	2.5%	3.6%	38.0%	7.0%	48.8%
全国	7.1%	9.8%	41.0%	17.5%	24.6%

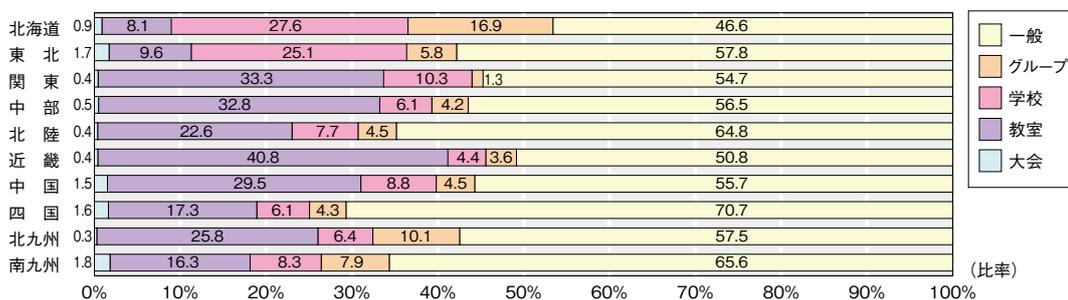
★★★ 艇庫 利用形態グラフ ★★★



イ.温水プール

ブロック	大会	教室	学校	グループ	一般
北海道	0.9%	8.1%	27.6%	16.9%	46.6%
東北	1.7%	9.6%	25.1%	5.8%	57.8%
関東	0.4%	33.3%	10.3%	1.3%	54.7%
中部	0.5%	32.8%	6.1%	4.2%	56.5%
北陸	0.4%	22.6%	7.7%	4.5%	64.8%
近畿	0.4%	40.8%	4.4%	3.6%	50.8%
中国	1.5%	29.5%	8.8%	4.5%	55.7%
四国	1.6%	17.3%	6.1%	4.3%	70.7%
北九州	0.3%	25.8%	6.4%	10.1%	57.5%
南九州	1.8%	16.3%	8.3%	7.9%	65.6%
全国	0.8%	27.6%	9.1%	5.0%	57.5%

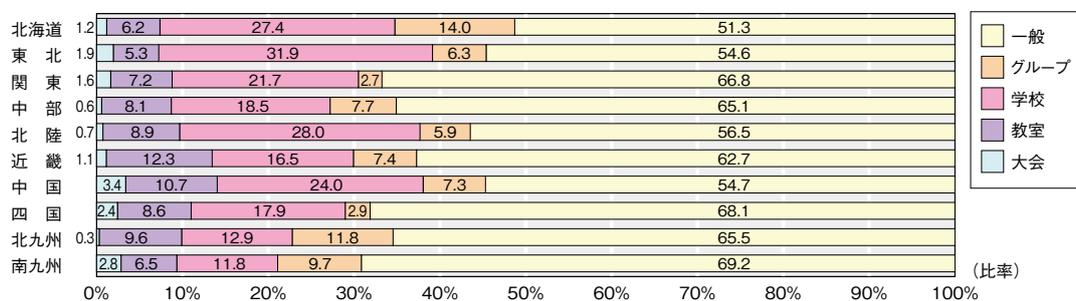
★★★ 温水プール 利用形態グラフ ★★★



ウ.プール（上屋付および屋外プール）

ブロック	大会	教室	学校	グループ	一般
北海道	1.2%	6.2%	27.4%	14.0%	51.3%
東北	1.9%	5.3%	31.9%	6.3%	54.6%
関東	1.6%	7.2%	21.7%	2.7%	66.8%
中部	0.6%	8.1%	18.5%	7.7%	65.1%
北陸	0.7%	8.9%	28.0%	5.9%	56.5%
近畿	1.1%	12.3%	16.5%	7.4%	62.7%
中国	3.4%	10.7%	24.0%	7.3%	54.7%
四国	2.4%	8.6%	17.9%	2.9%	68.1%
北九州	0.3%	9.6%	12.9%	11.8%	65.5%
南九州	2.8%	6.5%	11.8%	9.7%	69.2%
全国	1.6%	8.1%	22.3%	7.3%	60.7%

★★★ プール 利用形態グラフ ★★★



エ.体育館

ブロック	大会	教室	学校	グループ	一般
北海道	14.7%	2.6%	12.1%	44.7%	25.8%
東北	15.5%	8.2%	11.2%	49.9%	15.2%
関東	7.6%	4.0%	8.4%	55.7%	24.4%
中部	7.6%	10.1%	10.4%	50.3%	21.5%
北陸	8.6%	11.6%	9.9%	53.1%	16.8%
近畿	10.7%	18.2%	10.7%	46.2%	14.2%
中国	10.9%	13.3%	9.4%	53.1%	13.3%
四国	9.6%	8.8%	13.6%	48.9%	19.1%
北九州	8.3%	9.7%	16.6%	50.4%	15.0%
南九州	7.5%	11.0%	8.6%	50.4%	22.5%
全国	9.9%	9.8%	11.1%	50.3%	18.9%

★★★ 体育館 利用形態グラフ ★★★



(5) 海洋センター施設別・利用形態別利用人数（ベスト10）

平成27年4月26日集計（単位：人）

利用形態	順位	艇庫			通年型温水プール（屋内・上層加温）			期間限定プール（上層・屋外）			体育館		
		センター名	県名	利用人数	センター名	県名	利用人数	センター名	県名	利用人数	センター名	県名	利用人数
大会	1	滝川市	北海道	2,592	日置市東市来	鹿児島県	1,061	伯耆町岸本	鳥取県	1,506	小野町	福島県	38,462
	2	野洲市中主	滋賀県	2,218	大紀町大内山	三重県	1,011	小野町	福島県	599	上郡町	兵庫県	35,109
	3	加美町中新田	宮城県	1,614	四万十町窪川	高知県	866	鬼北町広見	愛媛県	582	岩見沢市栗沢	北海道	11,731
	4	花巻市東和	岩手県	1,220	高島市高島	滋賀県	755	奥州市前沢	岩手県	555	石狩市	北海道	10,677
	5	登米市迫	宮城県	914	与論町	鹿児島県	673	玉名市岱明	熊本県	522	東川町	北海道	10,660
	6	津奈木町	熊本県	840	府中市	広島県	635	久米島町仲里	沖縄県	500	吉見町	埼玉県	10,302
	7	八百津町	岐阜県	738	白山市鶴来	石川県	550	伊江村	沖縄県	474	川崎町	宮城県	9,660
	8	高島市高島	滋賀県	650	矢掛町	岡山県	500	安芸高田市八千代	広島県	444	田布施町	山口県	9,388
	9	大台町	三重県	620	岩泉町	岩手県	500	奈義町	岡山県	420	阿久根市	鹿児島県	9,349
	10	磐田市竜洋	静岡県	600	甲州市塩山	山梨県	467	南部町名川	青森県	419	香美町香住	兵庫県	8,652
教室	1	滝川市	北海道	3,645	芳賀町	栃木県	57,461	美郷町邑智	島根県	4,708	上郡町	兵庫県	18,378
	2	室蘭市	北海道	3,505	袋井市袋井	静岡県	48,993	堺市美原	大阪府	4,127	豊岡市出石	兵庫県	18,178
	3	倉吉市関金	鳥取県	1,182	猪名川町	兵庫県	48,282	鹿島市	佐賀県	2,550	雲南市加茂	島根県	17,913
	4	美郷町邑智	島根県	1,000	府中市	広島県	47,429	日野町	滋賀県	1,782	南あわじ市南淡	兵庫県	17,846
	5	徳島市	徳島県	987	玉村町	群馬県	46,827	尾道市瀬戸田	広島県	1,733	孤野町	三重県	15,326
	6	三豊市高瀬	香川県	874	富山市八尾	富山県	41,228	香美町香住	兵庫県	1,733	南アルプス市白根	山梨県	14,095
	7	阿久根市	鹿児島県	735	甲賀市甲賀	滋賀県	40,953	白馬村	長野県	1,588	北栄町北条	鳥取県	13,465
	8	いちき串木野市串木野	鹿児島県	676	朝倉市甘木	福岡県	35,717	津山市加茂	岡山県	1,504	南砺市福野	富山県	10,446
	9	東広島市黒瀬	広島県	665	松本市波田	長野県	34,078	甲斐市敷島	山梨県	1,248	長洲町	熊本県	10,133
	10	弘前市	青森県	538	浜松市天竜	静岡県	33,142	米原市伊吹	滋賀県	1,175	太良町	佐賀県	9,637
学校	1	本部町	沖縄県	23,779	西尾市一色	愛知県	6,303	軽米町	岩手県	8,191	徳島市	徳島県	39,758
	2	滝川市	北海道	11,078	小美玉市小川	茨城県	5,709	山形村	長野県	5,939	白馬村	長野県	35,230
	3	八百津町	岐阜県	9,118	芳賀町	栃木県	5,478	瀬戸内市長船	岡山県	5,540	香取市山田	千葉県	27,450
	4	宮津市	京都府	8,911	東川町	北海道	4,719	高山市国府	岐阜県	4,548	石川町	福島県	24,787
	5	砂川市	北海道	6,190	名護市	沖縄県	4,588	行方市玉造	茨城県	4,418	日田市中津江	大分県	22,813
	6	加美町中新田	宮城県	6,190	那須烏山市南那須	栃木県	4,413	氷見市	富山県	4,300	東川町	北海道	22,183
	7	豊後高田市真玉	大分県	5,113	高島市高島	滋賀県	3,641	堺市美原	大阪府	4,126	玉名市岱明	熊本県	13,736
	8	近江八幡市安土	滋賀県	4,886	富山市八尾	富山県	3,497	雲南市加茂	島根県	4,018	野洲市中主	滋賀県	11,655
	9	胎内市中条	新潟県	4,417	上富良野町	北海道	3,198	菊池市泗水	熊本県	3,895	上郡町	兵庫県	10,997
	10	阿賀町津川	新潟県	4,070	燕市	新潟県	3,012	淡路市東浦	兵庫県	3,790	宮津市	京都府	10,358
グループ	1	神埼市	佐賀県	3,861	みやき町北茂安	佐賀県	11,425	斜里町	北海道	3,993	高松市国分寺	香川県	47,634
	2	阿賀町津川	新潟県	3,790	燕市	新潟県	6,801	掛川市大東	静岡県	3,835	鶴ヶ島市	埼玉県	44,353
	3	美浜町	福井県	2,921	阿久根市	鹿児島県	6,000	田村市滝根	福島県	3,761	徳島市	徳島県	40,605
	4	本部町	沖縄県	2,862	美幌町	北海道	5,086	佐伯市弥生	大分県	3,586	松伏町	埼玉県	38,318
	5	滝川市	北海道	2,340	東広島市安芸津	広島県	5,031	鹿屋市串良	鹿児島県	2,623	時津町	長崎県	33,628
	6	京丹波町和知	京都府	2,307	四万十町窪川	高知県	4,903	宮崎市田野	宮崎県	2,437	いすみ市	千葉県	32,708
	7	鳥取市	鳥取県	2,289	与論町	鹿児島県	4,752	宮津市	京都府	2,417	能代市	秋田県	31,615
	8	室蘭市	北海道	2,194	志摩市浜島	三重県	4,545	新潟市新津	新潟県	2,159	牧之原市相良	静岡県	30,376
	9	香取市小見川	千葉県	2,036	富山市八尾	富山県	4,294	富加町	岐阜県	1,989	上郡町	兵庫県	29,664
	10	七尾市	石川県	1,084	佐伯市上浦	大分県	4,019	坂町	広島県	1,712	可児市	岐阜県	29,254
一般	1	本部町	沖縄県	30,154	坂井市丸岡	福井県	101,005	磐田市竜洋	静岡県	21,805	久喜市栗橋	埼玉県	75,636
	2	花巻市東和	岩手県	6,027	白山市鶴来	石川県	67,991	堺市美原	大阪府	13,436	高松市国分寺	香川県	36,826
	3	松江市松江	島根県	3,769	白岡市	埼玉県	62,420	浅口市鴨方	岡山県	9,929	長島町	鹿児島県	27,594
	4	室蘭市	北海道	3,460	井原市井原	岡山県	57,486	徳島市	徳島県	9,886	石狩市	北海道	26,981
	5	滝川市	北海道	2,508	豊川市小坂井	愛知県	56,838	南房総市千倉	千葉県	9,848	可児市	岐阜県	26,434
	6	西ノ島町	島根県	2,083	芦屋市	兵庫県	55,498	久留米市三瀬	福岡県	8,823	御前崎市	静岡県	23,827
	7	与論町	鹿児島県	1,841	猪名川町	兵庫県	47,160	いちき串木野市串木野	鹿児島県	7,477	南アルプス市白根	山梨県	23,648
	8	宮津市	京都府	1,741	日置市東市来	鹿児島県	46,885	あさぎり町免田	熊本県	7,342	鶴ヶ島市	埼玉県	19,065
	9	酒田市平田	山形県	1,573	明和町	群馬県	45,535	みやま市瀬高	福岡県	7,076	笠間市岩間	茨城県	19,026
	10	太良町	佐賀県	1,326	浜松市天竜	静岡県	42,469	川辺町	岐阜県	6,896	酒田市平田	山形県	17,954

海洋クラブの運営・活動状況

1. 海洋クラブの活動状況

全国282ヵ所（H27年3月末）のB&G海洋クラブは、海洋センター（自治体）や民間の海洋性レクリエーション愛好者組織によって運営されており、地元の家や川、湖沼等の各々の水面で、子供から大人までがカヌーやヨットなどの海洋性スポーツを楽しみ、B&G財団の基本理念である「海洋性レクリエーション活動を通じた青少年の健全育成」を推進している。

近年はクラブ員、クラブOB・OGから国体や世界大会等で活躍する選手も多数出ており、5年後の東京オリンピックに向けての活躍が、今後大いに期待されている。

～ 活動日数の増加により活動人数増加 ～

平成26年度は、平成24年度から引き続き「B&G海洋クラブの努力目標」として「活動日数の増加」と「活動人数の増加」が掲げられ、両者ともに目標が達成された。

夏場の海洋性レクリエーションだけでなく、オフシーズン中に陸上スポーツや交流活動などのクラブ行事、正月飾りやお祭りなどの地域文化活動等、年間を通して活動する海洋クラブが増えたことによるものと思われる。

「活動日数」については更に増え、昨年対比703日増の11,765日。

「活動人数」についても活動日数に並行し、昨年対比15,021人増の231,031人にのぼっている。

少子化によりクラブ員数の増加が難しいことから、海洋クラブの努力による「活動日の増加」で「活動人数の増加」を実現している状況である。

～ 海洋クラブ員数は横ばい ～

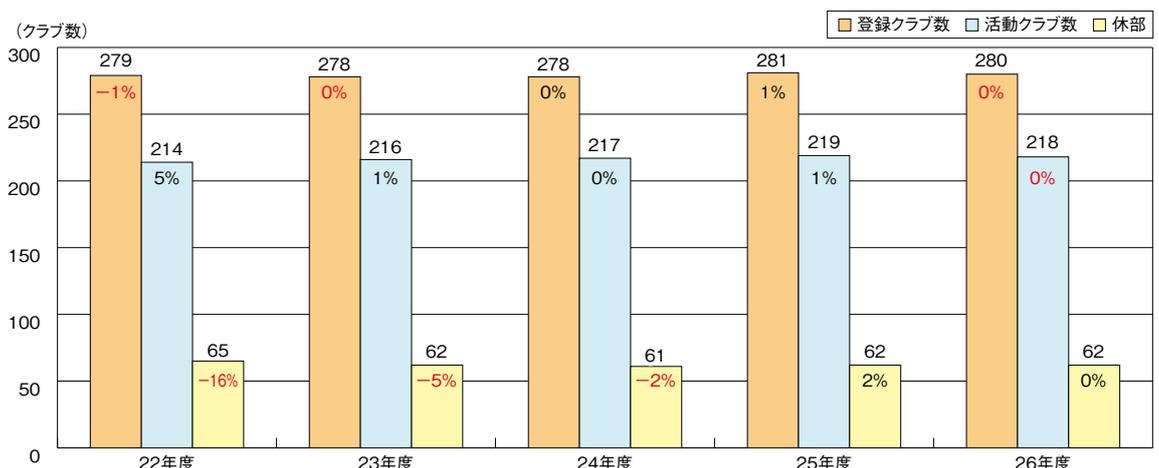
「クラブ員数の増加」についても「B&G海洋クラブの努力目標」に掲げられており、積極的な募集活動が行われたことで減少に歯止めがかかり、3年連続で微増、昨年度比で425人増の9,747人となった。

その内訳は、大人のクラブ員が増加（499人）し、子供のクラブ員は減少（-74人）となっており、子供のみならず大人まで幅広い層に募集をかけていることが伺われた。

(1) 海洋クラブ数

海洋クラブ数の推移

		22年度	23年度	24年度	25年度	平成26年度
登録クラブ	ヵ所数	279	278	278	281	280
	増減数（率）	-2（-1%）	-1（0%）	0（0%）	3（1%）	-1（0%）
活動クラブ	ヵ所数	214	216	217	219	218
	増減数（率）	10（5%）	2（1%）	1（0%）	2（1%）	-1（0%）
休部または未報告	ヵ所数	65	62	61	62	62
	増減数（率）	-12（-16%）	-3（-5%）	-1（-2%）	1（2%）	0（0%）

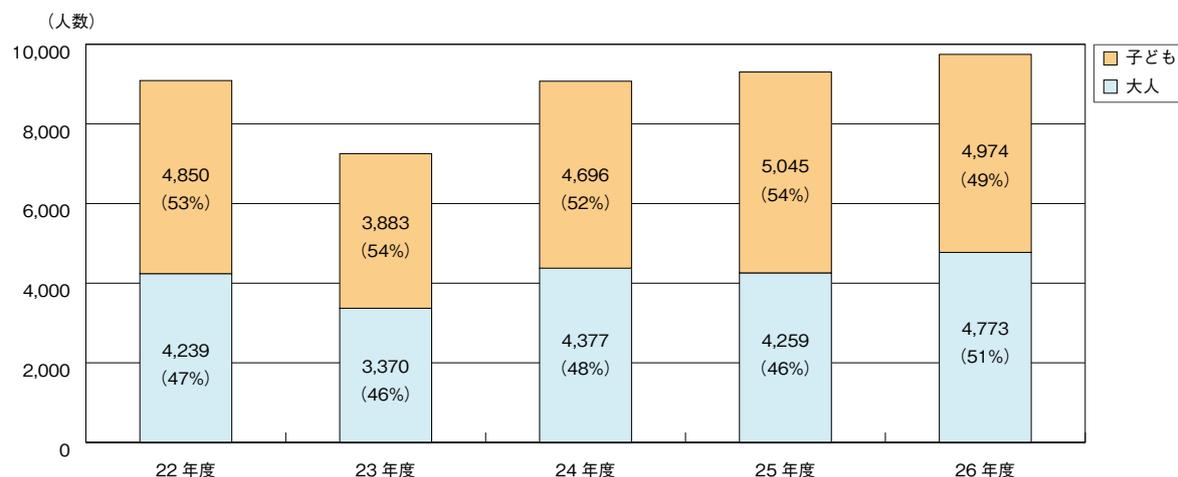


(2) 海洋クラブ員数

※大人：高校生以上

海洋クラブ員数の推移

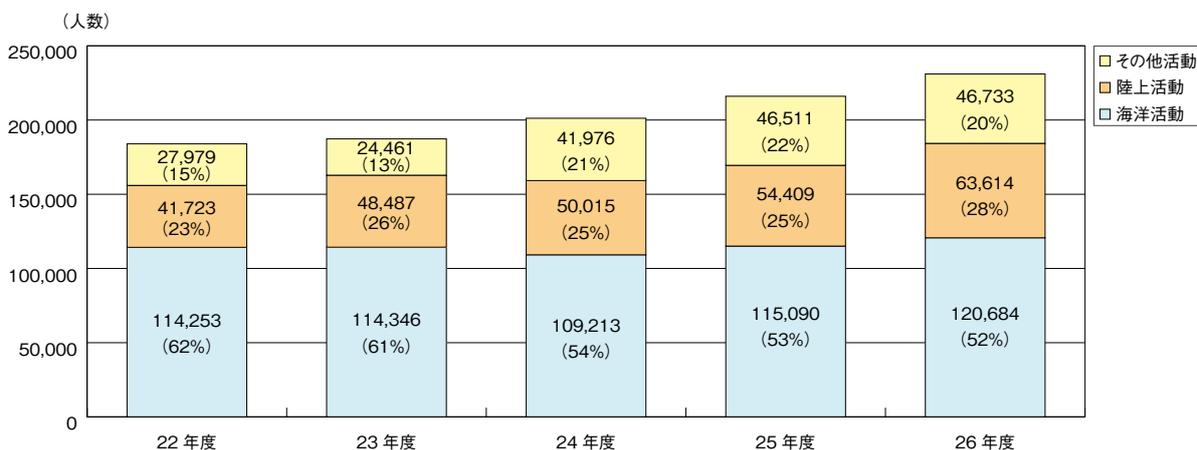
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
子ども（構成率）	4,850（53%）	3,883（54%）	4,696（52%）	5,045（54%）	4,974（49%）
大人（構成率）	4,239（47%）	3,370（46%）	4,377（48%）	4,259（46%）	4,773（51%）
合計	9,089	7,253	9,073	9,304	9,747
増減数（増減率）	-3,562（-28%）	-1,836（-20%）	1,820（25%）	231（3%）	443（4.8%）



(3) 海洋クラブ活動人数

海洋クラブ年間活動人数の推移

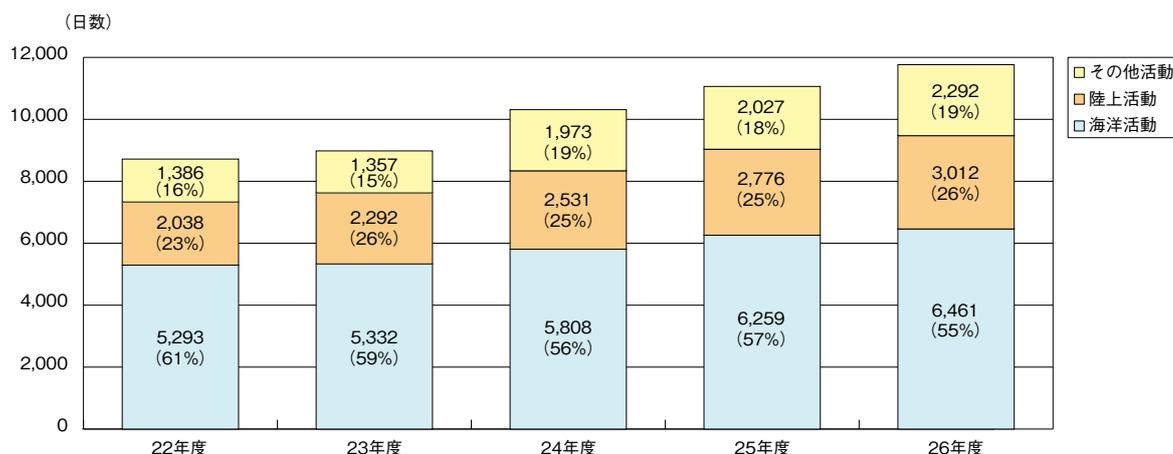
		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
その他の活動	人数	27,979	24,461	41,976	46,511	46,733
	増減数(率)	8,745（45%）	-3,518（-13%）	17,515（72%）	4,535（11%）	222（0%）
陸上活動	人数	41,723	48,487	50,015	54,409	63,614
	増減数(率)	3,911（10%）	6,764（16%）	1,528（3%）	4,394（9%）	9,205（17%）
海洋活動	人数	114,253	114,346	109,213	115,090	120,684
	増減数(率)	5,067（5%）	93（0%）	-5,133（-4%）	5,877（5%）	5,594（5%）
合計	人数	183,955	187,294	201,204	216,010	231,031
	増減数(率)	17,723（11%）	3,339（2%）	13,811（7%）	14,806（7%）	15,021（7%）



(4) 海洋クラブ活動日数

海洋クラブ年間活動日数の推移

		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
その他の活動	日数	1,386	1,357	1,973	2,027	2,292
	増減数(率)	396 (40%)	-29 (-2%)	616 (45%)	54 (3%)	202 (3%)
陸上活動	日数	2,038	2,292	2,531	2,776	3,012
	増減数(率)	60 (3%)	254 (12%)	239 (10%)	245 (10%)	236 (9%)
海洋活動	日数	5,293	5,332	5,808	6,259	6,461
	増減数(率)	-429 (-7%)	39 (0.1%)	476 (9%)	451 (8%)	202 (3%)
合計	日数	8,717	8,981	10,312	11,062	11,765
	増減数(率)	27 (0.3%)	264 (3%)	1,326 (15%)	750 (7%)	703 (6%)



2. 海洋クラブ評価

B&G財団では、海洋クラブの活動を継続的、効率的、公正に支援するため、平成15年度から「海洋クラブ評価」を実施し公表している。

(評価方法)

「海洋クラブの運営・活動状況」のほか、「財団事業の活用」「大会・講習会への参加状況」「海洋クラブの広報」「B&Gコンパスの活用状況」など、評価基準を設け総合的に評価している。

なお、平成27年度の評価（平成26年度実績）は、昨年度同様に最高評価点は47点としている。

(評価対象期間)

平成26年4月1日～平成27年3月31日までの前年度の実績を基に財団が定めた評価基準に照らして評価を行い、全海洋クラブ・海洋センターに公表する。

(評価の種類と財団支援等)

評価	点数範囲 (47点満点)	財団支援・指導等
特A	42点以上	舟艇器材追加・再配備など、評価に応じた財団支援を行う
A	35点～41点	
B	22点～34点	
C	10点～21点	
D	9点以下	休部や活動が停滞している海洋クラブに対して、今後の活動促進のための協議を行う
E	休部・廃部検討	

海洋クラブ評価基準（概略）

評価項目と配点	評価対象	
クラブの活動状況 (18点)	①活動状況（活動日数）	
	クラブ組織	②指導者・運営組織
		③クラブ員
	④新規会員の募集	
	⑤クラブ員以外を対象とする事業	
活動の周知とPR (12点)	インターネットの活用 (B&Gコンパスの利用度)	⑥クラブHP・ブログ・Face Bookの開設 ⑦B&Gコンパスの利用
	⑧広報活動への取組み状況	
	⑨書類の提出状況（海洋クラブ活動状況資料など必須の報告資料）	
	財団への協力 (上限7点)	⑩財団主催事業への参加
⑪財団支援事業の活用、実施		水辺の安全教室、マリンスポーツ技能認定、クリーンフェスティバル、その他
その他加点 (10点)	⑫地域の大会（B&G財団主催以外）への参加・活躍	
	⑬他センター、他クラブとの交流事業の開催	
	⑭学校教育との連携	
	⑮地域活動への貢献	
	⑯その他特別加点（研修講師派遣・開催協力、OB・OGの活躍、特色のある活動、努力目標達成 など）	
	合計47点	

平成27年度「海洋クラブ評価」（平成26年度実績）

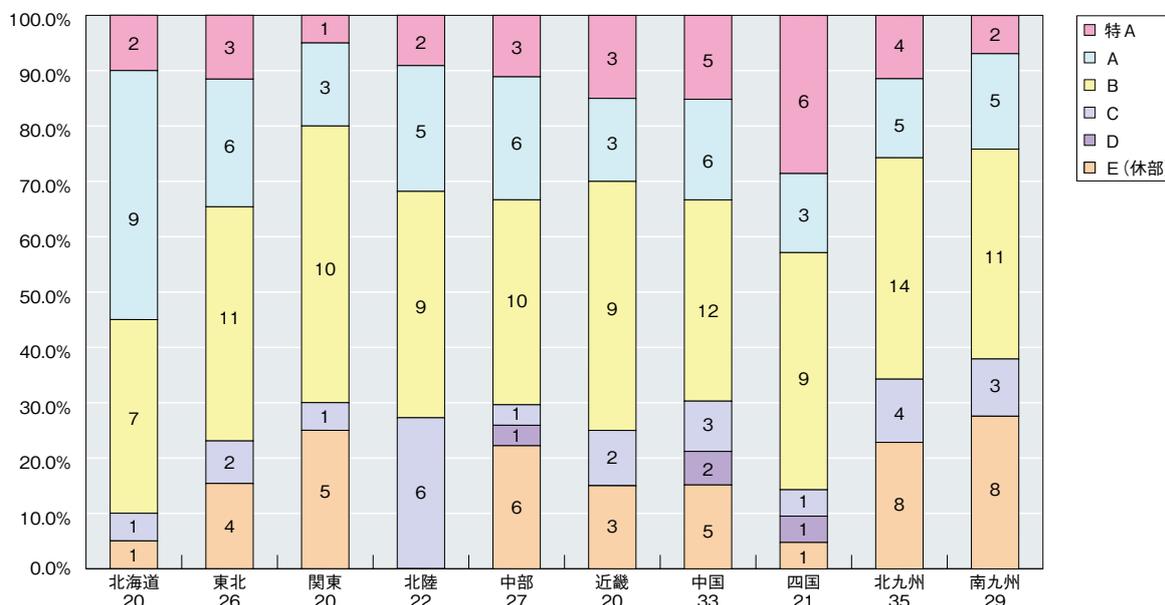
～ 全体的には横ばい状態 ～

平成26年度 海洋クラブポスターで掲げた努力目標（活動日数・活動人数、情報提供）によって、海洋性レクリエーションだけでなくオフシーズンの活動についても増加となったクラブが多いが、海洋クラブ評価は全体的に横ばい状態である。（「特A評価」と「B評価」は増加したが、「A評価」と「C評価」は減少）

休部クラブについても41クラブと変化はないが、長期休部が続くクラブが多く、対応を要する状況にある。

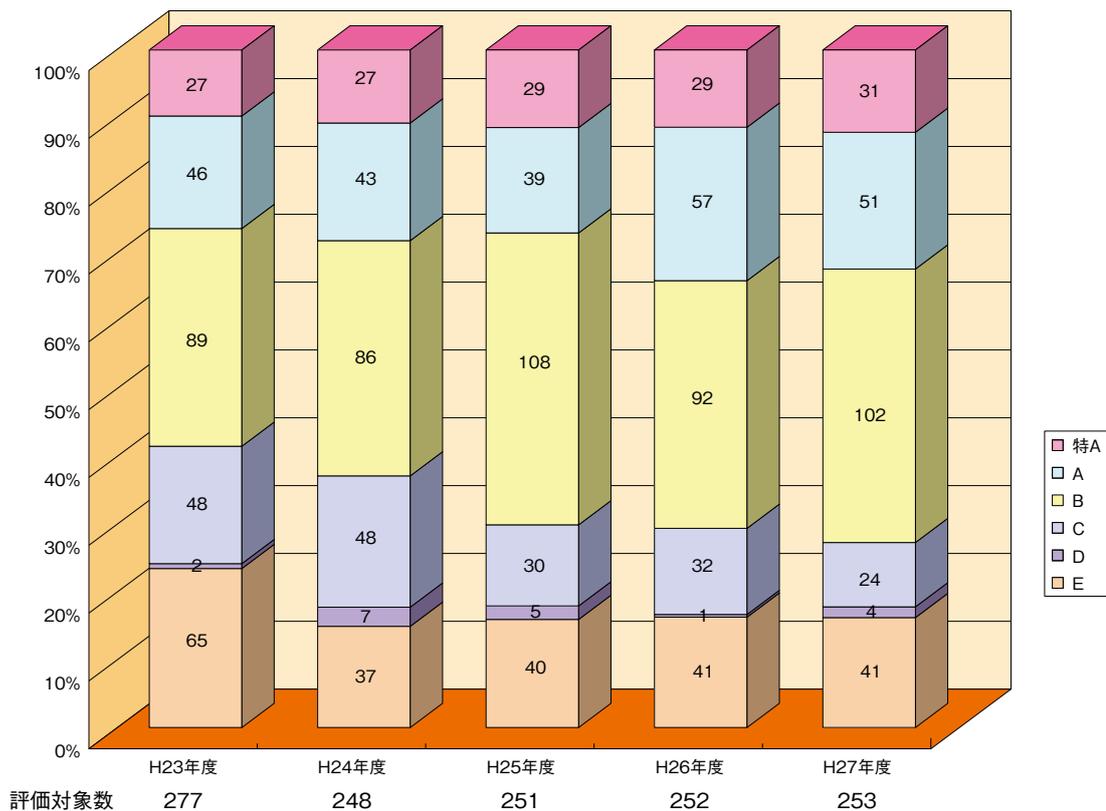
ブロック別の傾向としては、特A、Aの割合を見ると、北海道、四国での割合が高く、活動が活発なクラブが多いことが見てとれる。

2015年度 海洋クラブ評価（ブロック別 構成）

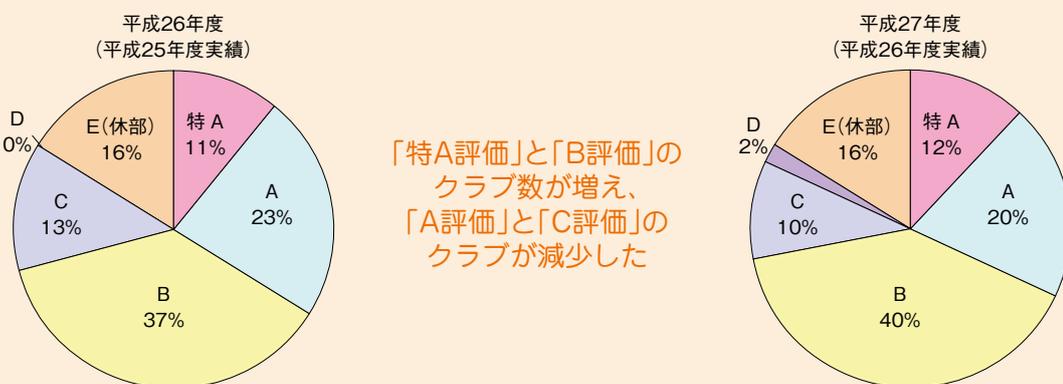


海洋クラブの評価の推移（5カ年）

年 度	特A	A	B	C	D	E（休部）	合計
H23年度（H22実績）	27	46	89	48	2	65	277
H24年度（H23実績）	27	43	86	48	7	37	248
H25年度（H24実績）	29	39	108	30	5	40	251
H26年度（H25実績）	29	57	92	32	1	41	252
H27年度（H26実績）	31	51	102	24	4	41	253
対前年度増減数（率）	2（7%）	-6（-11%）	10（10%）	-8（-25%）	3（300%）	0（0%）	1（0%）



対前年度 海洋クラブの評価別構成比率の変化



3. 平成26年度 海洋クラブ活動人数（ベスト50）

順位 No.	海洋スポーツ				陸上スポーツ				その他の活動（水泳他）			
	クラブ名	県名	活動日数	合計	クラブ名	県名	活動日数	合計	クラブ名	県名	活動日数	合計
1	虹の松原	佐賀県	326	10,744	尾上	青森県	279	9,053	尾上	青森県	297	8,882
2	やまなし	山梨県	277	8,823	やまなし	山梨県	309	8,532	積丹	北海道	18	4,333
3	あわら	福井県	142	6,292	松江	島根県	149	4,814	三隅	島根県	157	2,966
4	兵庫ジュニア	兵庫県	231	4,623	小見川	千葉県	303	3,988	美幌	北海道	68	2,419
5	小見川	千葉県	303	4,266	室蘭	北海道	132	3,881	加茂	岡山県	95	2,207
6	神埼	佐賀県	304	3,861	虹の松原	佐賀県	104	3,079	松任はまなす	石川県	109	1,600
7	福岡JY	福岡県	111	3,741	神埼	佐賀県	114	3,065	新潟	新潟県	82	1,162
8	伊丹	兵庫県	178	3,144	天瀬	大分県	136	2,746	舟形	山形県	13	999
9	釜山		93	2,623	池田	香川県	104	2,619	本部	沖縄県	150	996
10	池田	香川県	95	2,450	福野	富山県	102	2,160	中主	滋賀県	2	968
11	別府	大分県	120	2,447	湯布院	大分県	83	1,960	上市	富山県	75	965
12	高松	香川県	129	2,384	三隅	島根県	159	1,541	葉山	神奈川県	38	898
13	和知	京都府	175	2,290	上市	富山県	73	1,481	福野	富山県	36	859
14	相良	静岡県	109	2,065	舟形	山形県	47	1,369	大佐	岡山県	22	736
15	津屋崎	福岡県	126	1,713	作手	愛知県	50	1,283	串良	鹿児島県	53	679
16	新居浜	愛媛県	106	1,669	豊津	福岡県	25	995	鷹栖	北海道	13	654
17	滝川	北海道	46	1,618	新篠津	北海道	100	994	塙	福島県	29	652
18	松山	愛媛県	65	1,566	白石島	岡山県	60	827	長洲	熊本県	80	641
19	中島	愛媛県	33	1,418	砥用	熊本県	52	743	室蘭	北海道	16	486
20	小平	北海道	38	1,316	三川	新潟県	43	486	慶應医学部ヨット部	神奈川県	29	481
21	慶應医学部ヨット部	神奈川県	71	1,240	長洲	熊本県	13	442	愛別	北海道	8	476
22	室蘭	北海道	57	1,232	竹野	兵庫県	45	440	杵築	大分県	9	473
23	和歌浦	和歌山県	71	1,143	真玉	大分県	2	414	豊津	福岡県	13	462
24	内海	香川県	36	1,107	ななお	石川県	16	306	宮崎シーライオン	宮崎県	24	451
25	大町	長野県	25	1,028	新潟	新潟県	18	281	天瀬	大分県	17	382
26	なごや	愛知県	50	1,026	美幌	北海道	20	263	勝連	沖縄県	105	380
27	高瀬	香川県	54	974	矢掛	岡山県	22	246	浅井	滋賀県	15	375
28	鹿屋	鹿児島県	72	949	中田	宮城県	20	245	奈義	岡山県	11	347
29	ハウステンボス町	長崎県	87	774	愛別	北海道	10	242	平和島	東京都	3	345
30	黒瀬安芸津 (H26名称変更)	広島県	15	748	あわら	福井県	12	240	大三島	愛媛県	31	284
31	瀬戸内	岡山県	35	747	八千代	広島県	30	240	滝川	北海道	7	283
32	真玉	大分県	183	729	蒲郡	愛知県	10	197	白石島	岡山県	13	279
33	宮崎シーライオン	宮崎県	25	729	直入	大分県	10	196	高松	香川県	9	248
34	旭	愛知県	29	705	瀬戸内	岡山県	8	195	古平	北海道	4	245
35	大安	三重県	27	687	建部	岡山県	2	190	砺波	富山県	8	211
36	中主	滋賀県	42	667	御荘	愛媛県	21	177	米山	宮城県	7	205
37	あいおい	兵庫県	19	665	大山	大分県	5	175	建部	岡山県	5	205
38	横芝光	千葉県	38	663	奈義	岡山県	2	170	直入	大分県	10	196
39	八千代	広島県	100	656	甘木	福岡県	15	170	瀬戸内	岡山県	9	195
40	大島	山口県	34	614	雄和	秋田県	7	166	砥用	熊本県	6	191
41	犀川	福岡県	10	589	加茂	岡山県	9	146	大島	山口県	8	175
42	小野	福島県	9	579	米山	宮城県	3	141	兵庫ジュニア	兵庫県	10	174
43	美星	岡山県	29	567	大島	山口県	11	134	天王	秋田県	8	160
44	勝連	沖縄県	18	562	中島	愛媛県	6	125	作手	愛知県	5	155
45	津川	新潟県	49	554	那賀町	徳島県	1	120	春日	愛知県	18	149
46	ななお	石川県	30	554	北房	岡山県	40	114	御荘	愛媛県	10	148
47	かすみがうらエンジョイ	茨城県	13	551	家島	兵庫県	7	113	小島	三重県	8	143
48	桜江	島根県	28	540	新冠	北海道	18	109	ワシマ	新潟県	3	142
49	新冠	北海道	43	509	釜山	韓国	12	105	寒川	香川県	15	142
50	掛川	静岡県	23	508	塙	福島県	2	100	新冠	北海道	14	130

4. 新規海洋クラブ紹介

B&G徳良湖海洋クラブ（山形県）

クラブ活動を通じて“地域おこし”も目指しています

B&G徳良湖海洋クラブは、花笠音頭で有名な尾花沢市の徳良湖で、ボート・ヨット・カヌーなどの海洋性レクリエーション活動を行うクラブです。

クラブ活動をとおした“地域おこし”も目指しており、地元の尾花沢市観光協会や徳良湖元気村などの地域団体と協力して事業を実施します。



クラブ代表
長谷山 裕 氏



“地域おこし”を目的としたイベントも実施



“ため池百選”に選定されている徳良湖

B&G土浦海洋クラブ（茨城県）

他団体と連携して幅広い活動を実施します

日本で2番目に大きい湖・霞ヶ浦にあるラクスマリナーを拠点に活動するB&G土浦海洋クラブです。

その特徴は、マリナーの整った施設を活かし、地元の大学、障がい者カヌーの団体、NPOなど様々な団体と連携して事業を展開することです。カヌーやヨットはもちろんのこと、SUP（スタンドアップパドルボード）、遊覧船を活用した水質調査、キャンプなど水辺に親しむ幅広い活動を実施します。



クラブ代表
秋元 昭臣 氏



マリナーの施設を活かし、様々な活動を展開



ヨット以外の舟艇活動もできるラクスマリナー

B&G南アルプス海洋クラブ（山梨県）

県内の他の海洋クラブとの交流活動も行います

B&G南アルプス海洋クラブは、3,000m級の山々が連なる南アルプス市の南伊奈ヶ湖を主な活動場所としています。

カヌーを中心に、ヨット体験、キャンプ、トレッキング、スキー教室など様々な活動を計画中です。また、同じ県内の富士川口湖町にあるB&Gやまなし海洋クラブと連携し、合同練習や交流事業などを実施する予定です。



クラブ代表
橋本 篤幸氏



活動水面の「南伊奈ヶ湖」



あずまやを改装した艇庫

新たに小規模海洋クラブ2カ所をモデルとして登録!!

艇庫や海洋クラブのない海洋センターを対象に、小規模なB&G海洋クラブとして2カ所を登録。小規模クラブでは、海洋センターのプールを活用して、カヌー教室やライフジャケット浮遊などの“水辺の安全教室”を実施します。



B&G明和海洋クラブ（群馬県）



B&G猪名川海洋クラブ（兵庫県）

参 考 資 料

1. 海の日アンケート調査

憧れの海体験 第1位は“スキューバーダイビング”
癒されたい“イルカと泳ぐ”が第2位

— 2,000人が選ぶ「いつかはやってみたい憧れの海体験」 —

公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団 (B&G 財団)

海洋性レクリエーションを通して全国の子どもたちの心と体の育成を行っているB&G財団（正式名称：公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団）では、7月21日の海の日を前に、「いつかはやってみたい憧れの海体験」と題した調査を行いました。

地球の表面積の7割を占める海には、まだ私たちの知らないことが沢山あります。そんな神秘的な海に魅かれ、ヨットでの大航海や潜水艇での謎に満ちた深海探検などに憧れる人も多いのではないのでしょうか。全国の老若男女2,228名から回答を寄せてもらい、以下はその結果です。

〈 要 約 〉

- 意外にも総合第2位は、「イルカと一緒に泳ぐ」。『癒し』を求めてイルカとの触れ合いに憧れる。
- いつかはやってみたい憧れの海体験、総合第1位は「スキューバーダイビング」。
6位「素潜り」、9位「シュノーケリング」、10位「潜水艇」、13位「深海探検」となり、海中をのぞく体験が全体の34%を占める。
- 「船旅」に憧れる50代・60代。時間とお金に余裕ができればやってみたい。

【調査概要】

タイトル 「いつかはやってみたい憧れの海体験」と「その理由」
募集期間 2014年5月28日～6月25日
募集対象 全国の男女
調査方法 ハガキおよびインターネットによる自由記入方式
応募総数 2,218件（ハガキ376件・インターネット1,842件）
有効回答数 1,919件（ハガキ357件・インターネット1,562件）
サンプル内訳

(単位：人)

	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男性	132	181	230	178	163	884
女性	225	344	229	157	80	1,035
合計	357	525	459	335	243	1,919

【総合ベストテン】（N=1,919）

順位	憧れの海体験	得票 (%)
1	スキューバーダイビング	448 (23.3%)
2	イルカと一緒に泳ぐ	205 (10.7%)
3	ヨット	104 (5.4%)
4	船旅	90 (4.7%)
5	泳ぐ	88 (4.6%)
6	素潜り	86 (4.5%)
7	サーフィン	86 (4.5%)
8	釣り	82 (4.3%)
9	シュノーケリング	65 (3.4%)
10	潜水艇	56 (2.9%)

“いつかはやってみたい憧れの海体験”の総合1位は「スキューバーダイビング」で、全体の23.3%を占め、すべての世代で1位となっています。

理由として、「青い海の中で魚と戯れたい」「美しい海で自然を感じたい」という意見が多くありました。近年、ダイビング人口は減少にあるといいますが、映画やテレビで美しい水中が映し出される機会も多く、一度は体験してみたいと思う人が多いのかもしれません。

また、6位「素潜り」、9位「シュノーケリング」、10位「潜水艇」、13位「深海探検」となり、全体の34%が“海の中をのぞく”体験に憧れており、神秘的で謎めいている海底は、人々の興味を引くようです。

2位は、水族館の人気者でもある「イルカと一緒に泳ぐ」。「イルカが好きだから」「癒されたい」等の理由で選ばれました。特に、女性は153人（14.8%）が回答しており、イルカとの触れ合いで癒されたい気持ちが強いようです。

3位は、「ヨット」。理由として、「風が気持ちよさそう」という声が多くありました。また、50代（2位）・60代以上（4位）では、「アランドロンになりたい」「石原裕次郎や加山雄三に憧れていた」などの理由が多数あげられ、映画の影響で、その年代の憧れのレジャーのようです。

3位以下は、「船旅」（4位）、「泳ぐ」（5位）、「素潜り」（6位）という結果になりました。「船旅」は、年代別でみると、「退職記念に」「のんびりしたい」などの理由で、50代で3位、60代で2位となっており、シニア層は時間に余裕ができたならやってみたいと思っているようです。

「素潜り」はドラマの影響からか、「海女さんの真似をしたい」「ウニをその場で食べたい」という意見が多数ありました。

また、「潜水艇」（10位）、「深海探検」（13位）が「深海生物を見てみたい」という理由で選ばれており、これらを合わせると91人（4.7%）になり、神秘的な深海生物への関心が高まっているようです。

【男女別ベスト5】

■男性（N=884）

	憧れの海体験	得票（%）
1	スキューバーダイビング	205 (23.2%)
2	ヨット	62 (7.0%)
3	イルカと一緒に泳ぐ	52 (5.9%)
4	釣り	48 (5.4%)
5	船旅	45 (5.2%)

■女性（N=1,035）

	憧れの海体験	得票（%）
1	スキューバーダイビング	243 (23.5%)
2	イルカと一緒に泳ぐ	153 (14.8%)
3	素潜り	63 (6.1%)
4	泳ぐ	49 (4.7%)
5	船旅	44 (4.4%)

性別で見ると、男性第2位は「ヨット」。「男なら大海原に飛び出したい」という冒険心の表れのようなです。男性第4位の「釣り」は、「マグロの一本釣りをしてみたい」「カジキを釣って一攫千金を狙いたい」など、普段釣ったことがない“大物”に憧れるようです。

一方、女性は、海洋生物との触れ合いやのんびり泳ぎたいという気持ちが強いようで、男女差が出る結果となりました。

【年代別ベスト5】

■20代以下（N=357）

	憧れの海体験	得票（%）
1	スキューバーダイビング	76 (21.3%)
2	イルカと泳ぐ	54 (15.1%)
3	ヨット	18 (5.0%)
4	サーフィン	18 (5.0%)
5	素潜り	17 (4.8%)
6	釣り	17 (4.8%)

■30代（N=525）

	憧れの海体験	得票（%）
1	スキューバーダイビング	135 (25.7%)
2	イルカと泳ぐ	74 (14.1%)
3	泳ぐ	28 (5.3%)
4	サーフィン	24 (4.6%)
5	素潜り	23 (4.4%)

■40代（N=459）

	憧れの海体験	得票（%）
1	スキューバーダイビング	108 (23.5%)
2	イルカと泳ぐ	48 (10.5%)
3	ヨット	29 (6.3%)
4	サーフィン	24 (5.2%)
5	泳ぐ	23 (5.0%)

■50代（N=335）

	憧れの海体験	得票（%）
1	スキューバーダイビング	87 (26.0%)
2	ヨット	27 (8.1%)
3	船旅	23 (6.9%)
4	イルカと泳ぐ	23 (6.9%)
5	クルーザー	16 (4.8%)

■60代以上（N=243）

	憧れの海体験	得票（%）
1	スキューバーダイビング	42 (17.3%)
2	船旅	28 (11.5%)
3	素潜り	19 (7.8%)
4	ヨット	15 (6.2%)
5	潜水艇	13 (5.3%)

【印象に残った回答や理由】

■物語にちなんで

- ・「人魚になりたい」尾びれをつけて人魚のようにスイスイ泳いでみたい。(10代女性)
- ・「亀を助けて竜宮城に行ってみよう」。(10代男性)
- ・「海賊になって世界制覇」。(30代女性)
- ・「無人島生活」子どもの頃に読んだ『十五少年漂流記』に憧れているから。(50代男性)
- ・「くじらに乗って寝てみたい」ピノキオみたいな旅がしたいから。(10代女性)

■新しい水辺のスポーツ

- ・「スタンドアップパドル」面白そう。(20代男性)
- ・「シーウォーク」カナヅチなので海の底を歩いてみたい。(60代女性)
- ・「フライボード」テレビで見てやってみようと思った。(20代男性)
- ・「海上ヨガ」日頃のストレスも飛びそうな気がするから。(30代女性)

■ロマンチック

- ・「海辺での結婚式」大自然の祝福の中で、彼女とふたりっきりで満喫してみたい。(20代男性)
- ・「デート」彼女と海に行ったことがないから。(20代男性)

■その他

- ・「散骨」自由にさせてあげたい。(50代女性)
- ・「スイカ割り」子供の頃にチャンスがなくて出来なかった。(20代女性)
- ・「しんかい6500に乗船」宇宙は遠いので海の宇宙旅行をしたいから。(30代男性)
- ・「ハーリー」沖縄生まれの私は、海を見て育ちましたが、海で遊んだことはあまりありません。仲間が力を合わせて船を漕ぐ姿は、見ていて胸が高鳴りました。「私もハーリーに参加したいなあ！」と思いつつ、機会がないまま沖縄を離れてしまいました。一人では出来ない、チームプレーのハーリーは私の憧れです。(30代女性)
- ・「いかだを作って大西洋横断」自分で木を切ってシュロ縄を編んでから作り上げ、海に乗り出したい。(40代男性)

— 以上 —

2. B&G財団役員一覧

H27.3.31現在

1. 理事

(敬称略)

役職	氏名	現職
会長	梶田 功	一般社団法人 全国モーターボート競走施行者協議会 会長(元) 大阪府 箕面市長 (元)
専務理事	菅原 悟志	
常務理事	古山 透	
理事	重 由美子	アトランタオリンピック女子470級ヨット銀メダリスト
	高良 文雄	沖縄県 本部町長
	山中 健	兵庫県 芦屋市長
監事	篠原 通夫	篠原会計事務所 公認会計士・税理士
	西本 克己	株式会社東京ビー・エム・シー 代表取締役社長

(非常勤役員は五十音順)

2. 評議員

(敬称略)

役職	氏名	現職
議長	小高 幹雄	BOAT RACE振興会 会長
評議員	遠藤 容弘	公益財団法人 日本ゲートボール連合 専務理事
	岸 ユキ	女優
	工藤 祐直	B&G全国サミット 副会長 B&G全国町村長会議・B&G全国指導者会 会長 青森県 南部町長
	小峯 力	中央大学 教授
	今 義男	海洋政策研究財団 理事長
	谷川 真理	マラソンランナー 流通経済大学 客員教授
	西嶋 泰義	大分県 佐伯市長
	吉田 和夫	B&G全国サミット・B&G全国市長会議 会長 新潟県 胎内市長

(議長を除く評議員は五十音順)

3. B&G全国サミット

(敬称略)

役職	氏名	現職
会長	吉田 和夫	新潟県 胎内市長、B&G財団評議員、B&G全国市長会議 会長
副会長	宇井 成一	千葉県 香取市長、海洋センター施設整備委員
	工藤 祐直	青森県 南部町長、B&G財団評議員 B&G全国町村長会議・B&G全国指導者会 会長
	椎木 巧	山口県 周防大島町長
	芝田 秀数	奈良県 曾爾村長
	松井 三郎	静岡県 掛川市長

(副会長は五十音順)

4. B&G全国市長会議

(敬称略)

役職	氏名	現職
会長	吉田 和夫	新潟県 胎内市長、B&G財団評議員、B&G全国サミット会長
副会長	宇井 成一	千葉県 香取市長、海洋センター施設整備委員
	松井 三郎	静岡県 掛川市長

(副会長は五十音順)

5. B&G全国町村長会議

(敬称略)

役職	氏名	現職
会長	工藤 祐直	青森県 南部町長、B&G財団評議員、B&G全国指導者会 会長
副会長	椎木 巧	山口県 周防大島町長
	芝田 秀数	奈良県 曾爾村長

(副会長は五十音順)

6. B&G全国教育長会議

(敬称略)

役職	氏名	現職
会長	井上 克也	北海道 砂川市教育長
副会長	伊藤 勉	愛知県 東栄町教育長
	川上 一郎	高知県 津野町教育長

(副会長は五十音順)

7. B&G全国指導者会

(敬称略)

役職	氏名	現職
会長	工藤 祐直	青森県 南部町長、B&G財団評議員、B&G全国サミット 副会長 B&G全国町村長会議 会長
副会長	金久 博	徳島県 阿南市 特定事業部 特定事業推進課 課長補佐
	川島 正光	埼玉県 久喜市栗橋総合支所 環境経済課 課長補佐

(副会長は五十音順)

8. 海洋センター施設整備委員会

(敬称略)

役職	氏名	現職
委員長	小池 保夫	一般財団法人日本モーターボート競走会 会長
委員	宇井 成一	千葉県 香取市長
	大西 英輔	オオニシアーキテクト 代表取締役
	小林 元一	株式会社松田平田設計 大阪事務所副所長
	田久保 雅己	マリンジャーナリスト会議 (MJC) 会長 株式会社 舵社 常務取締役
	田畑 誠一	鹿児島県 いちき串木野市長
	広瀬 秀貴	BOAT RACE振興会 常務理事

(委員は五十音順)

3. 平成26年度「地域海洋センター修繕助成」一覧

通常修繕

単位：円

No.	道府県名	センター名	施設名	修繕内容	最終工事費	助成金額
1	北海道	北竜町	プール	ろ過機取替、給排水設備改修工事 他	27,000,000	14,300,000
2		東神楽町	プール	上屋シート全面張替、上屋鉄骨全面補強改修、採暖室設置工事 他	45,250,000	25,300,000
3	宮城県	亘理町	プール	上屋シート全面張替、缶体全面塗装、管理棟改修工事 他	48,450,000	18,800,000
4	秋田県	男鹿市	プール	屋根固定化、缶体全面塗装、プールサイド全面改修工事 他	107,650,000	30,000,000
5	千葉県	南房総市千倉	プール	上屋シート全面張替、プールサイド全面改修、上屋鉄骨全面塗装工事 他	31,723,868	19,000,000
6		鋸南町	プール	屋根固定化、プール水循環設備設置工事 他	130,000,000	30,000,000
7	新潟県	佐渡市小木	プール	プールサイド全面改修、上屋鉄骨塗装工事 他	11,700,000	7,000,000
8	富山県	砺波市	体育館	武道場床張替工事 他	13,800,000	8,900,000
9	石川県	志賀町富来	プール	プール室天井補強、空調設備改修、温水ボイラー取替工事 他	147,437,000	30,000,000
10	福井県	大野市	プール	缶体全面塗装工事	6,850,000	4,400,000
11	岐阜県	川辺町	艇庫	屋根・外壁全面改修工事 他	2,800,000	1,400,000
12		恵那市山岡	体育館	身障者スロープ、給排水管取替工事 他	18,824,000	11,300,000
13		中津川市加子母	プール	上屋シート全面張替、上屋鉄骨全面改修工事	16,570,000	10,200,000
14			体育館	身障者スロープ、多目的トイレ設置工事、武道場屋根改修工事 他	8,930,000	5,300,000
15	兵庫県	芦屋市	プール	温水プール天井全面改修工事	52,317,000	6,800,000
16	和歌山県	広川町	体育館	アリーナ天井全面改修工事 他	38,192,000	18,100,000
17	鳥取県	鳥取市佐治	プール	プールサイド全面改修、管理棟改修工事 他	27,828,000	15,300,000
18	岡山県	井原市美星	体育館	屋根全面改修、多目的トイレ設置工事 他	13,560,000	9,400,000
19		赤磐市吉井	プール	缶体全面塗装、プールサイド全面改修、ろ過機取替、暖房設備全面改修 他	65,120,000	30,000,000
20	山口県	岩国市美和	プール	缶体地盤沈下修正、上屋鉄骨全面塗装、入水階段設置工事	33,600,000	22,500,000
21	徳島県	那賀町鷲敷	体育館	屋根全面改修、アリーナ床全面塗装改修工事 他	40,678,200	21,300,000
22	福岡県	みやま市瀬高	プール	缶体全面塗装、プールサイド全面改修、上屋シート張替工事	25,720,000	15,400,000
23	長崎県	南島原市加津佐	プール	上屋鉄骨全面改修、上屋シート張替工事	21,250,000	11,600,000
24		五島市岐宿	プール	プールサイド・缶体・管理棟全面改修工事 他	23,482,000	14,700,000
25	大分県	宇佐市安心院	体育館	屋根・外壁全面改修、バリアフリー化(段差解消)工事 他	64,857,000	30,000,000
26	熊本県	長洲町	艇庫	屋根防水、鉄骨塗装、シャワー設置工事	7,170,000	5,000,000
27		津奈木町	体育館	観覧ギャラリー設置、音響改善、多目的トイレ設置工事、外壁改修工事 他	60,563,954	30,000,000
28	鹿児島県	阿久根市	プール	缶体全面改修工事(プール水深掘下げ工事)、プールサイド全面改修、給排水設備更新工事 他	96,500,000	26,800,000
29		天城町	プール	缶体・ろ過機取替工事	46,000,000	29,900,000
合 計				29施設(20道府県・28センター)	1,233,823,022	502,700,000

特別施設整備

単位：円

No.	道府県名	センター名	施設名	修繕内容	最終工事費	助成金額
1	山梨県	甲州市勝沼	プール	プール再建工事（温水ボイラー設置、バリアフリー化）	126,387,000	30,000,000
合 計				1施設（1県・1センター）	126,387,000	30,000,000

災害復旧修繕（台風）

単位：円

No.	道府県名	センター名	施設名	修繕内容	最終工事費	助成金額
1	千葉県	御宿町	プール	上屋シート補修工事	487,000	100,000
2	徳島県	阿南市那賀川	体育館	屋根改修工事	2,580,000	900,000
3	大分県	国東市国見	プール	上屋シート取替工事（11枚）	6,000,000	2,100,000
4	沖縄県	うるま市勝連	プール	上屋シート取替工事（13枚）	9,880,000	3,400,000
5		伊江村	プール	上屋シート取替工事（4枚）	2,116,000	700,000
合 計				5施設（4県・5センター）	21,063,000	7,200,000

平成 26 年度「修繕助成金」合計

単位：円

修繕種別		施設数	最終工事費	助成金額
通常修繕	艇庫	2	9,970,000	6,400,000
	プール	19	964,447,868	362,000,000
	体育館	8	259,405,154	134,300,000
	合 計	29	1,233,823,022	502,700,000
特別施設整備	プール	1	126,387,000	30,000,000
	合 計	1	126,387,000	30,000,000
災害復旧修繕	プール	4	18,483,000	6,300,000
	体育館	1	2,580,000	900,000
	合 計	5	21,063,000	7,200,000
総合計		35	1,381,273,022	539,900,000

4. 平成26年度「舟艇等の追加・再配備」一覧

単位：円

No.	センター・クラブ名	道府県名	配備内容	仕様	配備区分	数量	配備金額	財団負担額
1	女満別クラブ	北海道	指定救命胴衣	(S)	再	10	74,520	50,520
2	小樽クラブ		指定救命胴衣	(L)	再	5	45,900	35,900
3			指定救命胴衣	(S)	再	5	37,260	28,260
4	滝川市センター		指定救命胴衣	(L)	再・追	10	91,800	61,800
5			指定救命胴衣	(M)	再・追	10	91,800	61,800
6			指定救命胴衣	(S)	再・追	20	149,040	101,040
7			指定救命胴衣	(L)	再	15	137,700	92,700
8	大樹町センター		指定救命胴衣	(M)	再	25	229,500	154,500
9	砂川市センター		指定救命胴衣	(S)	再	20	149,040	101,040
10			指定救命胴衣	(S)	再・追	25	186,300	126,300
11	加美町中新田センター	宮城	指定救命胴衣	(S)	追加	50	372,600	252,600
12	柳津町センター	福島	指定救命胴衣	(S)	再・追	25	186,300	126,300
13	小野クラブ		指定船外機	9.8馬力Sシャフト	再	1	179,820	119,820
14	穴水クラブ	石川	指定救命胴衣	(L)	再	5	45,900	30,900
15			指定救命胴衣	(M)	再	5	45,900	30,900
16			指定救命胴衣	(S)	再	15	111,780	75,780
17	砺波市センター	富山	指定救命胴衣	(L)	再	10	91,800	61,800
18			指定救命胴衣	(M)	再	20	183,600	123,600
19	大町市センター	長野	アオキカヌー	カプリスクール	再	4	413,680	200,000
20	飯綱クラブ		指定救命胴衣	(L)	再	5	45,900	30,900
21			指定救命胴衣	(M)	再	5	45,900	30,900
22			指定救命胴衣	(S)	再	5	37,260	25,260
23	川辺町センター	岐阜	アオキカヌー	カプリスクール	再	5	646,920	320,000
24			アオキカヌー	パドル	再	5		
25	多賀町センター	滋賀	指定救命胴衣	(L)	再	5	45,900	30,900
26			指定救命胴衣	(M)	再	5	45,900	30,900
27			指定救命胴衣	(S)	再	5	37,260	25,260
28	伊丹クラブ	兵庫	指定ゴムボート	JEX365	追加	1	213,300	163,300
29	(★一般)		指定船台	F620A	追加	1	54,194	42,194
30	美星クラブ	岡山	指定救命胴衣	(L)	再	5	45,900	30,900
31			指定救命胴衣	(M)	再	10	91,800	61,800
32			指定救命胴衣	(S)	再	10	74,520	50,520
33	府中市センター	広島	指定救命胴衣	(L)	再	10	91,800	61,800
34			指定救命胴衣	(S)	再	5	37,260	25,260

単位：円

No.	センター・クラブ名	道府県名	配備内容	仕様	配備区分	数量	配備金額	財団負担額
35	呉市蒲刈センター	広島	指定救助艇	AS332	再・追	1	253,800	173,800
36			指定船外機	9.8馬力Sシャフト	再・追	1	179,820	119,820
37			指定船台	F620A	再・追	1	54,302	37,302
38			指定救命胴衣	(L)	再	5	45,900	30,900
39			指定救命胴衣	(M)	再	5	45,900	30,900
40			指定救命胴衣	(S)	再	10	74,520	50,520
41	今治市大三島センター	愛媛	OPヨット	ファイースト製	再	2	874,800	430,000
42	御荘クラブ		指定救命胴衣	(M)	追加	10	91,800	61,800
43			指定救命胴衣	(S)	追加	10	74,520	50,520
44	築上町築城センター	福岡	指定救命胴衣	(M)	追加	5	45,900	30,900
45			指定救命胴衣	(S)	追加	5	37,260	25,260
46	津屋崎クラブ (★一般)		指定ゴムボート	AS332	追加	1	253,800	193,800
47			指定船台	F620A	追加	1	54,302	42,302
48	太良町センター	佐賀	指定救命胴衣	(S)	再・追	20	149,040	101,040
49	時津町センター	長崎	指定救命胴衣	(L)	再	10	91,800	61,800
50			指定救命胴衣	(M)	再	5	45,900	30,900
51			指定救命胴衣	(S)	再	10	74,520	50,520
52	別府クラブ	大分	指定ゴムボート	AS332	再	1	253,800	193,800
53			指定船外機	9.8馬力Sシャフト	再	1	179,820	139,820
54	串良クラブ	鹿児島	指定救命胴衣	(M)	再	5	45,900	30,900
55			指定救命胴衣	(S)	再	10	74,520	50,520
56	いちき串木野市センター		指定ゴムボート	JEX365	再・追	1	213,300	143,300
57			指定船外機	9.8馬力Sシャフト	再・追	1	179,820	119,820
58	鹿屋クラブ (★一般)			SUP スタンドアップパドルボート	BIC 10.4 DURA - TEC	追加	2	157,768
合 計						485	7,890,866	5,035,698

5. 平成26年度「地域の特色ある事業」一覧

No.	事業者	事業名	実施日	実施場所	参加者 人数(人)	事業 経費(円)	協力 金額(円)
1	北海道ブロック 連協協議会	平成26年度 B&G北海道ブロック・ス ポーツ交流交歓会	7月20日・8月3日	砂川市海洋センター	434	497,570	350,000
2	東 北ブロック 連協協議会	がんばろう東北! 洋野町種市B&G海洋セ ンター落成式・B&G海洋体験交流会	7月5日	一関市東山、藤沢 海洋センター	108	260,333	260,333
3	関 東ブロック 連協協議会	B&G関東ブロック交流会	7月21日～22日	鶴ヶ島市海洋センター	66	213,937	14,181
4	北 陸ブロック 連協協議会	平成26年度北陸ブロックB&Gスポーツ 交流大会	8月11日～12日	美浜町海洋センター	8	10,698	10,698
5	中 部ブロック 連協協議会	平成26年度中部ブロックB&G地域海洋 センター連絡協議会スポーツ交流会	8月6日～7日	上松町海洋センター	31	211,817	210,000
6	近 畿ブロック 連協協議会	平成26年度 近畿ブロック地域海洋 センタースポーツ交流大会兼和歌山県 B&G地域海洋センタースポーツ交流大 会(中止)	8月9日～10日	広川町海洋センター	0	59,960	59,960
7	中 国ブロック 連協協議会	B&G2014親子3S体験キャンプIN周防大島	7月19日～21日	周防大島町海洋センター	26	668,253	350,000
8	四 国ブロック 連協協議会	四国ブロックマリンスポーツ交流大会	8月7日～8日	牟岐町B&G海洋センター	55	400,956	350,000
9	北九州ブロック 連協協議会	北九州ブロックB&G交流大会(ミニバレーボール)	2月21日	豊後高田市真玉 海洋センター	52	38,543	38,543
10	南九州ブロック 連協協議会	第9回南九州ブロックB&Gスポーツ大会	8月25日	与論町海洋センター	146	260,953	260,000
11	秋田県連協協議会	B&G夏休みチャレンジサマーキャンプ	7月25日～27日	能代市海洋センター	25	489,182	473,936
12	葉山海洋クラブ	B&G総合的なウォーター・セルフディフェンス	(A)6月21日・(B)7月21日	葉山海洋クラブ	64	433,247	336,000
13	兵庫ジュニア 海洋クラブ	2014B&Gジュニアヨット兵庫の海と風体験学習	6月21日・22日・28日・29日 7月6日・13日・27日 8月10日・12日～17日・24日 11月16日	兵庫ジュニア 海洋クラブ	319	449,607	350,000
14	伊丹海洋クラブ	障害者対象 スポーツホリデー	9月13日・14日	伊丹海洋クラブ	117	527,055	500,000
15	新居浜海洋クラブ	海の子と山の子の交流アドベンチャー!	7月19日	新居浜海洋クラブ	42	215,511	215,511
16	福岡ジュニアヨット 海洋クラブ	B&G国際交流ジュニアヨット大会	8月1日～4日	福岡ジュニアヨット 海洋クラブ	40	995,460	350,000
17	津屋崎海洋クラブ	平成26年度宗像マリンスポーツ正課授業・ 視覚障害者ヨット体験授業	6月29日・10月15日	津屋崎海洋クラブ	62	190,635	183,000
18	宮崎シーライオン 海洋クラブ	B&G杯 第2回サンビーチ・ーツ葉 カヌーアスロン大会	6月8日	宮崎シーライオン 海洋クラブ	44	557,584	500,000
19	全国指導者会	全国指導者会・指導員の資質向上および 地域指導者会の活動強化事業	4月25日・5月16日 10月10日・11月5日・6日	—	240	519,224	500,000
20	鷹栖町指導者会 愛別町指導者会 東神楽町指導者会	B&G秋のチャレンジデー	10月13日	鷹栖町海洋センター	4634	514,907	500,000
21	沼田町指導者会	海は友達! B&G自然体験キャンプ	7月28日～30日	沼田町海洋センター	20	301,716	295,644
22	六戸町指導者会	平成26年度 B&G被災体験キャン プろくのへ探検隊	7月24日・30日 8月7日・8日・20日 11月2日	六戸町海洋センター	901	118,070	118,070
23	大郷町指導者会	水辺から学ぶB&G防災安全教室	7月20日	大郷町海洋センター	15	53,425	53,425
24	石岡市指導者会	平成26年度 レイクフェスティバル IN KASUMIGAURA	9月27日	—	13	147,466	103,000
25	松伏町指導者会	平成26年度「カヌー&水辺の安全教室」	7月11日・12日・15日・19日・ 20日・26日・27日 8月12日・17日・23日 9月14日・15日	松伏町海洋センター	451	504,958	500,000
26	雲南市加茂 指導者会	B&G防災訓練避難所宿泊体験	7月19日～20日	雲南市加茂 海洋センター	12	429,536	429,536
27	周防大島町 指導者会	2014B&GプールでOPヨット体験&水上スキー 体験教室	6月28日	周防大島町 海洋センター	51	174,133	169,965
28	徳島市指導者会	ウォーターセーフティプロジェクト in Ronden 水と親しむ親と子の防災体験キャンプ	9月20日～21日	徳島市海洋センター	107	399,909	303,000
29	海陽町海南 指導者会	学ぼう!つなげよう!防災のまち 海陽町	2月1日	海陽町海南海洋センター	14	131,085	124,085
30	松山市中島 指導者会	親と子のふれあいキャンプ in 中島	8月30日～31日	松山市中島海洋センター	26	224,153	70,000
31	東津野指導者会	B&Gわくわくチャレンジ in 津野～食育&防災～	9月20日	津野町東津野海洋センター	19	78,365	68,865
32	与論町指導者会	2014 第2回B&G南西諸島交歓大会	10月18日	与論町海洋センター	68	135,368	101,000
合 計 32事業						10,213,616	8,148,752

6. 「B&G指導者会」 県別一覧

H27.3.31現在

道府県	登録 No.	海洋センター名	道府県	登録 No.	海洋センター名	道府県	登録 No.	海洋センター名
北海道	7	滝川市	岩手県	88	普代村	茨城県	169	常陸太田市水府
	8	新篠津村		105	久慈市山形		184	北茨城市
	17	せたな町瀬棚		126	陸前高田市		200	五霞町
	18	大樹町		156	山田町		248-1	小美玉市玉里
	51	厚岸町		170	洋野町種市		248-2	小美玉市小川
	69	鷹栖町		234-1	一関市東山		325	かすみがうら市千代田
	78	美幌町		234-2	一関市藤沢	栃木県	20	芳賀町
	85	愛別町		241	大船渡市三陸		58	那須烏山市南那須
	87	剣淵町		279	盛岡市玉山		174	下野市国分寺
	102	小平町		297	花巻市東和		349	鹿沼市粟野
	140	古平町		299	奥州市前沢		364	那須塩原市塩原
	152	芦別市		328	軽米町		368	さくら市喜連川
	192-1	大空町東藻琴	宮城県	57-1	登米市中田	群馬県	99	明和町
	192-2	大空町女満別		57-2	登米市米山		220	玉村町
	198	遠別町		57-3	登米市迫		266	みなかみ町新治
	205	東川町		89	川崎町	埼玉県	10	久喜市栗橋
	206	浦臼町		90	栗原市築館		142	吉見町
	208	沼田町		93	仙台市泉		144	松伏町
	215	砂川市		119	蔵王町		153	幸手市
	216	下川町		147	亘理町		176	嵐山町
	243	斜里町		148	大郷町		181	白岡市
	247	積丹町		187	石巻市雄勝		369	鶴ヶ島市
	258-1	名寄市風連		230	大崎市松山		23	南房総市千倉
	258-2	名寄市名寄		344	加美町中新田		53-1	横芝光町横芝
	259	室蘭市	19	能代市	53-2		横芝光町光	
	262	苫前町	40	由利本荘市由利	138	大多喜町		
	263	東神楽町	303-1	由利本荘市大内	139	御宿町		
	264	和寒町	303-2	由利本荘市西目	千葉県	154-1	香取市小見川	
	292	石狩市	155-1	潟上市天王		154-2	香取市栗源	
	296	枝幸町歌登	155-2	潟上市飯田川		154-3	香取市山田	
	302	北竜町	177	八郎潟町		164	鋸南町	
	314	岩見沢市栗沢	210-1	にかほ市金浦		240	長南町	
	316	秩父別町	210-2	にかほ市象潟		284	成田市大栄	
	318	長万部町	267	男鹿市		371	いすみ市岬	
	342	上富良野町	317	大潟村		79-1	佐渡市小木	
	360	伊達市	335	大仙市神岡		79-2	佐渡市羽茂	
9	六戸町	351	横手市十文字	101		阿賀野市安田		
青森県	33	東北町	355	三種町八竜	131	糸魚川市能生		
	62	鶴田町	367	湯沢市	146	胎内市中条		
	63	南部町名川	27	酒田市平田	171	燕市		
	159-1	弘前市弘前	172	舟形町	268-1	長岡市和島		
	159-2	弘前市岩木	25	小野町	268-2	長岡市越路		
	202-1	五所川原市金木	52	石川町	270	南魚沼市大和		
	202-2	五所川原市市浦	福島県	133	塙町	300-1	新潟市新津	
	251	平川市尾上		167	柳津町	300-2	新潟市中之口	
	252	中泊町中里		197	田村市滝根	300-3	新潟市味方	
	276	平内町		35	笠間市岩間	315-1	阿賀町三川	
311	十和田市	83	行方市玉造	315-2	阿賀町上川			
岩手県	3	八幡平市松尾	107	石岡市	315-3	阿賀町津川		
	70	大槌町	151	八千代町	338-1	上越市頸城		

道府県	登録 No.	海洋センター名	道府県	登録 No.	海洋センター名	道府県	登録 No.	海洋センター名
新潟県	338-2	上越市安塚	岐阜県	143-1	高山市国府	京都府	362	和束町
	11	高岡市福岡		143-2	高山市清見	大阪府	125	千早赤阪村
	31	南砺市福野		218	御嵩町		203	堺市美原
富山県	43	砺波市	静岡県	130-1	掛川市大東		289	能勢町
	84-1	富山市八尾		130-2	掛川市掛川	2	南あわじ市南淡	
	84-2	富山市大山		130-3	掛川市大須賀	67-1	姫路市家島	
	352	氷見市		132	松崎町	67-2	姫路市安富	
	366	上市町		162	牧之原市相良	86	上郡町	
	石川県	26		白山市鶴来	185	川根本町本川根	123	神河町神崎
28		七尾市	245-1	袋井市袋井	166	香美町香住		
66		穴水町	245-2	袋井市浅羽	175	芦屋市		
310		志賀町富来	269-1	浜松市天竜	183	猪名川町		
福井県	163	あわら市金津	269-2	浜松市三ヶ日	204-1	穴粟市波賀		
	209	大野市	340	磐田市竜洋	204-2	穴粟市千種		
	235	勝山市	350	芝川町	226	新温泉町浜坂		
	236	高浜町	359	沼津市戸田	221	豊岡市出石		
	244	若狭町三方	363	御前崎市	242	養父市おおや		
	323-1	坂井市春江	愛知県	97	東栄町	286	市川町	
	323-2	坂井市丸岡		115	西尾市一色	186	山添村	
	354	越前町朝日		199	新城市作手	256	曾爾村	
山梨県	116	南アルプス市白根		201	清須市春日	32	串本町	
	127-1	甲斐市双葉	228	豊川市小坂井	207	広川町		
	127-2	甲斐市敷島	41	菟野町	347	紀の川市那賀		
	222-1	甲州市勝沼	56	伊賀市大山田	141-1	鳥取市鳥取		
	222-2	甲州市塩山	322	伊賀市阿山	141-2	鳥取市佐治町		
	223	山梨市牧丘	73	桑名市長島	141-3	鳥取市気高町		
	281	中央市玉穂	106	松阪市飯高	141-4	鳥取市鹿野町		
長野県	306	富士河口湖町上九一色	114	伊勢市御園	180	北栄町北条		
	38	大町市	120	熊野市紀和	191	伯耆町岸本		
	128	富士見町	121	志摩市志摩	250	倉吉市関金		
	150	白馬村	168	志摩市浜島	21	出雲市平田		
	213-1	松本市波田	124	いなべ市大安	111	浜田市三隅		
	213-2	松本市四賀	179	亀山市関	113	西ノ島町		
	282	長和町和田	254	大台町	182	雲南市加茂		
	294	伊那市高遠	287	大紀町大内山	212	江津市桜江		
	301-1	飯綱町牟礼	61	米原市山東	237	松江市宍道		
	301-2	飯綱町三水	157	米原市伊吹	298	松江市松江		
	304	飯島町	134	高島市今津	285	美郷町邑智		
	331	中野市豊田	149	高島市高島	1	岡山市建部		
	345	上松町	145	野洲市中主	4	和気町佐伯		
	365	生坂村	277	多賀町	30-1	瀬戸内市長船		
岐阜県	12	可児市	353	近江八幡市安土	30-2	瀬戸内市邑久		
	24-1	恵那市明智	356-1	甲賀市甲賀	48	矢掛町		
	24-2	恵那市山岡	356-2	甲賀市甲南	158	奈義町		
	29	八百津町	361	日野町	173	赤磐市吉井		
	76	中津川市加子母	京都府	100	宮津市	196-1	浅口市鴨方	
	95	中津川市付知		188-1	南丹市園部	196-2	浅口市寄島	
	278	中津川市福岡		188-2	南丹市八木	232-1	井原市井原	
	98	富加町		295-1	京丹波町和知	232-2	井原市美星	
	108	川辺町		295-2	京丹波町瑞穂	253	美作市作東	

道府県	登録 No.	海洋センター名	道府県	登録 No.	海洋センター名	道府県	登録 No.	海洋センター名			
岡山県	257	津山市加茂	愛媛県	64	今治市朝倉	大分県	334-1	由布市湯布院			
	260	備前市吉永		55	愛南町御荘		334-2	由布市挾間			
	288	笠岡市		72	松山市中島		319-1	佐伯市鶴見			
	290	真庭市北房		112	久万高原町久万		319-2	佐伯市弥生			
	290	真庭市蒜山		246	鬼北町広見		319-3	佐伯市宇目			
	293	鏡野町		272	西条市丹原		319-4	佐伯市直川			
	313-1	新見市哲多		54	津野町東津野		319-5	佐伯市上浦			
	313-2	新見市大佐		71	四万十町窪川		319-6	佐伯市蒲江			
広島県	13	府中市	高知県	161	香美市香北		熊本県	324	宇佐市安心院		
	50	三次市吉舎		271	東洋町			336	竹田市直入		
	219	呉市蒲刈		14-1	みやま市瀬高			341	豊後高田市真玉		
	231-1	東広島市黒瀬	14-2	みやま市高田	346			日田市天瀬			
	231-2	東広島市安芸津	36	みやこ町豊津	42	津奈木町					
	239	三原市久井	36	みやこ町犀川	75	湯前町					
	249-1	尾道市向島	92	川崎町	82	宇城市三角					
	249-2	尾道市瀬戸田	109	朝倉市甘木	189	南関町					
	307-1	北広島町芸北	117	飯塚市穂波	190	長洲町					
	307-2	北広島町大朝	178	宗像市玄海	195	南阿蘇村白水					
	332	安芸高田市高宮	229-1	築上町築城	211	美里町砥用					
	330	坂町	229-2	築上町椎田	225	玉名市岱明					
	339-1	安芸高田市八千代	238	久留米市三潁	291	天草市新和					
	339-2	安芸高田市美土里	283	福智町金田	309	あさぎり町免田					
	山口県	68	周防大島町	320	大任町	343	熊本市城南	宮崎県	329	宮崎市田野	
255		田布施町	333	柳川市大和	6	与論町					
280		岩国市美和	358	星野村	22	鹿屋市串良					
305		長門市日置	372	宮若市宮田	34	志布志市有明					
321		萩市むつみ	81	鹿島市	39	南九州市知覧					
徳島県	65	徳島市	佐賀県	193	江北町	45	天城町		鹿児島県	49	日置市東市来
	77	美波町由岐		233	太良町	59	さつま町薩摩				
	91	牟岐町		326	神崎市	60	いちき串木野市				
	122-1	阿南市阿南		118-1	佐世保市小佐々	74	長島町				
	122-2	阿南市那賀川	118-2	佐世保市鹿町	94	阿久根市					
	135	那賀町鷺敷	165	平戸市生月	129	湧水町栗野					
	273	東みよし町三加茂	194	時津町	137	霧島市牧園					
274	海陽町海南	265	五島市岐宿	214	南さつま市坊津						
香川県	46	小豆島町内海	長崎県	308-1	南島原市加津佐	261	奄美市笠利	沖縄県		357	南大隅町佐多
	96	三木町		308-2	南島原市西有家	370	指宿市山川				
	103	三豊市財田		312	壱岐市勝本	217	本部町				
	104	三豊市高瀬		15-1	国東市武蔵	224	名護市				
	110	高松市国分寺	15-2	国東市国見	337	伊江村					
	136	綾川町綾上	16	日田市中津江	348	うるま市勝連					
	160-1	さぬき市寒川	47	日田市大山	合計	434 ヲ所					
	160-2	さぬき市津田	80	杵築市							
愛媛県	5	今治市大三島	大分県	227	中津市耶馬溪						
	37	今治市吉海		327	玖珠町						

7. 平成26年度「B&G全国大会」等参加一覧

ア. 「2014 B&G 全国ジュニア水泳競技大会」

No.	道県名 (人数)	海洋センター名	選手合計	No.	道県名 (人数)	海洋センター名	選手合計
1	北海道 (6)	室蘭市	6	38	石川県 (16)	白山市鶴来	5
2		中泊町中里	1	39		志賀町富来	11
3		鶴田町	4	40		長野県 (10)	松本市波田
4	南部町名川	5	41	大町市	2		
5	青森県 (21)	平川市尾上	5	42	岐阜県 (8)	中津川市加子母	1
6		六戸町	3	43		八百津町	4
7		東北町	2	44		恵那市明智	1
8		弘前市	1	45		恵那市山岡	2
9	福島県 (13)	石川町	4	46	三重県 (35)	桑名市長島	17
10		塙町	9	47		志摩市浜島	5
11	茨城県 (56)	石岡市	5	48		松阪市飯高	4
12		小美玉市玉里	5	49	大紀町大内山	8	
13		かすみがうら市千代田	6	50	いなべ市大安	1	
14		笠間市岩間	23	51	滋賀県 (29)	高島市今津	15
15		北茨城市	7	52		高島市高島	14
16		行方市玉造	1	53	兵庫県 (46)	姫路市家島	6
17		五霞町	8	54		南あわじ市南淡	14
18	常陸太田市水府	1	55	猪名川町		5	
19	栃木県 (18)	那須塩原市塩原	1	56		上郡町	9
20		芳賀町	17	57	篠山市	1	
21	群馬県 (36)	玉村町	34	58	丹波市山南	10	
22		みなかみ町新治	2	59	香美町香住	1	
23	埼玉県 (48)	久喜市栗橋	7	60	鳥取県 (5)	北栄町北条	5
24		鶴ヶ島市	4	61	島根県 (8)	浜田市三隅	4
25		白岡市	13	62		松江市宍道	4
26		松伏町	15	63	岡山県 (34)	井原市井原	16
27		吉見町	5	64		鏡野町	7
28		嵐山町	4	65		津山市加茂	8
29	大多喜町	5	66	赤磐市吉井		3	
30	千葉県 (45)	御宿町	3	67	広島県 (10)	呉市蒲刈	2
31		鋸南町	34	68		坂町	4
32		横芝光町光	2	69		府中市	4
33		横芝光町横芝	1	70	愛媛県 (10)	愛南町御荘	10
34	富山県 (35)	砺波市	15	71	高知県 (9)	四万十町窪川	9
35		富山市八尾	14	72	福岡県 (5)	朝倉市甘木	5
36		氷見市	3	73	熊本県 (1)	宇城市三角	1
37		上市町	3		合計 23道県連絡協議会 73海洋センター 504人		

イ.「B&G 杯全国少年少女カヌー大会」(参加クラブ)

No.	クラブ名	B&Gクラブ	参加人数	道府県
1	南富良野カヌー協会		1	北海道
2	本荘ジュニアカヌークラブ		3	秋田県
3	二本松キッズカヌークラブ		2	福島県
4	かみすスポーツクラブ		7	茨城県
5	戸田ドルフィンカヌースポーツ少年団		1	埼玉県
6	B&G香取市小見川海洋クラブ	○	8	千葉県
7	佐倉市カヌー協会		8	
8	松戸市カヌー協会		2	
9	萌明幼児館カヌークラブ		6	神奈川県
10	マホロバ・ホンダカヌースクール		2	
11	湘南カヌースポーツクラブ		2	
12	上九一色カヌークラブ	○	6	山梨県
13	この指とまれ☆NAUMANN`S		8	長野県
14	早乙女湖カヌークラブ		7	富山県
15	石川県カヌー協会 かけはし海洋クラブ	○	11	石川県
16	掛川総合スポーツクラブ		1	静岡県
17	B&G掛川海洋クラブ	○	4	
18	豊田市カヌー協会		3	愛知県
19	四日市カヌークラブ		1	三重県
20	中部30カヌークラブ		3	岐阜県
21	オーパルカヌーチーム		6	滋賀県
22	久美浜ジュニアカヌークラブ		8	京都府
23	和知ジュニアカヌークラブ	○	4	
24	倉吉市関金イルカ・カヌークラブ	○	7	鳥取県
25	鳥取ジュニア・レーシングカヌークラブ		5	
26	大洲カヌークラブ		3	愛媛県
27	B&G飯塚穂波海洋クラブだいが支部	○	5	福岡県
28	柳川市大和B&G海洋センター	○	2	
29	B&G神埼カヌークラブ	○	1	佐賀県
30	高田レーシング(豊後高田市真玉)	○	3	大分県
31	末吉カヌークラブ		4	鹿児島県
合 計			134	—

ウ. 「2014B&G OP 級ヨット大会」(参加クラブ)

東日本大会(愛知県蒲郡市 豊田自動織機 海陽ヨットハーバー)

No.	クラブ名	県名	出場クラス別人数				合計
			A	B	C	SG	
1	夢の島ヨットクラブ	東京都	0	1	2	0	3
2	藤沢市青少年セーリングクラブ	神奈川県	4	0	0	0	4
3	江ノ島ヨットクラブジュニア	神奈川県	5	0	1	0	6
4	静岡県セーリング連盟浜名湖ジュニアクラブ	静岡県	4	2	1	0	7
5	B&G掛川海洋クラブ	静岡県	0	0	1	0	1
6	石川羽咋ジュニアセーリングクラブ	石川県	0	5	0	0	5
7	丸玉セーリングクラブ	愛知県	1	0	0	1	2
8	海陽海洋ジュニアクラブ	愛知県	7	5	1	2	15
9	B&Gなごや海洋クラブ	愛知県	2	2	1	2	7
10	碧南セーリングクラブ	愛知県	0	0	0	5	5
11	三重県ヨット連盟ジュニアヨットクラブ	三重県	3	3	5	0	11
12	琵琶湖ジュニアヨットクラブ	滋賀県	6	5	3	1	15
13	宮津ジュニアヨットクラブ	京都府	1	0	0	0	1
14	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	兵庫県	2	2	1	0	5
15	B&G伊丹海洋クラブ	兵庫県	0	1	1	0	2
16	和歌山ジュニアヨットクラブ	和歌山県	1	1	0	0	2
合 計			36	27	17	11	91

西日本大会(大分県別府市 北浜ヨットハーバー)

No.	クラブ名	県名	出場クラス別人数			合計
			A	B	C	
1	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	兵庫県	3	0	0	3
2	和歌山ジュニアヨットクラブ	和歌山県	1	0	0	1
3	広島セーリングスクール	広島県	8	5	4	17
4	光セーリングクラブ	山口県	2	0	0	2
5	B&G高松海洋クラブ	香川県	1	0	0	1
6	B&G大三島海洋クラブ	愛媛県	2	0	0	2
7	B&G新居浜海洋クラブ	愛媛県	2	0	0	2
8	北九州ジュニアヨットクラブ	福岡県	2	1	1	4
9	B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	福岡県	4	5	2	11
10	朝倉市甘木B&G海洋クラブ	福岡県	0	0	3	3
11	長崎ジュニアヨットクラブ	長崎県	2	3	2	7
12	B&G佐世保海洋クラブ	長崎県	0	0	2	2
13	B&G時津海洋クラブ	長崎県	4	0	1	5
14	B&Gハウステンボス町ジュニア海洋クラブ	長崎県	3	0	0	3
15	B&G杵築海洋クラブ	大分県	0	0	5	5
16	B&G別府海洋クラブ	大分県	2	5	4	11
17	鹿児島ジュニアヨットクラブ	鹿児島県	7	5	2	14
合 計			43	24	26	93

8. 平成26年度 海洋センター現況調査地ほか

ア. 海洋センター現状調査地（62ヶ所）

No.	調査先	調査日	調査目的
1	みやま市高田（福岡県）	4月14日	海洋センター視察と運営者面談
2	阿南市（徳島県）	4月15日	市長表敬訪問、阿南市内海洋センター視察
3	滝川市町（北海道）	4月24日	海洋センター視察と運営者面談
4	上富良野町（北海道）	4月24日	海洋センター視察と運営者面談
5	十和田市内（青森県）	4月25日	東北ブロック指導員研修会
6	南部町名川（青森県）	4月25日	町長表敬訪問、海洋センター視察と運営者面談
7	七尾市（石川県）	5月13日	第1回北陸ブロック連協理事担当者会議出席
8	池田町（福井県）	5月13日	海洋センター視察と運営者面談
9	永平寺町松岡（福井県）	5月13日	海洋センター視察と運営者面談
10	大町市（長野県）	5月14日	修繕成果確認、海洋センター視察と運営者面談
11	御代田町（長野県）	5月14日	プール休止海洋センター視察と運営者面談
12	恵那市明智（岐阜県）	5月14日	海洋センター視察と運営者面談
13	恵那市山岡（岐阜県）	5月14日	海洋センター視察と運営者面談
14	中津川市付知（岐阜県）	5月15日	海洋センター視察と運営者面談
15	中津川市福岡（岐阜県）	5月15日	海洋センター視察と運営者面談
16	東みよし町三加茂（徳島県）	5月16日	教育長との面談、海洋センター視察と運営者面談
17	出雲市平田（島根県）	5月21日	海洋センター視察と運営者面談
18	松江市松江（島根県）	5月21日	海洋センター視察と運営者面談
19	与論町（鹿児島県）	5月23日	南九州ブロック指導員研修会
20	紀の川市那賀（和歌山県）	5月23日	指導者会設置のための海洋センター視察と運営者面談
21	豊後高田市真玉（大分県）	5月30日	海洋センター視察と運営者面談
22	国東市国見（大分県）	5月30日	教育長面談、海洋センター視察と運営者面談
23	中津市耶馬溪（大分県）	5月30日	海洋センター視察と運営者面談
24	宮古島市伊良部（沖縄県）	6月9日	海洋センター施設の現状確認、市長面談
25	甲州市塩山（山梨県）	6月26日	海洋センター視察と運営者面談
26	秋田市雄和（秋田県）	7月1日	海洋センター（上屋付プール）視察と運営者面談
27	仙台市泉（宮城県）	7月7日	市民局表敬訪問、海洋センター視察と運営者面談
28	登米市（宮城県）	7月8日	市内海洋センター（中田・米山・迫）視察と運営者面談
29	南島原市西有家（長崎県）	8月19日	海洋センター視察と運営者面談
30	新見市哲多（岡山県）	8月26日	市長面談、哲多海洋センタープール廃止のための現況調査
31	新見市大佐（岡山県）	8月26日	海洋センター視察と運営者面談
32	久喜市栗橋（埼玉県）	10月14日・17日	対抗事業視察
33	上松町（長野県）	11月14日	中部ブロック連協第1回幹事担当者会議出席
34	広川町（和歌山県）	11月20日	近畿ブロック連協担当者会議出席
35	一関市（岩手県）	11月27日	東北ブロック連協幹事会議出席、一関市藤沢海洋センター視察
36	富山市（富山県）	12月3日	市長表敬訪問
37	砺波市（富山県）	12月3日	教育長との面談、海洋センター視察と運営者面談
38	上市町（富山県）	12月4日	町長表敬訪問、海洋センター視察と運営者面談
39	芳賀町（栃木県）	12月5日	町長表敬訪問、海洋センター視察と運営者面談
40	国東市武蔵（大分県）	1月9日	海洋センター視察と運営者面談

No.	調査先	調査日	調査目的
41	北杜市（山梨県）	1月13日	市長面談、海洋センター視察
42	上松町（長野県）	1月14日	町長面談、海洋センター視察
43	新宮市熊野川（和歌山県）	2月1日	市長面談（運営改善）、海洋センター視察
44	八女市（福岡県）	2月6日	市長面談（運営改善）、海洋センター視察
45	みやま市瀬高（福岡県）	2月6日	海洋センター視察と運営者面談
46	久留米市三潂（福岡県）	2月6日	海洋センター視察と運営者面談
47	今治市大三島（愛媛県）	2月17日	海洋センター視察と運営者面談
48	今治市朝倉（愛媛県）	2月18日	海洋センター視察と運営者面談
49	松山市内（愛媛県）	2月19日	愛知県連協指導員研修会出席
50	高浜町（福井県）	2月26日	海洋センター視察と運営者面談
51	能勢町（大阪府）	2月26日	町長表敬訪問、海洋センター視察と運営者面談
52	篠山市（兵庫県）	2月27日	市長面談（運営改善）、海洋センター視察
53	福井市内（福井県）	2月27日	第2回北陸ブロック連協理事担当者会議出席
54	志摩市浜島（三重県）	3月3日	海洋センター視察と運営者面談
55	志摩市志摩（三重県）	3月4日	海洋センター視察と運営者面談
56	いなべ市大安（三重県）	3月4日	海洋センター視察と運営者面談
57	いなべ市（三重県）	3月5日	三重県連協担当者会議出席
58	平内町（青森県）	3月12日	町長表敬訪問、海洋センター視察と運営者面談
59	東北町（青森県）	3月13日	町長表敬訪問、海洋センター視察と運営者面談
60	上松町（長野県）	3月16日	中部ブロック連協第2回幹事担当者会議出席
61	西尾市一色（愛知県）	3月17日	海洋センター視察と運営者面談
62	香取市（千葉県）	3月20日～21日	海洋センター運営ノウハウの取得のための研修

イ. 平成26年度 修繕助成決定書授与式（24ヶ所）

※ 修繕助成金額が1,000万円以上となる自治体

No.	実施場所	実施日	主な出席者
1	みやま市瀬高（福岡県）	4月14日	みやま市長、副市長、教育長 他
2	阿久根市（鹿児島県）	4月17日	阿久根市長、副市長、教育長 他
3	北竜町（北海道）	4月24日	北竜町長、副町長、教育長 他
4	東神楽町（北海道）	4月25日	東神楽町長、副町長、教育長 他
5	志賀町富来（石川県）	5月13日	志賀町長、副町長、教育長 他
6	恵那市山岡（岐阜県）	5月14日	恵那市長、副市長、教育長 他
7	中津川市加子母（岐阜県）	5月15日	中津川市長、副市長、教育長 他
8	那賀町鷺敷（徳島県）	5月16日	那賀町長、教育長 他
9	岩国市美和（山口県）	5月20日	岩国市長、副市長、教育長 他
10	広川町（和歌山県）	5月22日	広川町長、教育委員長、議長 他
11	津奈木町（熊本県）	5月26日	津奈木町長、副町長 他
12	宇佐市安心院（大分県）	5月30日	宇佐市長、副市長、教育長 他
13	天城町（鹿児島県）	6月21日	天城町長、副町長、教育長 他
14	甲州市勝沼（山梨県）	6月26日	甲州市長、副市長、教育長 他
15	男鹿市（秋田県）	7月2日	男鹿市長、教育長 他

No.	実施場所	実施日	主な出席者
16	巨理町（宮城県）	7月7日	巨理町長、教育長 他
17	赤磐市吉井（岡山県）	7月15日	赤磐市長、副市長、教育長 他
18	五島市岐宿（長崎県）	7月16日	五島市長、支所長 他
19	鳥取市佐治（鳥取県）	7月17日	鳥取市長、教育長、他
20	鋸南町（千葉県）	7月29日	鋸南町長、副町長、教育長 他
21	南島原市加津佐（長崎県）	8月19日	南島原市長、副市長、教育長 他
22	南房総市千倉（千葉県）	11月12日	南房総市長、副市長、教育長 他
23	国東市国見（大分県）	1月9日	国東市長、副市長、教育長 他 ※災害復旧修繕
24	うるま市勝連（沖縄県）	1月21日	うるま市長、副市長、教育長 他 ※災害復旧修繕

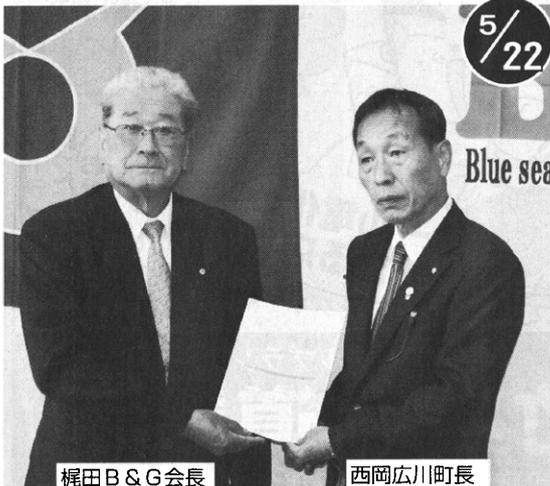
ウ. リニューアルオープン式典（14ヶ所）

No.	開催地	開催日	修繕年度（主な出席者）
1	湧水町栗野（鹿児島県）	4月12日	H25通常修繕・湧水町長、教育長、議長 他
2	愛南町御荘（愛媛県）	4月26日	H25通常修繕・愛南町長、教育長、議長、近平奈緒子氏他
3	下川町（北海道）	6月6日	H25通常修繕・下川町長、副町長、教育長、議長、千葉すず氏他
4	五霞町（茨城県）	6月14日	H25通常修繕・五霞町長、副町長、教育長、議長、体協会長、議員他
5	久喜市栗橋（埼玉県）	6月28日	H25通常修繕・久喜市長、教育長、全国指導者会副会長、伊藤華英氏他
6	米原市伊吹（滋賀県）	6月29日	H25通常修繕・米原市長、教育長、源 純夏氏他
7	洋野町種市（岩手県）	7月5日	H25災害復旧修繕・洋野町長、副町長、教育長 ブロック幹事担当者他
8	津野町東津野（高知県）	7月12日	H25通常修繕・津野町長、教育長、議会議長、千葉すず氏他
9	湯前町（熊本県）	7月24日	H25通常修繕・湯前町長、副町長、教育長 他
10	東神楽町（北海道）	8月24日	H25通常修繕・東神楽町長、副町長、教育長 他
11	宇佐市安心院（大分県）	2月1日	H25通常修繕・宇佐市長、教育長、議会副議長 他
12	津奈木町（熊本県）	2月6日	H25通常修繕・津奈木町長、副町長、教育長 他
13	志賀町富来（石川県）	3月21日	H25通常修繕・志賀町長、副町長、教育長 議長 体協会長 他
14	鋸南町（千葉県）	3月28日	H25通常修繕・鋸南町長、副町長、教育長 他

■ 海洋センター修繕決定書授与式

◎ 和歌山特報 (2014.06.01)

**広川町B&G海洋センター
リニール助成金1810万円**



▽：昭和60年に「B&G財団」から広川町に無償譲渡された広川町B&G海洋センター体育館のアリーナ天井と屋根のリニューアルの助成金交付が決定。

5月22日、同町役場で「修繕助成決定通知書」の授与式が行われ、梶田功B&G財団会長から西岡利記町長に「通知書」が手渡された。

工事はアリーナ天井のリニューアル工事など。助成金額1810万円。同体育館の大規模なリニューアルは建設以来はじめて。近く工事にかかる予定。

B & G財団会長から西岡町長へ

「B & G財団」はポートルースの収益金で、全国の市町村に地域海洋センター（プール・ボートハウス・体育館）を建設、地元自治体に無償譲渡などの活動を通じて青少年の健全育成、国民の心とからだの健康づくりを推進している。

今年度は21道府県30市町村へ施設修繕助成金5億6110万円を交付する。

梶田B & G会長 西岡広川町長

◎ 徳島新聞 (2014.05.17)



坂口町長に決定通知書を手渡す菅原専務理事(左)＝那賀町役場

体育館の改修費贈る

B & G財団 那賀で授与式

B & G財団（東京）は、那賀町が所有する驚敷B & G海洋センター体育館（同町百合）の改修費2130万円を町に助成した。

町役場であった授与式では、財団の菅原専務理事が「町民の健康と豊かなまちづくりのため、施設を末永く活用してほしい」と述べ、坂口博文町長に助成の決定通知書を手

渡した。

体育館は1994年、財団が4億736万円をかけて建設し、97年に町へ無償で譲渡した。ソフトバレーボールや剣道などを楽しむ住民が頻繁に利用しており、屋根や床の傷みが目立っている。

財団は2014年度、那賀町を含む全国30市町村の31施設に助成する。（新居拓也）

出席した。

かつて日本財団で、元会長の作家曾野綾子さんと働いた経験のあるB & G財団の菅原専務理事が「指導者の見識」と題して講演。情報公開とコスト管理を徹底した曾野さんの運営手腕に触れ「公金を扱っていると意識を職員にたたき込んだ人」と紹介した。

海洋センター
連絡協10周年
徳島市で式典

四国ブロック地域海洋センター連絡協議会の設立10周年記念式典が15日、徳島市のグラウンドパレス徳島で開催、関係者ら約90人が出席した。

B & Gは、海洋での自然体験を通して青少年の健全育成を目指している。連絡協議会は、B & Gから温泉水施設などを譲渡された市町村で構成し、県内では徳島、阿南両市、牟岐町など2市5町が加盟している。（乾栄里子）

◎ 岩手日報 (2014.07.06)

海に親しむ拠点再建

洋野・種市のB&Gセンター

東日本大震災の津波で全壊した洋野町種市のB&G海洋センターが再建され、落成式が5日、行われた。震災で全壊した東北のセンター7カ所のうち再建は初めて。体験会もにぎわった。



カヌーを楽しむ子どもたち

児童ら約120人が参加。B&G財団の菅原悟志専務理事が「海の楽しさを体験し、健康のために活用してほしい」とあいさつし、マリンスポーツの拠点の復活を祝った。体験会も開かれ、子どもたちは早速、バナナボートやカヌーなどを楽しんだ。種市高海洋開発科は南部もぐりを実演し、ヘルメット姿の南部ダイバーとの記念撮影も行われた。一関市から訪れた対馬康祐君(室根東小5年)は「初めてバナナ

東北全壊7カ所で初

児童らスポーツ楽しむ

ボートに乗った。スリルがあつて楽しかった」と笑顔を見せた。同財団は建物の工事費1千万円と器材購入費400万円を助成。県内のセンターは震災で4カ所が全壊した。

洋野町のセンターは8月下旬まで営業。時間は午前9時〜午後4時。利用は数日前までに予約が必要。問い合わせは町教委生涯学習課(0194・65・4290)へ。



南部ダイバーとの触れ合いも人気を集めた

新装ぴかぴかお祝いだ

田中雅美さん 水泳教室



児童に泳ぎ方のコツを伝授する田中雅美さん＝志賀町富来B&G海洋センターで

志賀の屋内プール施設

四月一日に新装オープンする志賀町富来領家町の屋内プール施設「富来B&G海洋センター」で二十二日、記念式典があり、改修工事の完了を祝った。シドニー五輪競泳銅メダリストの田中雅美さん

「古い」とあいつ。改修費の一部を助成したB&G財団（東京）の菅原悟志専務理事らとテープカットした。田中さんが平泳ぎで泳ぎ初めをした。教室には町内の児童四十六人が参加。田中さんは「教えるのを楽しみにやってきました」と語り掛け、笑顔を絶やさずに泳ぎのコツを伝授した。手を添えてもらってクロールを練習した児童は、うれしそうに表情を浮かべた。田中さんは「プールは明るくて水も軟らかく、すてき。ぜひ多くの人に使ってほしい」と呼び掛けた。施設は二十四日から六日間、無料開放される。（渡辺大地）

プール改修オープン

米原 五輪銅の源さん教室



源さんの指導を受ける子どもたち＝米原市春照の市伊吹B&G海洋センターで

米原市春照の市伊吹B&G海洋センターが、二十五日、改修オープン記念式典があった。シドニー五輪女子四百メートル銅メダルの源純夏さんによる水泳教室

も開かれた。二十五日六コースのプールは完成後二十五年がたち、老朽化が目立っていたため、昨年度、市が千九百六十二万円をかけて全面改修。うち千八十万円は公益財団法人「B&G財団」の助成を活用した。式典で平尾道雄市長が「夢と希望に満ちた健康づくりの拠点として愛されてほしい」とあいさつ。市キャラクター「ホテルン親子」も駆けつけ、ぴかぴかになった設備を祝った。水泳教室には市内の小学四～六年生二十人が参加。源さんがお手本の泳ぎを見せると歓声が上がった。ペット

ボトルを投げる救助法も紹介された。大原小五年山田翔大君は「きれいで泳ぎやすかった」と話していた。（河辺嘉奈子）

■ アドバンスト / アクア・インストラクター養成研修

◎ 沖縄タイムス(2014.06.10)

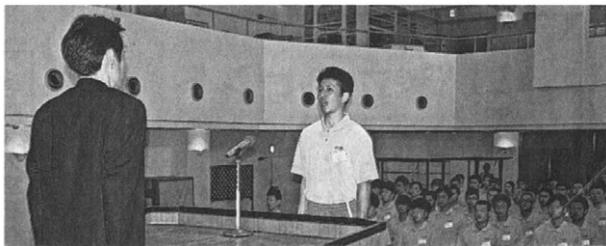
海洋レク指導員養成

本部 32都道県85人が研修

【本部】B&G海洋センターの第16回アドバンスト／アクア・インストラクター養成研修が始まっている。海洋性レクリエーションの指導員養成が目的で5月30日に開講、1都1道30県の自治体から派遣された18〜54歳までの85人がおよそ1カ月間、町浜元のマリニピアザオキナワで研修を受ける。講師はオリンピック出場経験者や世界で活躍し

たアスリートらが務める。B&G財団の菅原悟志専務理事は「講師からスポーツに対する考え、姿勢を肌で感じ学んでほしい。慣れない環境だが、指導者になるために常に自分に厳しく、何事にも積極的に取り組んでほしい」と激励した。

研修生代表で福井県大野市の堀利考さんは「全国から集まった仲間と切磋琢磨し、地



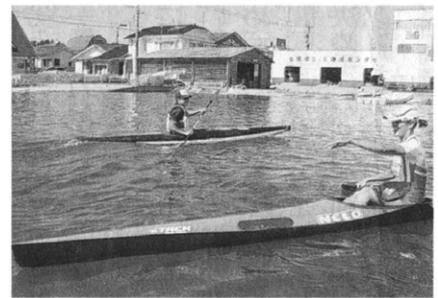
県外からも参加したアドバンスト／アクア・インストラクター養成研修の開講式＝本部町浜元のマリニピアザオキナワ

域住民から愛される指導員になることを誓います」と決意した。
(仲間里枝通信員)

■ レベルアップ研修会

◎ 北國新聞(2014.09.08)

わがまち通信



五輪出場選手から パドルさばき学ぶ

七尾でカヌー研修

ブルーシー・アンド・グリーンランド財団のカヌー研修会＝写真＝は7日、七尾市のB & G海洋センターで開かれ、石川、富山などの指導者22人が、ロンドン五輪の女子500mカヤックシングルなどに出場した大村朱澄さん(24)＝早大＝から指導を受けた。

大村さんは参加者のパドルさばきを見ながら「上半身全体を使ってパドルを動かして」「大きく動かして水をつかむことを意識して」などと助言した。参加者は6日、海へ転落した人の救助法などを学んだ。

■ 海を守る植樹教育事業

◎ 読売新聞
(2014.08.20)



苗木を丁寧に植え付ける生徒ら（愛南町御荘平城で）

愛南町 ウバメガシなど植樹

B&G 森づくり

愛南町の木・ウバメガシなど20種類約400本の苗木を、町立東海小学校の児童や町民ら約50人が19日、同町御荘平城の町御荘B&G

G海洋センターに植樹した。「その土地本来の樹木による森作り」を推奨しているB&G財団が全国では8か所で開いており、県内

では同町が初めて。開会式で清水雅文町長が「植えた木に負けないよう、皆さんも元気に成長して」と呼び掛けた。参加者は、30〜50坪に育ったタブノキやヤマモモなどの苗木を植え、土をかぶせていった。

東海小は2012年度から総合学習でウバメガシのドングリを拾って苗木を育てており、この日は5本を植えた。町立御荘中学1年、山本音羽さん(12)は「順調に育つてと願いながら植えた。地球の環境がよくなっ

てほしい」と話した。

◎ 埼玉新聞
(2014.10.06)



植樹をする子どもたち『松伏町大川戸の県営まつぶし緑の丘公園（B&G財団提供）』

森の大切さ学ぶ 常緑樹62本植樹

採、子ども20人参加

森の大切さを学んでもらおうと、松伏町と町教育委員会とは同町大川戸の県営まつぶし緑の丘公園で、ブルースー・アンド・グリーランド(B&G)財団「海を守る植樹教育事業植樹祭」を開催し

た。事業は横浜国立大学名誉教授で、地球環境戦略研究機関国際生態学センター長の宮脇昭氏が考案した宮脇方式と呼ばれる植樹方式をもとにB&G財団が全国で進めている。町のスポーツ少年団に所属する子どもたちや保護者ら約200人が参加。宮脇氏の指導のもと、里山ゾーン約200平方メートルにシラカシやスタジイなど県内に古くから植生している常緑樹を主に16種類682本植樹した。

宮脇方式は地元本来の樹種を混植・密植することによって、短期間で森にできることが特徴とされる。

町立松伏第二小学校4年の石川紫音さんは「この公園にはよく遊びに来るので、これからも植えた苗木を守ってほしい」と話していた。

(宮波里枝)

◎ 高知新聞
(2014.10.26)



丁寧に苗木を植える児童（津野町白石甲）

「立派な森に」と 児童が苗木植樹

津野町

【須崎】豊かな森を育てようと、高岡郡津野町の全3小学校の4年生46人が24日、同町白石甲の体験交流施設「承葉塾」近くに、シラカシやスタジイなど25種類計340本の苗木を植樹した。

ブルースー・アンド

・グリーンランド(B&G)財団が全国で実施している事業の一環。自然の森に近づけるため、財団職員らが地元樹木を事前に調査し、落葉樹や常緑樹などさまざまな種類の苗木を準備した。

子どもたちは、最初に苗木の根を水に浸すことや、自然の形状に近づけることから、列状でなくバラバラに植えることなどを学んでから丁寧に植樹。「大きく育ってほしい」「植えるのが楽しかった」などと笑顔で話していた。

(山本 仁)

■ 第7回 B&G 全国サミット

◎ 読売新聞 (2015.01.29)

◆ B&G全国サミットに770人

マリンスポーツなどを通じて青少年らの健全育成を支援するブルーシー・アンド・グリーンランド(B&G)財団は28日、「第7回B&G全国サミット」を東京都港区で開いた。45道府県の367市町村から首長ら約770人が参加し、東日本大震災の被災地の復旧・復興への支援を継続することなどを盛り込んだ共同宣言を採択した。

同財団によると、震災の津波で岩手、宮城、福島の前3県にあるプールや体育館などが全壊し、現在も使用できない施設があるため、復旧費用の一部を負担する支援を続けるという。

◎ 埼玉新聞 (2015.02.01)



全国367自治体の首長ら770人が出席したB&G全国サミット
東京都港区の笹川記念館国際会議場

B&G全国サミット 県内9市町が出席

久喜市など表彰

ブルーシー・アンド・グリーンランド(B&G)財団(東京都港区、梶田功会長)は28日、総合型スポーツ施設「B&G海洋センター」のある市町村関係者を集めた全国サミットを、都内の国際会議場で

開催した。同財団によると参加したのは全国367自治体で首長らを含む計770人。うち県内は久喜市、白岡市、幸手市と吉見町、神川町、松伏町の各市・町長をはじめ、合わせて9市町から教育長や担当職員らが出席した。

サミットでは、全国472ある海洋センターのうち利用者数や活動実績などの評価が「特A」となった自治体を表彰。埼玉では久喜、白岡、嵐山、松伏の4市町が選ばれた。また各地の海洋センターの活用事例が発表されたほか、日本財団の笹川陽平会長が「ハンセン病を考える・日本と世界の今」と題して基調講演を行った。

青少年の健全育成を目的に1973年に設立されたB&G財団は、地域の健康づくりの場として艇庫・プール・体育館からなる「B&G海洋センター」をポートレース収益金で建設、全国390の自治体に無償譲渡した。現在、年間利用者数は1千万人を超える。県内にも艇庫を除く9カ所がある。(小川直己)

◎ 教育新聞 (2014.12.18)

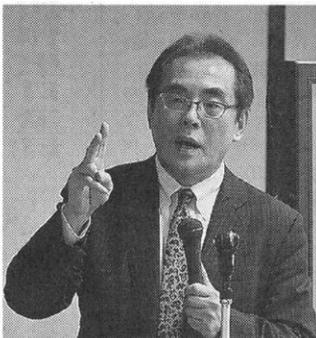
児童が道端で倒れた高齢者救う

青少年の健全育成をはじめとする地域の健康づくり事業を推進するB & G財団(梶田功会長)はこのほど、東京都港区の日本財団ビルで、「尊い命を守るために～事例から学ぶ防災教育」をテーマに、第11回B & G全国教育長会議を開催。同財団が建設し、地元自治体に無償譲渡した海洋センター所在市町村の教育長38人を含む教育関係者62人が集まり、事例発表をもとに討議し、地域における防災教育の重要性を再確認した。

地域の防災教育を討議

B & G財団が全国教育長会議

日頃の積み重ねが大切



防災研究の第一人者である片田教授が講演

■避難三原則と自然への津波防災教育に学ぶ」と題した基調講演では、片田敏孝群馬大学大学院理工学府教授が、津波の防災教育を続けたことで同

市の多くの子どもたちが東日本大震災の津波から逃げるこができたと言明。「避難三原則」(①想定に捉われない②そのときにできる最善を尽くす③躊躇なく自ら率先して避難する)を押さえた上で、「津波、災害は必ずやってくるが、常に恐れている必要はない。その時だけ避難三原則に則りしっかりと避難すること、その地に住まう人の自然への作法」と、自然災害に対して「正しく



恐れる」「主体的に行動する」ことの重要性を指す。同会議では、5つの自治体による防災教育の事例が発表された。

兵庫県篠山市の前川修哉教育長は、阪神・淡路大震災の教訓をもとに兵庫県が平成12年に設立した震災・学校支援チーム「EARTH」(Earth now And...:各地の実践が報告された

摘。「防災教育を伝承しながら自然災害に立ち向かう社会文化を築いていくことが大切」と締めくくった。

■神戸の「EARTH」活動

Rescue Team by school staff in Hyogo)の活動を報告。

現在、チームは、研修で防災の専門知識と実践的な対応力を備えた県の教職員150人で構成されており(同市からは6人)、メンバーは防災教育推進リーダーとして地域の防災訓練の講師など務めるほか、災害時には被災地の要請に基づいて現地に赴き、学校再開や被災児童の心のケアにあたることになっている。

東日本大震災の発生後には、同市のメンバーが現地の学校に赴いて被災児童の心のケアや授業再開に向けた支援を行った。

また学校での防災教育としてAED体験を地域の人たちと一緒に進めており、いざというときに「自分で何ができるか」について、児童が地域の人たちとともに考える機会を設けている。

集団下校していた市内の小學生4人が、道端に倒れている高齢者を見つけた、即座に声掛けをしな

り留めようができたとい、これも日頃の防災教育のおかげであり、防災教育は体験の積み重ねが大切」と指摘した。

寄付金総額 4,477,852 円

平成26年度の募金活動にご協力いただきありがとうございました

全国の海洋センター・海洋クラブで募金活動を実施

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、東北から関東までの太平洋沿岸域を中心に、未曾有の被害をおよぼしました。31カ所の海洋センター所在自治体も大きな被害を受け、そのうち全壊した7カ所を含む21カ所の海洋センターが被災。B&G財団では、日本財団・ボートレース業界のご理解をいただき、緊急復旧修繕を実施しています。

被災地の復興に尽力している日本財団では、震災から3年目となる平成26年に、被災地の復興に向けた募金活動「忘れないで! 311」を展開。B&G財団も本趣旨に賛同し、全国の海洋センター・海洋クラブへ募金の協力を呼びかけました。



海洋センターでの募金活動

全額を日本財団「ROADプロジェクト 東日本大震災支援基金」へ寄付いたしました

震災から3年が過ぎ、被災地は「復興のステージ」に入ったといわれ、多くの笑顔がメディアで取り上げられています。未だたくさんの方々が避難生活を余儀なくされています。復興には、悲しみや苦しみに耐えている方々に寄り添いながら、長期的に支援を続けていくことが必要です。

平成26年10月13日までに全国各地からお預かりした募金の総額は4,477,852円。その全額を募金の受け皿である日本財団の「ROADプロジェクト 東日本大震災支援基金」にお届けするため、募金された方々に代わってB&G財団専務理事の菅原悟志から日本財団の笹川陽平会長へ目録をお渡ししました。



B&G財団菅原専務理事から
日本財団の笹川会長へ目録
が手渡された

日本財団 笹川陽平会長からのお礼の言葉

「この度は多額の寄付をいただき、ありがとうございます。現在でも困難な生活を強いられている人がたくさんいることを忘れないでください。多くの方々が支援を続けていることに、被災した方々も大変勇気づけられていると思います。どうかこれからも、被災した方々の生活が一日も早く元の生活に戻れるように、東日本の復興に力をお貸ししたいと願います」

B&G 財団では継続して寄付金の募集を行っています
みなさまのご支援ご協力をお願いいたします



地域の元気を
応援する



地域の指導者会を
支援する



あなたの力を 「寄付」という カタチで 行動へ!!

大切な子供たちを水の
事故から守りたい



子供たちの
体験格差
をなくしたい



日本の未来を担う子供たちを、
体験豊かに元気よく育てたい。

大切な子供たちを悲しい水の事故から守りたい。

ハンディキャップを持つ子供たちや

親のいない子供たちにも、

同じ社会のなかで伸び伸びと健やかに活動してもらいたい。

こんな素敵な未来を皆さんと一緒につくりていきたい。

それがB&G財団の願いです。

子供からお年寄りまで、笑顔をつなげていくために。

寄付の詳細は
こちら!

www.bgf.or.jp

平成26年度 B&G財団 活動実績報告書

発行日: 平成27年7月1日 2,100部

編集・制作: 公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

〒105-8480 東京都港区虎ノ門3-4-10 虎ノ門35森ビル9F

TEL 03-6402-5310(代表) FAX 03-6402-5315

URL: <http://www.bgf.or.jp/>